

福島大学

農学群食農学類

学修案内

2026

(令和8年度入学者用)

目 次

1. 福島大学の教育目標	1
2. はじめに（学類長のことば）	3
3. 履修に関する基本的事項	5
4. 研究倫理に関して	15
5. 福島大学のカリキュラム	17
6. ラーニング・ポートフォリオ について	21
7. 教務関係日程表	27
8. 基盤教育授業科目一覧表	29
9. 接続領域の履修について	38
10. スタートアップセミナーの履修について	42
11. 英語、英語以外の外国語の履修について	44
12. 教養領域の履修について	58
13. キャリアモデル学習の履修について	67
14. 問題探究領域の履修について	69
15. 問題探究セミナー I の履修について	72
16. 食農学類のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	
ディプロマ・ポリシー	75
カリキュラム・ポリシー	77
17. 食農学類における教育課程の特色について	
学類共通専門基礎教育	82
コース専門教育	84
基盤教育	88
自由選択科目	89
18. 学外実習について	
学外実習	91
実習の実施体制	94

19. 学修教育方法

本学類における学修教育方法	97
学生の達成度評価・到達目標と進級・卒業要件.....	100
学修結果の保証人（保護者等）との共有	102
履修基準表	103

20. 教員免許

免許状取得のための履修基準	113
免許状取得への流れ	119
教育実習	123

21. 食農学類で取得可能な資格

取得可能な資格.....	127
受験資格等の取得が可能な資格.....	146

22. 「地域×データ」実践教育プログラムの履修について

23. グローバル特修プログラムの履修について

24. 「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの 履修について

25. 他学類の専門教育科目等の履修について

26. 転学類について

27. 他大学等及び大学以外の教育施設等における学修の 単位認定について

28. 大学間交流協定に基づく派遣交換留学について

29. 履修上の諸手続きについて

30. 関係規程等

31. 各種問い合わせ窓口・ 福島大学案内図.....

学修案内を読む前に（重要）

この学修案内には、福島大学のカリキュラム（教育課程）の構造や、授業の履修方法や基本的事項、教育職員免許状の取得の方法、諸手続きの方法、関係規程などが記されています。また、食農学類と各コースについても紹介されています。「時間割表」や「学生便覧」とあわせて読んでください。

食農学類ではどのコースも同じ履修基準で学修を進めることになっています。この学修案内は、履修を進めるにあたって卒業までに必要な情報が記されていますので、随時確認し活用してください。重要な事項や情報は、随時、掲示やガイダンスなどで周知しますが、見落したり欠席したりしないよう十分に注意してください。

1. 福島大学の教育目標

福島大学の教育目標

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21 世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「正解のない問い」に挑む態度などを身につけます。

2. はじめに（学類長のことば）

はじめに（学類長のことば）

食農学類学類長 河野 恵伸

福島大学食農学類へのご入学、おめでとうございます。皆さんが本学で学修を深められること、また大学院生・学類生や教職員と一緒に研究を進められることをたいへんうれしく思います。この「学修案内」には、皆さんが卒業までに必要な学修のルールや方法が書かれています。しっかり読んで履修計画を立て、卒業まで随時確認しながら、充実した学修ができるようにしてください。

「学習」ではなく、「学修」と書きました。辞書によると「学修」は、「学問を学んで身に付けること。修学」とあります。それに対して「学習」は、「学び習うこと。特に、学校などで基礎的な知識を系統的に学ぶこと」です。ですから、後者の「学習」は、小・中学校や高等学校での学びであり、習うことがそれにあたりますが、前者の「学修」は、大学などで学問をみずから学んで身に付けることがあたるようです。つまり、これから皆さんが本学で深められる「学修」は、主にみずからの意思で積極的に、みずからの力で学んで、身に付けることです。高等学校までの「学習」とは大きく異なる点です。

福島大学では皆さんの「学修」のために、カリキュラムが機能的で効率的になっています。まず「基盤教育」で高等学校等からの教科の接続をはかり、学術の基礎を学び、外国語の素養を身に付けます。課題解決のための問題探求やキャリア設計も進めます。「専門教育」では、食農学類で共通に必要な専門の基礎を学び、その後それぞれの専門領域を深めます。卒業研究科目ではより高度で専門的な内容に踏み込んでみずから研究や実験を進め、集大成を卒業論文としてまとめます。さらに「自由選択」では幅広い教養や専門の幅を広げることができます。食農学類の人材養成の目標は、ディプロマ・ポリシーにうたっている「専門性」、「学際性」、「国際性」、「地域貢献性」を身に付けることです。卒業時にはそれが身に付いています。

食農学類ではクラス担任制を設けています。1 年次からクラス担任・副担任の教員と一緒に、修学上の相談や学修目標の設定、成果の確認をしていきます。1 年次前期には「スタートアップセミナー」の授業もあります。なお、2 年次後期から、皆さんが所属する4つのコースに編成替えされ、3 年次後期からは研究室の指導教員が担任をつとめます。教員と一緒に学びを深めていく仕組みです。

学修や研究ばかりではありません。友人や教職員との交流も深めましょう。サークル活動や学外での活動に取り組んだり、アルバイトをしたりするのもよいでしょう。幅広く、深く、楽しく有意義な充実した学生生活となることを期待しています。

3. 履修に関する基本的事項

履修に関する基本的事項

学修案内はみなさんが卒業するために、あるいは各種資格を取得するために必要な履修方法などの情報を掲載しています。よく読んで、それぞれ自分自身の「履修計画」を立ててください。

各学類には、卒業要件として履修基準表が示されています。履修基準表では、「接続領域」「教養領域」「問題探究領域」で構成される「基盤教育」に、「専門教育」「自由選択」を加えて大きく3つに区分されています。基盤教育とは、大学での学修の基礎を築くとともに、よりよい社会を築くための現代的教養を身につけ、問題発見・追究・解決の基本を身につけることを念頭に置いた区分です。専門教育とは、基礎的科目の履修を重視しつつ、各学類・コースの教育目的、人材育成の目的を達成するために身につけるべき専門的な知識や技術を学ぶための区分です。自由選択は、他学類や他コースの科目を横断的に履修して学際性の幅を広げることを念頭に置いた区分です。

学修案内に記載されない個別の連絡事項については、学類ごと所定の掲示板に掲示しますので、毎日立ち寄り確認してください。授業担当教員からの連絡事項などは、LiveCampus（ライブキャンパス／教務事項を含む統合 WEB システム。「LC」と省略します）の案内のみの場合もあるので、こちらも1日1回は確認してください。

学修案内の記載事項や掲示を見落として単位が修得できず、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。不明な点があれば、教務課の各学類係で確認してください。

学修案内の修正、変更は随時行います。掲示や「LC」でお知らせしますので、確認漏れのないようにしてください。特に4月・10月のセメスター始めは教室変更など多数の修正・変更が生じると予想されます。

1. 授業時間帯、セメスターについて

(1) 単位と授業時間

大学で開講される科目にはそれぞれ単位数が定められています。みなさんが授業を受講し、担当教員によって一定の水準に達したと評価されたときにこの単位が認められます。卒業もしくは各種資格を取得するためには、定められた科目について単位の認定を受け、必要な単位数を修得しなければなりません。

授業科目の単位数は、「大学設置基準」により1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法や、授業時間外の学修等を考慮して大学が定めるとしています。

本学における1時限（単位算出上の用語として1コマと称す）90分の授業は、設置基準上の2時間とみなします。

■設置基準でいう45時間1単位を満たすためには、自宅等において授業時間外の自学自習（予習・復習）を行うことが求められていることに留意してください。

【 授業時間表 】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1 時限	8:40～10:10	※土曜日は、昼間 開講科目の授業を 行わない。
2 時限	10:20～11:50	
(昼休み)	(11:50～ 13:00)	
3 時限	13:00～14:30	13:00～14:30
4 時限	14:40～16:10	14:40～16:10
5 時限	16:20～17:50	16:20～17:50
6 時限	18:00～19:30	18:20～19:50
7 時限	19:40～21:10	

※ 各学類授業時間割表（教務課 HP）

※ 専門科目の一部を夜間主の授業時間帯（平日 6・7 時限、土曜 3～6 時限）に開講することがありますので、注意してください。

※ 夜間主の授業は、通常、平日の 6・7 時限、および土曜日の 3・4 時限に行われます。

(2) セメスター

本学では、在学経過年とともに自動的に学年（年次と呼ぶ）が進行します。在学しなければならない 4 年間で年 2 期（4～9 月を前期、10～3 月を後期）に分け、各期を「セメスター」と言います（4 年間で計 8 セメスターとなる）。このため、1 年次前期は第 1 セメスター、同後期は第 2 セメスターとなり、順次進行してゆくことになります。

ただし、食農学類生については、各年次における進級要件が定めてあるため、進級要件を満たせなかった場合は、当該セメスターに留め置かれることになります。

(3) みなし曜日

本学では半期 15 コマの授業日程を確保するために「みなし曜日」という仕組みを取り入れています。年により違いがありますが、暦の関係でいずれかの曜日が半期 15 コマに足りないケースが生じます。そこで本来の曜日ではない「みなし曜日」を設定し、不足する曜日分の日程を確保するというものになっています。例えば、「水曜日」なのに「みなし月曜日」の設定がある日は、水曜日の授業を行わず、月曜日の授業を行います。実際のみなし曜日については「教務関係日程表」で確認しましょう。

2. 履修科目の登録手続きについて

- (1) 授業を履修するには、必ず履修登録をしなくてはなりません。履修登録は、インターネットに接続されたパソコンから、「LC」に接続して行います。詳しくは、新入生ガイダンスで配布した「共通ガイドブック」や「LC」の学内共有ファイルにあるマニュアルを参照してください。なお、「LC」はパソコンでの使用を前提としたシステムであり、スマートフォンやタブレット端末での動作は保証していません。ID・パスワードを忘れた場合は、情報基盤センター 1 階事務室で手続きをしてください。なお、電話での問い合わせには応じられません。
- (2) 定められた期間内に登録をしなかった授業科目については、いかなる理由があっても受講することは認められませんので注意してください。
- (3) 特定の授業科目を履修（修得）した後でないと受講できない等の制限が設けられている科目もありますので、学修案内・時間割表等で確認の上、登録するよう注意してください。

- (4) 次の場合、履修登録の際「LC」でエラーとなり、履修は認められないので注意してください。
- ①二重履修・・・同一時限に同時に開講する2つ以上の授業科目を履修すること。
集中講義は日程が1日でも重ならないように注意してください。
 - ②すでに修得済みの授業科目（入学前の既修得単位として認定された科目を含む）と同一の授業を再び履修すること。
 - ③同時履修・・・同一の授業科目を同一セメスターに複数受講すること。
- (5) 履修登録期間は教務関係日程表を参照してください。期間内に履修登録と履修登録内容の確認を「LC」の時間割表画面で行ってください。
- (6) 授業科目の中には、教室の収容人員の都合上、受講者を制限するものがあります。特に基盤教育の授業科目の受講調整は、一定の手続きにしたがって行われます。詳細は接続領域、教養領域、それぞれの履修方法の説明で確認してください。また、専門教育科目でも同様に受講者を制限する場合があります。入学時におこなうガイダンスや掲示でも説明をおこないますので、必ず指示にしたがってください。調整対象となった科目は、受講許可を得なければ履修登録ができなくなるので十分に注意してください。

3. 試験及び成績について

(1) 試験及びレポートについて

① 試験について

試験には、厳格な規則（試験規則など）が適用される正規試験と、担当教員の判断で随時行われる平常試験があります。正規試験を欠席した場合には、追試験または履修撤回の手続きが認められた場合を除き、自動的に不合格となります。正規試験は、授業期間終了後の決められた期間（教務関係日程表参照）に実施されます。

正規試験を実施する科目は試験期間開始日の2週間前までに、正規試験の日程は試験期間開始日の1週間前までに発表されます。試験の時間割は、通常の授業の時間帯・教室等と異なる場合が多いので十分注意してください。

【試験期間の授業時間表】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1時限	8:40～10:10	※土曜日は、昼間 開講科目の試験 を行わない。
2時限 (昼休み)	10:25～11:55 (11:55～12:45)	
3時限	12:45～14:15	13:15～14:45
4時限	14:30～16:00	15:00～16:30
5時限	16:15～17:45	16:45～18:15
6時限	18:00～19:30	18:45～20:15
7時限	19:45～21:15	

また、試験日程発表後に教室や実施日が変更になる場合もありますので、試験期間中の掲示には特に注意してください。

正規試験を受験する際の諸注意事項は、学生受験心得に定められていますので、受験の前に熟読しておいてください。また、福島大学試験規則も同様に熟読してください。さらに、以下の事項にも留意してください。

追試験制度

病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった場合は、追試験を認めることがあります。追試験の受験を申請する者は、所定の期間に追試験受験願を提出しなければなりません。その際に、病気の場合は医師の診断書、公共交通機関の遅延の場合は遅延証明書が必要となります。

公共交通機関の突発的な事故等による追試験は、以下を条件として認められることに注意してください。

- ・試験開始 5 分前に余裕をもって間に合うように、通常の公共交通機関を利用して登校しつつあったが、当該事故等によって試験開始時刻に遅れた。
- ・当該事故等について、試験日程の変更や試験開始時刻の変更などの措置がとられなかった。

不正行為に対する処分

不正行為（カンニング等）を行った場合、当該科目だけでなく、そのセメスターの履修登録がすべて取り消しになるほか、学則に基づき懲戒処分を受けることになります。

学生証の携帯

学生証を携帯しなければ正規試験を受験することはできません。筆記試験の時間中は、学生証を机上の見やすいところに置いてください。

②レポートについて

正規試験としてのレポート試験は、筆記による正規試験と同様の扱いとなります。すなわち、未提出者は正規試験を欠席したものとみなします。

上記以外のレポート（平常レポート）は、科目ごとの指示に従ってください。教務課へ提出する場合は、教務課事務室前に設置されている平常レポートボックスに入れてください。なお、期限を過ぎたものはいかなる理由があっても受け付けません。

レポートの体裁は、レポート試験・平常レポートともに必ず次のような表紙をつけ、担当教員から特に指示があった場合を除き、A4版 1 枚あたり 1400～1500 字程度を目安として作成し、複数枚の場合は必ずステープラー（ホチキス）で綴じて提出してください。

表紙見本 (本文は 2 枚目からとする)

—	—
科目名	○ ○ ○ ○ ○
曜日・時限	曜日 時限
担当教員	△ △ △ △ △
所属学類	◆◆◆◆学類
学籍番号	※ ※ ※ ※ ※
氏 名	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
提出年月日	年 月 日

【レポート作成の際の注意事項】

文献やインターネット上の文章・図・表等をレポートに利用する際には、利用した箇所が明らかになるように、必ず出典を明記してください。

以下の行為は不正行為になります。絶対に行ってははいけません。→「研究倫理に関して」を参照

- ◆作成者の許諾のあるなしに関わらず、他者が作成したレポートを盗用し、自分が作成したものと偽って提出すること。
- ◆出典を明らかにせずに、文献やインターネット上の文章・図・表等の内容をコピーし、レポート作成に利用すること。

特に、インターネット上の文章・図・表等を、出典を明らかにせず、単に「コピー/貼り付け」してレポートを作成することは、著作権を侵害するという点で社会的にも許されない行為です。複数の文章・図・表等を組み合わせてコピー/貼り付けした場合でも同様です。レポート作成において、文献やインターネット上の文章・図・表等を利用する際のルールについてわからない場合には、担当教員に相談してください。

また、近年、ChatGPTをはじめとする「生成 AI」が注目を集めています。

レポート作成に生成 AI を用いる場合、生成 AI に対する理解を深めた上で、適切に利用してください。→「福島大学における生成 AI の利用に関するガイドライン」を参照

生成 AI は、適切に利用すれば学修や作業の効率化が図られること等が見込まれます。しかし、適切に利用しないと、研究不正や情報漏洩に繋がってしまう危険性も含んでいます。また、依存しすぎると自身の学びに繋がりません。

授業等における生成 AI 利用の可否は、それぞれの授業科目によって異なることがあるため、生成 AI を利用する際は、事前に担当教員や指導教員に確認してください。

(2) 単位の認定及び成績評価について

本学の単位の認定は、各科目について次の 5 段階で評価し、S～C を合格とします。各科目の評価方法等は、シラバスに明示されています。

単位の認定は、正規試験としての筆記試験やレポートによるばかりでなく、平常試験や平常レポート等で行われることもあります。

	評語	学修成果	評点	GP
合 格	S	単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果をあげた	90 点～100 点	4
	A	単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた	80 点～89 点	3
	B	単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた	70 点～79 点	2
	C	単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた	60 点～69 点	1
不合格	F	単位認定基準の学修成果をあげられなかった	59 点以下	0

※GP (Grade Point) については、「4. GPA 制度について」を参照してください。

【単位認定上の注意事項】

- ・ 授業料を所定の期間に納入しなかった者（授業料全額免除者を除く）が履修する科目の単位認定は、授業料の納入が確認された後に行います。したがって、授業料未納によって除籍された者が未納期間に履修していた科目は、単位を認定しません。
- ・ 集中講義の単位認定『セメスター』について
集中講義の日程ならびに単位認定『セメスター』については、履修登録手続き前に掲示します。開講日程（時間帯）が1日でも重複している場合は、いずれかを削除・撤回しない限り両方とも履修できません。

（3）成績発表について

各セメスターの成績発表日以降、「LC」で成績を確認することができます。各セメスターの成績発表日（教務関係日程表参照）以降に当該セメスター分が追加されますので各自必ず確認してください。なお、紙での交付は行いません。成績の確認は、メンテナンス期間を除き随時可能です。（成績発表前日までが学修ポートフォリオの入力期限となっていますので、忘れないようにしてください。）

（4）不服申立てについて

成績評価について不服がある場合には、セメスターごとの所定の期間内（教務関係日程表参照）に申立てをすることができます。不服申立ては、「LC」により行います。申請方法等の詳細は、掲示によりお知らせします。

この「不服申立て」に対しては当該授業科目の担当教員が個別に対応します。ただし、非常勤講師担当の授業科目にかかわる「不服申立て」については教務課で対応します。

成績に対する不服は、単に自分が期待した評価が得られなかったというだけでは、申し立てることはできません。「不服申立て」にあたっては、シラバスの成績評価基準による自己採点と得られた成績評価との間に明らかにギャップがあるなど、不服申立てを行うに足る合理的な根拠を明確に説明することが必要です。要件を満たさない申立ては受理されません。

4. GPA 制度について

GPA とは何か－「量」より「質」の学修

卒業するためには、124 単位を修得しなければなりませんが、この「単位」は、大学における学修の「量」をカウントするものです。これに対して、GPA とは、大学で修得した単位の「質」（クオリティ）を測定する尺度です。

GPA は、学生が履修した科目の成績評価（S、A、B、C 及び F）をそれぞれ 4、3、2、1、0 に点数化（これを Grade Point = GP といいます）し、履修科目の 1 単位当たり平均 GP の値を計算します。本学では、例えば奨学金の募集上の基準や研究室への所属決定の際の基準など様々な形で利用しています。また、就職において成績を重視する企業も増えていきますので、採用上の判断材料として使われる場合もあるようです。

GPA は、学修の「量」より「質」を求める制度ですので、1 セメスター当たりの履修登録単位数を制限する **Cap 制度**があります。

GPA 制度は、履修登録した授業科目に対する学生の履修責任を前提としています。履修登録撤回の手続きをとらずに、ある科目の学修を途中で放棄した場合には、不合格と同様に扱われ、GPA を大きく引き下げることになります。このようなことにならないように、よく考えて履修計画を立ててください。その際、履修計画の手引きとして、シラバスがあります。シラバスには、その授業科目でどのようなことを学修するのか（授業概要・授業計画）、また学修の達成度をどのように評価するのか（評価方法）が、担当教員によって詳細に示されています。

もちろん、学修の「質」の向上は、学生の努力だけで達成されるのではなく、教員の教育責任も当然の前提となります。授業でよく理解できないところがあったら、**オフィス・ア**

ワーなどを利用して、直接担当教員に質問をしましょう。また、シラバスに書かれていた「評価方法」に照らして、成績評価に疑問を感じた場合には、授業担当教員に**不服申立て**をすることもできます。

GPA の最高点は 4.0 です。より高い GPA を獲得できるように、「量」だけでなく「質」の向上も目標として学修してください。

前頁の表で、S～C の評価及び不合格 F を 4 ～ 0 に点数化したものを GP (Grade Point) といい、さらに、以下の式によって、1 単位当たり平均 GP の値を計算したものを GPA といい、GPA は、小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位までの値を計算します。

$$\text{GPA (Grade Point Average)} = \frac{(\text{修得した各科目の単位数} \times \text{Grade Point}) \text{ の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

(注) GPA 対象外科目

以下科目は GPA 算定上、除外されます。

全学類で共通	自主学修プログラム、「N」評価科目（他大学等で修得した科目等の認定単位）
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農地域実習

【GPA 関連諸制度】

GPA 制度の下には、これが有効に機能するようにさまざまな制度が設けられています。以下の (1) ～ (2) の制度を正しく理解していないと、GPA の計算に不利な結果を生ずる可能性がありますので、注意してください。

(1) 履修登録上限 (Cap) 制度について

本学では、単位修得に必要な予習・復習の時間を確保し、さらに、受講科目の「単位認定基準」が達成されるように、セメスターごとに履修登録できる単位数の上限を設定しています。これを「Cap 制度」といい、以下のようになっています。

1 セメスター当たり 24 単位。(共生システム理工学類のみ 30 単位)

(注) Cap 除外科目

以下の科目は Cap 計算上、除外される科目になります。

全学類で共通	社会とデータ科学の基礎、集中講義、自主学修プログラム、外部検定試験や海外留学・語学研修、単位互換科目など、学外での学修が単位として認定される科目
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農地域実習

(2) 履修登録撤回制度について

履修登録をした科目について、授業内容が予想していたものと違っていた、または授業についていけない、などを理由にして所定期間内に手続きをした者に、履修登録撤回を認める制度を「履修登録撤回制度」といいます。

これは、上記のような場合に、学生の自主的な履修登録撤回によって、低い GP を取得し GPA が低下することを回避するための措置です。

履修登録撤回期間

具体的な日程は「教務関係日程表」により確認してください。

集中講義については、集中講義開始日の翌日まで履修登録撤回を認めます。ただし、食農学類開講の「畜産学特別実習」と「森林特別実習」については、履修登録撤回を認めません。また、共生システム理工学類の実習関係の集中講義に関しては、6月30日までを撤回期日とします。

履修登録撤回は、学生の履修計画を前提とした例外的な措置なので、ある科目を履修撤回した場合に、代わりに別の科目を追加登録することはできません。

なお、履修登録撤回の手続き期間経過後から授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、病気や事故などやむをえない理由で、履修登録をした科目の受講を継続することが困難になった場合などは、例外的にさかのぼって履修登録撤回を認めることがあります。入院していた証明書などを添付の上、授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、教務課へ申請する必要があります。

（注）履修登録撤回を認めない科目

以下の科目は、履修撤回が認められません。

全学類で共通	受講調整実施科目、スタートアップセミナー、社会とデータ科学の基礎、キャリア形成論、健康運動科学実習、英語A、英語B、英語(夜間主)、英語以外の外国語（基礎、基礎（特設）、応用）、スポーツ実習、情報リテラシー、問題探究セミナーⅠ
食農学類	「畜産学特別実習」「森林特別実習」「食農実践演習Ⅱ」

5. シラバスについて

「シラバス（syllabus）」とは、「授業計画」のことで、授業名、担当教員名、講義目的、各回の授業内容、成績評価の基準や方法、予習・復習についての指示、教科書・参考書、履修条件などが記載されています。学生のみなさんは、履修計画の参考に使うほか、授業期間全体を通じた授業の進め方を確認し、各回の授業に求められる予習・復習の参考にすることが出来ます。

履修計画を立てる際には、まず年度始めのガイダンス、学修案内によりその年度にどの科目を受講すべきか、受講可能であるかを確認します。学修案内の科目一覧には、授業の詳細な内容までは記されていないので、シラバスを参照して履修計画を立てることになります。授業全体に対する現在の授業の位置づけの確認や、予習・復習のためのアドバイス、参考書など、勉強の参考になる情報が書かれているので、必ず自分の目で確認してどんどん活用してください。

また、シラバスには当該科目に関連するDP（ディプロマ・ポリシー）の各項目の割合が示されています。後段で説明がありますが、各学生の学修履歴の記録や振り返りなどのツールとしてラーニング・ポートフォリオ（Lポートフォリオ）上で活用するためのものです。個々の授業を履修する際に特に意識する必要はありませんが、DPの各割合に応じてポイントが算出されるので、単に科目の単位（評価）だけでなく、DPの達成度も客観的に計ることが可能です。Lポートフォリオでは卒業するまでセメスターごとに、自己評価、授業評価を行い、それを4年間積み上げ、卒業までの自己の成長を記録します。

(1)「LC」のシラバス

福島大学では、学生の履修登録システムとして「LC」を導入していますが、履修登録時や授業履修時に参考になるように、各授業のシラバスも「LC」から閲覧できるようになっています。「LC」にログインし、「シラバス」の項目から履修したい授業科目を検索して参照してください。

なお、自宅やアパート等、大学外から「LC」のシラバスを参照したい場合は、<https://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/>より「LC」を選択し参照してください。(教務課 HP からログイン不要で参照可能なシラバスは簡易版です)

(2) 詳細シラバス

教員によっては、授業の最初の時間に、「LC」に掲載したシラバスに加え詳細なシラバスを配布する場合があります。また、授業時の資料配布やシラバスの補足などを教員のホームページ等で行っていることもありますので、授業時のアナウンスを参考にしてください。

6. オフィス・アワーについて

学生は授業の前後や教員の都合の許す時間帯に、履修上の相談や授業に関する質問等を行うことが出来ますが、「オフィス・アワー」とは、教員（非常勤講師を除く）が研究室等において、そうした相談や質問に応じるため、あらかじめ設定されている時間帯のことです。各教員は、毎週特定の時間帯をオフィス・アワーとして設定し、研究室等に待機しています。学生のみなさんは、オフィス・アワーを利用して研究室を訪れ、いろいろな質問や相談をすることができます。非常勤講師は研究室を持たないため、質問などは授業前後の時間を利用するなどしてみてください。

大学の授業は、一般に 15 回にわたって体系的に構成されているため、一つの疑問点をそのままにしていると、授業全体が理解できなくなるおそれがあります。まさに、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。また、疑問点を質問するばかりでなく、オフィス・アワーを利用して、その授業科目のより発展的な勉強をするのにはどうすればよいか、担当教員にアドバイスを求めるのもよいでしょう。各教員のオフィス・アワーの時間・場所等についてはシラバスで調べることができます。

7. その他履修上の注意点

- ①各セメスターの所定の期間に「履修登録」に関わる一連の手続きを怠った場合、当該セメスターの履修を認めないので、注意してください。
- ②各科目の履修方法等に従い履修してください。これに反する履修は認めません。違反した場合、単位の修得ができなくなる場合があります。
- ③指定された履修年次（セメスター）で単位を修得しないと、以降の学年での履修計画に支障を来すことがあるので、注意してください。
- ④出席不良により、正規（平常）試験の受験を認めないことがあるので、注意してください。
- ⑤講義等の録画・録音は、原則として認めません。ただし、やむを得ない場合は、担当教員の許可を得た上で認めることがあります。板書等を写真に撮る場合も担当教員の許可を得た上で撮影してください。

4. 研究倫理に関して

研究倫理に関して

一般的に、大学の役割は①教育、②研究、③社会貢献の3つだと言われており、大学に入学した皆さんは、「教育を受ける」立場にいると同時に「研究を行う主体」とであると見なされます。そして、研究を行う上で最も重要なことのひとつに「研究倫理の遵守」が挙げられます。研究倫理とは、非常に簡単に言うと、研究において差別的な立場をとったり偏見による類推や断言をすることによって、過去や現在に生きる誰かを傷つけたり誰かの利益を損ねたりしないことや、研究を行う上で不正行為を行わないという研究を行う者全てが守らなければならない規範・規則や考え方のことです。

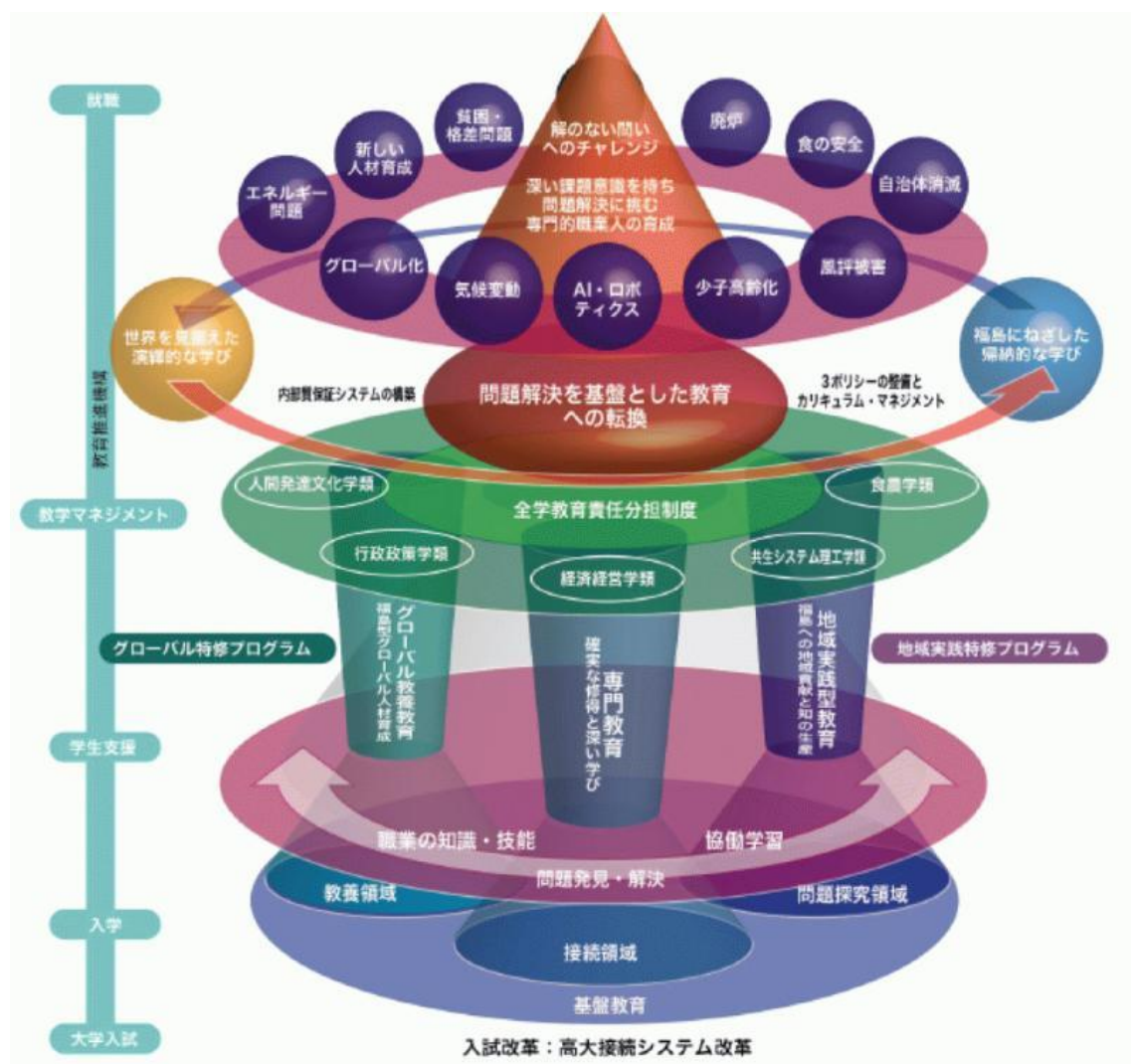
さて、先にも述べたように、皆さんは教育を受ける立場にいると同時に研究を行う主体でもあります。研究というと自分とは関係ないものであると思いがちかもしれませんが、しかし、大学では学問を「教えてもらう」のではなく、自ら主体的に問いを立て、探究し、学んでいく姿勢が求められます。また、自らが学んだことをレジュメやスライドにまとめてプレゼンテーションを行ったり、レポートを執筆するといった機会が数多く存在します。さらに、大学での学びの集大成として「卒業研究」を行い、その成果を「卒業論文」として執筆することが一般的です。これらの、皆さんが大学での学びの中で日常的に行わなければならないことの全てが学問研究の一部であることを自覚しなければなりません。では、具体的にはどのようなことに気をつければよいのでしょうか。ここでは、皆さんが1年生の時点から取り組む機会の多い「レポート」を例に見ていきましょう。

レポートを作成する際は、教員から提示された、あるいは自分で設定したテーマについて、文献を読んだり、関連する資料・データを収集・分析したりして考察を深めていく必要があります。インターネットが普及するとともに、近年では生成 AI のような新しい技術が登場し、関連資料やデータの収集等は昔に比べて格段に容易になりました。こうした ICT 技術を活用できることも、大学生にとっては非常に重要なスキルのひとつです。一方で、これらの新しい技術は、他者が作成した、または AI が出力した文章や図表などをそのまま取り込んで使うことも容易にしていまいしました。少し難しい言葉になりますが、他者が作成した文章や図表などを勝手に自分のものとして使うことを「剽窃（ひょうせつ）」と言います。生成 AI の出力結果も、そのまま使ってしまうと、剽窃と判断されてしまう場合があります。この剽窃という行為は研究不正の代表的なもののひとつであり、残念ながら、大学生が作成するレポートにおいても時折見られるものです。レポートは必ず自分の言葉で書くことが基本となります。とは言え、先人の知見を参照することはレポートを作成する上では避けて通れません。生成 AI も、適切に利用すれば、学修効率を上げることができるかもしれません。そこで、他者の作成した文章や図表などをレポートに掲載する際は、「引用」を行い、誰の文章・図表等を引用したかを示す「出典」を明示する必要があります。生成 AI については、利用した事実や、生成 AI の出力結果を利用した該当箇所等を明記しなければならない場合があります。一般的な引用や出典明示のルールや方法は、これからスタートアップセミナーや様々な科目で学んでいくこととなります。また、生成 AI については、授業等における利用の可否・方法等がそれぞれの授業科目によって異なることがあるため、生成 AI を利用する際は、事前に担当教員や指導教員に確認することも必要になるでしょう。まだピンとこない部分も多いかもしれませんが、①「引用」と「出典の明示」を用いて、自分で作成したものと他者の作成したものを明確に区別しなければならないということ、②生成 AI の出力結果を安易にそのまま用いてはならないということは、現時点で強く認識しておいてください。

研究倫理を逸脱することは、明確な不正行為であり、単位の取消や場合によっては卒業でなくなってしまうような重大なことを自覚してください。研究倫理について学ぶ機会はきちんと用意されています。研究倫理を守り、皆さんが健全に学問研究に取り組んでいくことに期待しています。

5. 福島大学のカリキュラム

福島大学のカリキュラム



新しい福島大学の教育理念の概念図

福島大学の教育理念

- ・「問題解決を基盤とした教育」への転換
- ・「正解のない問題にチャレンジできる人材」の育成

福島大学は、これからの大きな社会の変化に主体的に対応し、新たな社会形成に貢献するため「正解のない問題にチャレンジできる人材」を育成することを教育の目的とします。そのために教育理念を「**問題解決を基盤とした教育**」へ転換します。

福島県は[東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故](#)の被災地として、21世紀の課題を他よりも一足先に経験した地域とすることができます。加えて、世界的な人口増加や我が国の人口減少、それらに伴う経済問題や資源問題、環境問題、一方のグローバル化、テクノロジーの加速度的な発達、などの複雑で複合的な課題を解決するためには、教育の在り方を転換しなければなりません。それは、予め準備された答えを探すのではなく、現実から学び、粘り強く問題を探究し、学生自身が問題解決のプロセスに参加することが必要です。上に掲げた図は、このような考え方を概念的に示したものです。

履修基準表 食農学類履修基準表(※外国人留学生の履修基準表は別に定めています)

【新カリ(2023年度生～)】

	領域区分	科目区分		セメスター	1科目 単位数	要卒単位数		
						必修	選択必修	
基 盤 教 育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	2	2		
			社会とデータ科学の基礎	1	2	2		
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	2	2		
			健康運動科学実習	1	1	1		
		外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1	4		
	教養領域	学術基礎科目	人文科学分野の科目	1～	2	2	7（注1）	
			社会科学分野の科目	1～	2	2		
			自然科学分野の科目	1～	2	2		
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	3～	2	2		
			ワーキングスキル	3～	1または2			
		健康・運動科目	スポーツ実習	2～	1			
			外国語科目（注3）	英語BⅠ・BⅡ	3～	1		4
		応用英語		1～	1			
		英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ（注2）		1～	1			
		英語以外の外国語基礎（特設）Ⅰ・Ⅱ（注2）		1～	1			
		英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ（注2）		3～	1			
		情報科目	情報リテラシー	1～	2			
		問題探究領域	問題探究科目		1～	2		2
	自主学修プログラム			1～	1または2			
	問題探究セミナー		農場基礎実習Ⅱ	2	2	2		
	小計							34
	専 門 教 育	専門領域	学類共通専門基礎科目	数理リテラシー	1～		4	4
農学リテラシー				1～		14	14	
学類共通専門科目			4～		4			
コース専門科目			4～		28			
（食品科学・農業生産学コース）					（4）	（24）		
（生産環境学・農業経営学コース）					（8）	（20）		
卒業研究科目			6～		9			
小計						84		
自由選択	自由選択領域	自由選択科目（注5）					6	
計						124		

(注1)「教養領域」の学術基礎科目各分野2単位計6単位、キャリアモデル学習2単位、外国語科目4単位、「問題探究領域」の問題探究科目2単位、計14単位を修得した上で、さらに、「教養領域」の全科目及び「問題探究領域」の問題探究科目、自主学修プログラムから7単位修得する。

(注2)「教養領域」の英語以外の外国語は、同一言語で修得する。

(注3)「教養領域」の外国語科目必修4単位の修得方法は、英語4単位、英語以外の外国語4単位、英語2単位+英語以外の外国語2単位のいずれかとする。

(注4)7単位については、所属するコース以外のコース専門科目を含めることができる。

(注5)要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に含めることができる。

履修基準表 食農学類履修基準表（外国人留学生用）

【新カリ（2023年度生～）】

	領域区分	科目区分		セメスター	1科目 単位数	要卒単位数			
						必修	選択必修		
基 盤 教 育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	2	2			
			社会とデータ科学の基礎	1	2	2			
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	2	2			
			健康運動科学実習	1	1	1			
		外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1	8 (注1)		7 (注1)	
	外国語科目	英語BⅠ・BⅡ	3～	1					
		応用英語	1～	1					
		英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ (注1)	1～	1					
		英語以外の外国語基礎(特設) Ⅰ・Ⅱ(注1)	1～	1					
		英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ (注1)	3～	1					
		日本語科目	日本語Ⅰ～Ⅳ	1～	1				
	教養領域	日本事情	日本事情Ⅰ～Ⅳ	1～	2				
		学術基礎科目	人文科学分野の科目	1～	2	2			
			社会科学分野の科目	1～	2	2			
			自然科学分野の科目	1～	2	2			
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	3～	2	2			
			ワーキングスキル	3～	1または2				
		健康・運動科目	スポーツ実習	2～	1				
		情報科目	情報リテラシー	1～	2				
	問題探究領域	問題探究科目		1～	2	2			
		自主学修プログラム		1～	1または2				
		問題探究セミナー	農場基礎実習Ⅱ	2	2	2			
	小計						34		
専 門 教 育	専門領域	学類共通専門基礎科目	数理リテラシー	1～		4	4		7 (注2)
			農学リテラシー	1～		14	14		
		学類共通専門科目		4～		4			
		コース専門科目		4～		28			
		(食品科学・農業生産学コース)				(4)	(24)		
		(生産環境学・農業経営学コース)				(8)	(20)		
		卒業研究科目		6～		9			
		小計						84	
	自由選択	自由選択領域	自由選択科目 (注3)			6			
計						124			

(注1) 外国語コミュニケーション科目、外国語科目、日本語科目の中から母語・母国語系統言語を除く1ヶ国語で8単位、学術基礎科目各分野2単位計6単位、キャリアモデル学習2単位、問題探究科目2単位、計18単位を修得した上で、さらに「接続領域」の外国語コミュニケーション科目、「教養領域」の全科目、「問題探究領域」の問題探究科目、自主学修プログラムから7単位を修得する。

(注2) 7単位については、所属するコース以外のコース専門科目を含めることができる。

(注3) 要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に含めることができる。

6. ラーニングポートフォリオ について

ラーニングポートフォリオ（Lポートフォリオ）について

ラーニングポートフォリオ（Lポートフォリオ。「LC」上は「学修ポートフォリオ」という名称になっています。この文章上も以降Lポートフォリオで説明します。）は、自身の学修履歴の記録や学修の振り返りのツールで、「LC」上に構築されています。Lポートフォリオで自己評価を記録していくことにより、自身の能力向上への意識が強くなります。また、評価結果は授業やカリキュラムの改善にフィードバックされます。

Lポートフォリオを使う場合は、ネットワークに接続し、自身のコンピュータを使って、「LC」にアクセスし、左部メニューから選択します。Lポートフォリオでは、次のことを行います。

（１）学修目標：長期的な目標として、自己認識、年次ごとの目標、セメスターごとの活動記録、教職履修カルテ（教職登録者のみ活用）などを記録します。

（２）学修成果シート：短期的な目標として、基盤教育、専門教育、英語の３区分において、目標 → 活動成果（振り返り）を記録します。

〈福島大学学生に期待する姿勢と能力〉（全学 DP）や自分の所属する学類の DP（DP はディプロマ・ポリシーの略で、大学が学位を与える方針）に即して作られたルーブリック（評価基準表）で自己評価します。また、自己評価のコメントも記入します。

（３）成績情報の確認：「成績ダッシュボード」において、各自の成績をグラフなど視覚的な情報として確認することができます。

（４）その他：教員免許状を取得する場合は教職履修カルテを登録したり、ボランティア活動やサークル活動など各自の活動記録を自由に記録できます。

学修成果シートは、セメスター（学期）ごとに、指定された期間内に記入する必要があるため、記入が完了しないと、次のセメスターの履修登録ができません。

全学 DP、各学類のルーブリックは下記のとおりです。左側に能力の内容を示し、「克服すべきレベル」から「応用レベル」まで能力のレベルが記載されています。各項目の内容をよく読んで、自身が該当するレベルをLポートフォリオ上でマークしてください。

（ https://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/pdf/f_guidebook/portfolio_manual.pdf ）

→「学修ポートフォリオ利用マニュアル」

＜全学 DP の〈福島大学学生に期待する姿勢と能力〉ルーブリック＞

大項目*	中項目**	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
最新の専門知識及び技術 (専門知識・技術)	資料の収集・分析・統合、語学、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なアカデミック・スキル	ほとんどのアカデミックスキルが十分に身につけており、他者にアドバイスすることもできる	基本的なアカデミック・スキルを身に付けており、ある程度実用レベルに達している	授業以外でもアカデミック・スキルを身に付けようと努力している	大学で学修するためにアカデミック・スキルを身に付ける必要があることを理解できる	基本的なアカデミック・スキルが身につけていない
	最新の学問的知識や技術を身につけ、現代社会における自らの専門領域の役割を考え、知識や技術を改善したり更新したりする態度	自身の専門分野のより新しい知見を得ようとしており、それを社会に役立てようとしている	自分の専門分野では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自分の専門分野に関する本やインターネットの記事を読んだり集めたりしている	自身が大学で身に付けるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、力や意欲も足りない
本質を見極めるための教養と学際性 (教養と学際性)	物事の本質を見極めるための探究的態度と、自らの専門性や技術を対象化・客観化させるための幅広い教養の定着	身近な事象や社会的事象を幅広い教養で受け止め、専門にこだわることなく探究しようとする	人文科学や社会科学、自然科学と自分の専門を関連付けることができる	自分の専門分野以外の本やインターネットの記事を日常的に読んでいる	教養を身に付ける必要性を理解している	探究的態度が弱く、教養の必要性を理解していない
	他領域の学問を学ぶことで自らの専門性を拡張させ、物事を総合的に、かつ俯瞰的に見るための知識のネットワーク構築	専門性を拡張させ、物事を総合的に見るために、幅広い知識のネットワークが構築できている	自身の専門領域以外に関心をもつ学問分野を持っており、知識をつなぎ合わせることができる	レポートを書くとき、自分の専門分野以外の領域にも言及することができる	知識と知識を関連付けることの必要性を理解している	知識が断片的で、自分の専門分野の意味も理解できていない
協働的な問題探究 (社会的スキル)	日常生活や国際社会に対する問題意識や、自らの専門性を生かして問題を発見し、問題解決に取り組むためのスキル	幅広い問題意識や問題発見・解決のスキルを実際の問題解決に活用できる	問題の持つ多様な側面を分析し、自分なりのアプローチで問題解決に向かおうとする	自分の関わる日常的問題について粘り強く問題解決に向けて努力することができる	日常生活や国際社会に対する問題意識を一定程度もっている	日常生活や国際社会に対する問題意識が弱い
	高度なリーダーシップやフォロワーシップなどのグループワークのスキルや、他者との協働による問題探究の実践	高度なグループワークのスキルが身につけており、他者と協働して問題探究できる	グループワークでリーダーシップを発揮することができ、全体がうまくいくように工夫できる	グループワークにおいて、自身の役割を意識して参加することができる	少々苦手であってもグループワークに参加することができる	グループワークのスキルが身につけておらず、他者との協働が苦手である

社会の改善 につなげる 創造性 (認知的ス キル)	事実にもとづく客観 的な社会の把握、お よび多面的にアプロ ーチするためのデー タ解析やフィールド ワークなど様々なツ ールの駆使	様々なツールを 駆使して、事実 に基づき客観的 に社会を把握で きる	様々な知見に基 づいてデータを 分析し、事実 に即してアイディ アを生むことが できる	本やインターネ ット、フィール ドワークなどか ら、より客観的 なデータを得る ことができる	物事を一面的に とらえるだけで はまずいことを 知っている	主観的で、物事 の把握が一面的 である
	社会と自身の関係を 問い直し、常識にと られることのない 独創的で未来志向 的な思考方法と失敗を 恐れないチャレンジ 精神	独創的で未来志 向的な思考方法 と失敗を恐れな いチャレンジ精 神を持ち、社会 に貢献しようと する	自分の考えを理 路整然と述べる ことができ、他 者との違いを調 整できる	うまく発表でき ないまでも、理 屈に合った自分 なりの考え方を 持っている	他人に流されな い自分なりの考 え方を持とうと している	一般的な考え方 に流されやす く、これまでの やり方にこだわ る
市民として の主体的態 度 (態度や価 値観)	東日本大震災及び東 京電力福島第一原子 力発電所事故の被災 地に学ぶ者として、 被災の概要を知り、 被災地に寄添い共感 的にアプローチする 態度	被災地に学ぶ者 として、現状を 充分に理解して おり、被災者に 共感的にアプロ ーチできる	被災地の特定分 野や特定地域に 関心をもってお り、復興に必要な 術を考えること ができる	関係授業、フィ ールドワークや 学習会に参加す るなどして自分 なりに情報を集 めたことがある	福島大学が東日 本大震災・原発 事故の被災地 にあることを意識 している	東日本大震災へ の関心が薄く、 被災地への共感 が薄い
	地域の抱える課題を 社会が直面する 21 世紀的課題として捉 え直し、主体的に探 究しようとする態度	地域の抱える課 題を社会が直面 する 21 世紀的 課題として捉え 直し、主体的に 探究しようとし る	身近な課題を世 界が直面するグ ローバルな課題 と関連付けてと らえ、探究しよ うとする	すべてではない にせよ地域や社 会の抱えている 課題の現状を知 っている	少子高齢化や環 境問題などの現 代社会が抱えて いる課題に関心 をもっている。	日本や世界全体 が直面している 課題への関心が 薄い

* 大項目は〈福島大学生に期待する姿勢および能力〉を表します。

** 中項目は「大項目」の下位に属する具体的な説明を表します。

食農学類 DP ルーブリック

大項目	中項目	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
I. 課題解決志向と実践的な専門知識 (DP1)	農学に関する専門的な知識・技能の理解。	専門領域（食品科学・農業生産学・生産環境学・農業経営学）における問題点や課題を十分に理解し、それらの解決に向けて計画と実践を適切に展開している。	専門領域における問題点や課題を理解し、それらの解決に向けて計画と実践を展開することができる。	専門領域における問題点や課題を理解し、それらの解決に向けて計画と実践を展開する知識や技能をもっている。	専門領域における問題点や課題を意識し、それらの解決に向けて計画と実践を展開しようとしている。	専門領域における問題点や課題を理解できず、それらの解決に向けた計画と実践をする意識をもっていない。
	農学に関する専門的な知識・技能について、関連産業や地域社会における具体的な取組の理解。	専門領域にかかる知識や知見が、関連産業や地域社会で具体的にどう活用され取り組まれているかを十分に理解し身につけている。	専門領域にかかる知識や知見が、関連産業や地域社会で具体的にどう活用され取り組まれているかを理解し身につけることができる。	専門領域にかかる知識や知見が、関連産業や地域社会で具体的にどう活用され取り組まれているかを理解する知識や技能をもっている。	専門領域にかかる知識や知見が、関連産業や地域社会で具体的にどう活用され取り組まれているかを理解しようとする意識をもっている。	専門領域にかかる知識や知見が、関連産業や地域社会で具体的にどう活用され取り組まれているかを理解しようとする意識をもっていない。
II. 学際的な理解力とコミュニケーション能力 (DP2)	農学領域を超えた学際的な知識・知見の理解力。	専門領域を超えた領域における知識・知見を十分に理解し身につけている。	専門領域を超えた領域における知識・知見を理解し身につけることができる。	専門領域を超えた領域における知識・知見を理解する知識や知見をもっている。	専門領域を超えた領域における知識・知見を理解しようとする意識をもっている。	専門領域を超えた領域における知識・知見を理解しようとする意識をもっていない。
	農学領域を超えた学際的な知識・知見を活用したコミュニケーション能力の涵養。	専門領域を超えた領域における知識・知見を十分に活用し、チームワークなどを通して他者との十分なコミュニケーションをとり展開している。	専門領域を超えた領域における知識・知見を活用し、他者とのコミュニケーションをとり展開することができる。	専門領域を超えた領域における知識・知見を活用し、コミュニケーションをとることができる。	専門領域を超えた領域における知識・知見を活用し、コミュニケーションをとろうとする意識をもっている。	専門領域を超えた領域における知識・知見を活用し、コミュニケーションをとろうとする意識をもっていない。
III. 国際的な問題意識とグローバルな知見の応用力 (DP3)	世界の地域固有の課題の理解。	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題を十分に理解し身につけている。	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題を理解し身につけることができる。	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題を理解する知識や知見をもっている。	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題を理解しようとする意識をもっている。	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題を理解しようとする意識をもっていない。
	世界の地域固有の課題解決に向けた国際交流	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題	専門領域にかかる世界の地域固有の問題点や課題

	や国際意識の涵養。	の解決に向けて、国際交流や意識をもちながら計画と実践を適切に展開している。	の解決に向けて、計画と実践を展開することができる。	の解決に向けて、計画と実践をする知識や知見をもっている。	の解決に向けて、計画と実践しようとする意識をもっている。	の解決に向けて、計画と実践をしようとする意識をもっていない。
IV. 冷静な分析力と持続的な地域貢献意識 (DP4)	科学的なエビデンスと論理性を大切にする冷静な分析力。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果について整合性を持って論理的に理解し、分析を冷静に展開している。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果について理解し、分析を展開することができる。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果について理解し、分析することができる。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果について理解し、分析しようとする意識をもっている。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果について理解し、分析しようとする意識をもっていない。
	長期の時間視野からの地域貢献の意義の理解。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果が、長期的時間視野において地域貢献にどう寄与するかを十分に理解している。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果が、地域貢献にどう寄与するかを理解することができる。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果が、地域貢献にどう寄与するかを理解する知識や知見をもっている。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果が、地域貢献にどう寄与するかを理解しようとする意識をもっている。	専門領域にかかる知識や知見、自らの実験や研究の成果が、地域貢献にどう寄与するかを理解しようとする意識をもっていない。

7. 教務関係日程表

令和8(2026)年度 教務関係スケジュール

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
前期	水	木	金	土	日	月	火	水	木①	金①	土①	日	月①	火①	水①	木②	金②	土②	日	月②	火②	水②	木③	金③	土③	日	月③	火③	水④	木		
	春季休業					入学式			授 業 期 間																							
						履修登録期間(4月6日～4月19日まで)										履修登録・修正期間(4月20日～4月26日まで)																
						新入生ガイダンス					結果発表		抽選2次		抽選3次												みなし水③					
						抽選1次																										
	金④	土④	日	月	火	水	木④	金	土⑤	日	月⑤	火④	水④	木⑤	金⑤	土	日	月⑥	火⑤	水⑤	木⑥	金⑥	土⑥	日	月⑦	火⑥	水⑥	木⑦	金⑦	土⑦	日	
											授 業 期 間																					
						みなし月④					Lポートフォリオ目標設定期間(履修登録完了後～5月末日まで)																					
						履修撤回					授業なし(新歓対応)																					
	6月	月⑧	火⑦	水⑦	木⑧	金⑧	土⑧	日	月⑨	火⑧	水⑧	木⑨	金⑨	土⑨	日	月⑩	火⑨	水⑨	木⑩	金⑩	土⑩	日	月⑪	火⑩	水⑩	木⑪	金⑪	土⑪	日	月⑫	火⑪	
後期											授 業 期 間																					
	水⑪	木⑫	金⑫	土⑫	日	月⑬	火⑫	水⑫	木⑬	金⑬	土⑬	日	月⑭	火⑬	水⑬	木⑭	金⑭	土⑭	日	月⑮	火⑭	水⑭	木⑮	金⑮	土⑮	日	月⑯	火⑮	水⑮	木	金	
											授 業 期 間										試験・補講											
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
	正規試験・補講期間(7/30～8/7)					夏季休業(集中講義・各種実習等)																										
9月						Lポートフォリオ自己評価期間(～成績発表前日(9/7)まで)										Lポートフォリオ自己評価期間(正規試験終了後～成績発表前日(9月7日)まで)																
						追試					夏季一斉休業					追試															卒論	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
	Lポートフォリオ自己評価期間(～成績発表前日(9/7)まで)					成績発表・不服申立(全学生)					夏季休業(集中講義・各種実習等)																				学位記授与式	

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
後期	10月	木①	金①	土①	日	月①	火①	水①	木②	金②	土②	日	月②	火②	水②	木③	金③	土③	日	月③	火②	水③	木④	金④	土④	日	月④	火③	水④	木⑤	金⑤	土⑤					
	授 業 期 間																																				
	履修登録期間(10月1日～10月14日まで)															履修登録・修正期間(10月15日～10月21日まで)										授業なし(福大祭)											
	抽選1次				結果		抽選2次		抽選3次				みなし月②																		履修撤回						
	11月	日	月⑤	火⑤	水⑤	木⑤	金⑤	土⑤	日	月⑥	火④	水⑥	木⑥	金⑥	土⑥	日	月⑦	火⑤	水⑦	木⑦	金⑦	土⑦	日	月⑧	火⑥	水⑧	木⑧	金⑧	土⑧	日	月⑨						
	授 業 期 間																																				
	(福大祭)		Lポートフォリオ目標設定期間(履修登録完了後～11月末日まで)																																		
	12月	火⑦	水⑨	木⑨	金⑨	土⑨	日	月⑨	火⑧	水⑩	木⑩	金⑩	土⑩	日	月⑩	火⑨	水⑪	木⑪	金⑪	土⑪	日	月⑪	火⑩	水⑫	木⑫	金⑫	土⑫	日	月⑫	火⑪	水⑬	木⑬					
	授 業 期 間																								冬季休業							年末年始一斉休業					
	前期	1月	金⑬	土⑬	日	月	火⑪	水⑬	木⑫	金⑬	土⑫	日	月⑫	火⑫	水⑭	木⑬	金⑭	土⑭	日	月⑬	火⑬	水⑭	木⑭	金⑭	土⑬	日	月⑭	火⑭	水⑮	木⑮	金⑮	土⑭	日				
冬季休業					授 業 期 間																																
年末年始一斉休業														みなし月⑫		授業なし(共通テスト対応)																					
前期	2月	月⑮	火⑮	水⑮	木⑮	金⑮	土⑮	日	月	火	水	木⑯	金⑯	土⑯	日	月	火	水	木⑰	金⑰	土⑰	日	月	火⑰	水⑰	木⑰	金⑰	土⑰	日								
	授業期間				正規試験・補講期間(2/4～2/13)												春 季 休 業																				
	卒論〆		みなし土⑮												Lポートフォリオ自己評価期間(正規試験終了後～成績発表前日(3月1日)まで)																						
															追試〆				追試				前期入試														
前期	3月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水					
	春 季 休 業																																				
	自己評価		成績発表・不服申立(全学生)														後期入試												学位記授与式								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					

8. 基盤教育授業科目一覽表

2026（令和8）年度 基盤教育科目授業一覧表

【 】 書きは、2018年度以前入学生用科目名称

社会とデータ科学の基礎

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	社会とデータ科学の基礎（教育実践）	植田 啓嗣 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（心理学・幼児教育）	原野 明子 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（特別支援・生活科学）	和田 恵 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（芸術・表現）	今尾 滋 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（人文科学）	澁澤 尚 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（数理自然科学）	中田 文憲 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（スポーツ健康科学）	小川 宏 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（行）	西田 奈保子 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（経）	佐藤 英司 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（理）	中村 勝一・樋口 良之 ほか	-	-	1	2	遠隔・対面	
前期	社会とデータ科学の基礎（食）	高橋 秀和 ほか	-	-	1	2	遠隔	

キャリア形成論

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリア形成論（人）	伊藤 雅隆 ほか	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論（行）A	中里 真・徳竹 剛	水	2	1	2	L1	
前期	キャリア形成論（行）B	中里 真・徳竹 剛	水	2	1	2	M21	
前期	キャリア形成論（経）	野口 寛樹	水	2	1	2	L4	
前期	キャリア形成論（理）	馬場 一晴	水	2	1	2	L3	
前期	キャリア形成論（食）	小山 良太	水	2	1	2	食大講	

健康運動科学実習

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	雨天時 教室	備考
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1		
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	2	1	1	S44	行政政策学類
前期	ソフトボール	竹田 隆一	月	2	1	1	M2	
前期	サッカー	(非)平山 相太	月	2	1	1	M21	
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1		
前期	バレーボール	小川 宏	月	3	1	1		
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1	S42	人間発達文化学類
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	S44	
前期	ソフトボール	竹田 隆一	月	3	1	1	M3	
前期	サッカー	(非)平山 相太	月	3	1	1	M34	
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1		
前期	テニス	蓮沼 哲哉	月	3	1	1		
前期	バレーボール	小川 宏	火	3	1	1		
前期	バドミントン	本嶋 良恵	火	3	1	1	M4	経済経営学類
前期	卓球	(非)菅家 礼子	火	3	1	1	M33	
前期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	火	3	1	1	M34	
前期	サッカー	松本 健太	火	3	1	1		
前期	テニス	杉浦 弘一	火	3	1	1		
前期	バレーボール	(非)佐藤 浩明	金	3	1	1		
前期	バドミントン	竹田 隆一	金	3	1	1	S14	共生システム理工学類
前期	ソフトボール	本嶋 良恵	金	3	1	1	M34	
前期	卓球	(非)川口 鉄二	金	3	1	1		
前期	テニス	(非)沼田 尚	金	3	1	1		
前期	バドミントン	竹田 隆一	金	4	1	1	S41	食農学類
前期	卓球	(非)川口 鉄二	金	4	1	1		
前期	テニス	(非)沼田 尚	金	4	1	1	S42	

英語AⅠ・AⅡ

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語AⅠ01	(非)飯嶋 良太	月	2	1	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語AⅠ02	(非)齋藤 伸	月	2	1	1	S32	
前期	英語AⅠ03	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S31	
前期	英語AⅠ04	(非)ウィリアム・スコット	月	2	1	1	S43	
前期	英語AⅠ05	(非)高橋 了治	月	2	1	1	S34	
前期	英語AⅠ06	(非)長谷川 明子	月	2	1	1	S21	
前期	英語AⅠ07	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S14	
前期	英語AⅠ08	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S38	
前期	英語AⅠ09	(非)ロナルド・スコット	月	2	1	1	S22	
前期	英語AⅠ10	(非)小室 竜也	月	2	1	1	S35	
前期	英語AⅠ21	佐藤 元樹	月	3	1	1	S28	行政政策・経済経営学類
前期	英語AⅠ22	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S31	
前期	英語AⅠ23	(非)ウィリアム・スコット	月	3	1	1	S43	
前期	英語AⅠ24	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S21	
前期	英語AⅠ25	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S14	
前期	英語AⅠ26	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S38	
前期	英語AⅠ27	(非)ロナルド・スコット	月	3	1	1	S22	
前期	英語AⅠ28	佐久間 康之	月	3	1	1	S23	
前期	英語AⅠ29	吉高神 明	月	3	1	1	S11	
前期	英語AⅠ30	(非)小室 竜也	月	3	1	1	S35	
前期	英語AⅠ61	(非)ロナルド・スコット	火	4	1	1	S22	食農学類
前期	英語AⅠ62	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S21	
後期	英語AⅠ11	(非)飯嶋 良太	月	2	1	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語AⅠ12	(非)齋藤 伸	月	2	1	1	S32	
後期	英語AⅠ13	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S31	
後期	英語AⅠ14	(非)ウィリアム・スコット	月	2	1	1	S43	
後期	英語AⅠ15	(非)高橋 了治	月	2	1	1	S34	
後期	英語AⅠ16	(非)長谷川 明子	月	2	1	1	S21	
後期	英語AⅠ17	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S14	
後期	英語AⅠ18	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S38	
後期	英語AⅠ19	(非)ロナルド・スコット	月	2	1	1	S22	
後期	英語AⅠ20	(非)小室 竜也	月	2	1	1	S35	
後期	英語AⅠ41 (上級)	佐久間 康之	月	2	1	1	S23	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語AⅠ42 (基礎)	吉高神 明	月	2	1	1	S11	
後期	英語AⅠ31	佐藤 元樹	月	3	1	1	S28	行政政策・経済経営学類
後期	英語AⅠ32	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S31	
後期	英語AⅠ33	(非)ウィリアム・スコット	月	3	1	1	S43	
後期	英語AⅠ34	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S21	
後期	英語AⅠ35	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S14	
後期	英語AⅠ36	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S38	
後期	英語AⅠ37	(非)ロナルド・スコット	月	3	1	1	S22	
後期	英語AⅠ38	佐久間 康之	月	3	1	1	S23	
後期	英語AⅠ39	吉高神 明	月	3	1	1	S11	
後期	英語AⅠ40	(非)小室 竜也	月	3	1	1	S35	
後期	英語AⅠ43 (上級)	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S36	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語AⅠ44 (基礎)	朝賀 俊彦	月	3	1	1	S34	
後期	英語AⅠ71	(非)ロナルド・スコット	火	4	1	1	S22	食農学類
後期	英語AⅠ72	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S21	
前期	英語AⅡ61	高田 英和	木	2	1	1	S21	食農学類
前期	英語AⅡ62	(非)ロナルド・スコット	木	2	1	1	S22	
前期	英語AⅡ63	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S38	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語AⅡ01	村上 雄一	金	1	1	1	M33	
前期	英語AⅡ02	(非)久保田 恵佑	金	1	1	1	S41	
前期	英語AⅡ03	(非)齋藤 元康	金	1	1	1	S42	
前期	英語AⅡ04	(非)齋藤 伸	金	1	1	1	S32	
前期	英語AⅡ05	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S21	
前期	英語AⅡ06	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S33	
前期	英語AⅡ07	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S12	
前期	英語AⅡ08	(非)ウィリアム・スコット	金	1	1	1	S43	
前期	英語AⅡ09	フィリップ・マッカーズランド	金	1	1	1	S38	
前期	英語AⅡ10	照沼 かほる	金	1	1	1	S14	行政政策・経済経営学類
前期	英語AⅡ21	照沼 かほる	金	3	1	1	S36	
前期	英語AⅡ22	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S12	
前期	英語AⅡ23	(非)齋藤 元康	金	3	1	1	S42	
前期	英語AⅡ24	(非)猪井 新一	金	3	1	1	S23	
前期	英語AⅡ25	高木 修一	金	3	1	1	S24	
前期	英語AⅡ26	村上 雄一	金	3	1	1	M33	
前期	英語AⅡ27	(非)ヤン・ユ・フェイ	金	3	1	1	S32	
前期	英語AⅡ28	(非)ウィリアム・スコット	金	3	1	1	S43	
前期	英語AⅡ29	(非)ロナルド・スコット	金	3	1	1	S22	
前期	英語AⅡ30	フィリップ・マッカーズランド	金	3	1	1	S38	食農学類
後期	英語AⅡ71	高田 英和	木	2	1	1	S21	
後期	英語AⅡ72	(非)ロナルド・スコット	木	2	1	1	S22	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語AⅡ73	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S38	
後期	英語AⅡ11	村上 雄一	金	1	1	1	M33	
後期	英語AⅡ12	(非)久保田 恵佑	金	1	1	1	S41	
後期	英語AⅡ13	(非)齋藤 元康	金	1	1	1	S42	
後期	英語AⅡ14	(非)齋藤 伸	金	1	1	1	S32	
後期	英語AⅡ15	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S21	
後期	英語AⅡ16	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S33	
後期	英語AⅡ17	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S12	
後期	英語AⅡ18	(非)ウィリアム・スコット	金	1	1	1	S43	
後期	英語AⅡ19	フィリップ・マッカーズランド	金	1	1	1	S38	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語AⅡ20	照沼 かほる	金	1	1	1	S14	
後期	英語AⅡ41 (上級)	高木 修一	金	1	1	1	S24	
後期	英語AⅡ42 (基礎)	高田 英和	金	1	1	1	S23	
後期	英語AⅡ31	照沼 かほる	金	3	1	1	S36	
後期	英語AⅡ32	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S12	
後期	英語AⅡ33	(非)齋藤 元康	金	3	1	1	S42	
後期	英語AⅡ34	(非)猪井 新一	金	3	1	1	S23	
後期	英語AⅡ35	高木 修一	金	3	1	1	S24	
後期	英語AⅡ36	村上 雄一	金	3	1	1	M33	
後期	英語AⅡ37	(非)ヤン・ユ・フェイ	金	3	1	1	S32	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語AⅡ38	(非)ウィリアム・スコット	金	3	1	1	S43	
後期	英語AⅡ39	(非)ロナルド・スコット	金	3	1	1	S22	
後期	英語AⅡ40	フィリップ・マッカーズランド	金	3	1	1	S38	
後期	英語AⅡ43 (上級)	川田 潤	金	3	1	1	S14	
後期	英語AⅡ44 (基礎)	福富 靖之	金	3	1	1	S35	

人文科学分野【「人間と文化」分野】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	精神疾患とその治療	片山 規央	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業
前期	心理学Ⅱ	岸 竜馬	木	1	1	2	L1	
前期	言語・文学Ⅰ	半沢 康・井実 充史	金	2	1	2	L2	
後期	美術	加藤 奈保子	月	1	1	2	M21	
後期	哲学Ⅱ	(非)額岸 佑亮	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業(定員500名)
後期	音楽	杉田 政夫 (ほか)	水	2	1	2	音201	
後期	倫理学	小野原 雅夫・樋口 良之	水	2	1	2	L4	
後期	ことばの仕組み	福富 靖之	木	1	1	2	L1	
後期	言語・文学Ⅱ	高橋 由貴 (ほか)	金	2	1	2	L2	

社会科学分野【「社会と歴史」分野】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	経営学	村上 早紀子	月	1	1	2	L3	経済経営学類生履修不可
前期	歴史学Ⅰ	阿部 浩一・鍵和田 賢	木	1	1	2	L2	
前期	政治学	大黒 太郎	木	1	1	2	L4	
前期	ジェンダー学入門	高橋 準	金	2	1	2	L3	
後期	日本国憲法01	鈴木 めぐみ	水	2	1	2	L1	行政政策学類生履修不可
後期	経済学Ⅰ	荒 知宏	木	1	1	2	M21	経済経営学類生履修不可
後期	日本国憲法02	(非)二瓶 由美子	金	2	1	2	L1	行政政策学類生履修不可
後期	地理学Ⅰ	末吉 健治	金	2	1	2	M21	

自然科学分野【「自然と技術」分野】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	物質の科学	岩村 振一郎	月	1	1	2	M2	
前期	情報化と経営	石岡 賢	木	1	1	2	M21	
前期	食と健康	升本 早枝子	金	2	1	2	L4	
後期	食品の機能	熊谷 武久	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業(定員400名)
後期	人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	岡 史仁	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	環境の科学Ⅰ	川崎 興太	水	2	1	2	M21	
後期	ちからとうごき	馬場 一晴 (ほか)	木	1	1	2	M2	
後期	環境の科学Ⅱ	川越 清樹	金	2	1	2	M2	

ワーキングスキル【総合科目】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	身近なデータと問題解決				2	2		2年生以上 (2026年度欠講)
前期	アントレプレナーシップ概論	大越 正弘	月	3	2	2	M1	2年生以上
後期	ICTと身近な問題解決				2	2		2年生以上 (2026年度欠講)
後期	知的財産の基礎知識 (JASRAC寄附講座)	横島 善子	火	4	2	2	L1	2年生以上
後期	ワーキングシミュレーション	石井 由貴	火	4	2	2	S24	2年生以上
後期	データサイエンス実践演習A	加藤 穂高	木	3	2	2	S21	2年生以上
後期	データサイエンス実践演習B	鈴木 光海	木	3	2	2	S22	2年生以上

スポーツ実習

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	雨天時 教室	備考
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	L2	行政政策・経済経営学類
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1	L3	
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	2	1	1		
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1	S42	人間発達文化学類
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1		
後期	卓球	小川 宏	月	3	1	1	S44	
後期	ソフトボール	本嶋 良恵	月	3	1	1	M33	
後期	アルティメット	杉浦 弘一	月	3	1	1	M34	
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	3	1	1		
後期	バレーボール	(非)佐藤 浩明	金	3	1	1		
後期	コンディショニング	(非)鈴木 史江	金	3	1	1	L1	共生システム理工・食農学類
後期	アルティメット	杉浦 弘一	金	3	1	1		

英語BⅠ・BⅡ、応用英語

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語BⅠ01	佐久間 康之	月	1	2	1	S23	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語BⅠ02	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S28	
前期	英語BⅠ03	(非)ロナルド・スコット	月	1	2	1	S22	
前期	英語BⅠ04	(非)飯嶋 良太	月	1	2	1	M34	
前期	英語BⅠ05	(非)齋藤 伸	月	1	2	1	S32	
前期	英語BⅠ06	(非)川崎 和基	月	1	2	1	S35	
前期	英語BⅠ07	(非)ウィリアム・スコット	月	1	2	1	S43	
前期	英語BⅠ08	(非)高橋 了治	月	1	2	1	S34	
前期	英語BⅠ09	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S21	
前期	英語BⅠ41 (上級)	(非)植竹 大輔	月	1	2	1	S38	食農学類も受講可
前期	英語BⅠ42 (基礎)	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S33	食農学類も受講可
前期	英語BⅠ61	佐藤 元樹	火	2	2	1	S36	食農学類
前期	英語BⅠ62	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S21	
前期	英語BⅠ21	(非)ロナルド・スコット	水	1	2	1	S22	行政政策・経済経営学類
前期	英語BⅠ22	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S31	
前期	英語BⅠ23	(非)齋藤 伸	水	1	2	1	S32	
前期	英語BⅠ24	(非)猪井 新一	水	1	2	1	S23	
前期	英語BⅠ25	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S21	
前期	英語BⅠ26	(非)九頭見 理香	水	1	2	1	S33	
前期	英語BⅠ27	(非)植竹 大輔	水	1	2	1	S38	
前期	英語BⅠ28	(非)飯嶋 良太	水	1	2	1	M34	
前期	英語BⅠ29	吉高神 明	水	1	2	1	S11	
前期	英語BⅠ43 (上級)	福富 靖之	水	1	2	1	S36	食農学類も受講可
前期	英語BⅠ44 (基礎)	高木 修一	水	1	2	1	S28	食農学類も受講可
後期	英語BⅠ11	佐久間 康之	月	1	2	1	S23	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語BⅠ12	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S28	
後期	英語BⅠ13	(非)ロナルド・スコット	月	1	2	1	S22	
後期	英語BⅠ14	(非)飯嶋 良太	月	1	2	1	M34	
後期	英語BⅠ15	(非)齋藤 伸	月	1	2	1	S32	
後期	英語BⅠ16	(非)川崎 和基	月	1	2	1	S35	
後期	英語BⅠ17	(非)ウィリアム・スコット	月	1	2	1	S43	
後期	英語BⅠ18	(非)高橋 了治	月	1	2	1	S34	
後期	英語BⅠ19	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S21	
後期	英語BⅠ51 (上級)	(非)植竹 大輔	月	1	2	1	S38	食農学類も受講可
後期	英語BⅠ52 (基礎)	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S33	食農学類も受講可
後期	英語BⅠ71	佐藤 元樹	火	2	2	1	S36	食農学類
後期	英語BⅠ72	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S21	
後期	英語BⅠ31	(非)ロナルド・スコット	水	1	2	1	S22	行政政策・経済経営学類
後期	英語BⅠ32	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S31	
後期	英語BⅠ33	(非)齋藤 伸	水	1	2	1	S32	
後期	英語BⅠ34	(非)猪井 新一	水	1	2	1	S23	
後期	英語BⅠ35	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S21	
後期	英語BⅠ36	(非)九頭見 理香	水	1	2	1	S33	
後期	英語BⅠ37	(非)植竹 大輔	水	1	2	1	S38	
後期	英語BⅠ38	(非)飯嶋 良太	水	1	2	1	M34	
後期	英語BⅠ39	吉高神 明	水	1	2	1	S11	
後期	英語BⅠ53 (上級)	福富 靖之	水	1	2	1	S36	食農学類も受講可
後期	英語BⅠ54 (基礎)	高木 修一	水	1	2	1	S28	食農学類も受講可

前期	英語BⅡ01	(非)飯嶋 良太	水	2	2	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語BⅡ02	(非)植竹 大輔	水	2	2	1	S38	
前期	英語BⅡ03	(非)長谷川 明子	水	2	2	1	S21	
前期	英語BⅡ04	(非)齊藤 伸	水	2	2	1	S32	
前期	英語BⅡ05	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	M33	
前期	英語BⅡ06	(非)マーニ・タヴァーコリ	水	2	2	1	S31	
前期	英語BⅡ07	(非)ウィリアム・スコット	水	2	2	1	S43	
前期	英語BⅡ08	(非)ロナルド・スコット	水	2	2	1	S22	
前期	英語BⅡ09	吉高神 明	水	2	2	1	S11	
前期	英語BⅡ41 (上級)	村上 雄一	水	2	2	1	S12	食農学類も受講可 食農学類も受講可
前期	英語BⅡ42 (基礎)	川田 潤	水	2	2	1	S36	
前期	英語BⅡ61	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S38	食農学類
前期	英語BⅡ62	(非)ロナルド・スコット	木	4	2	1	S22	
前期	英語BⅡ63	高田 英和	木	4	2	1	S21	行政政策・経済経営学類
前期	英語BⅡ21	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S33	
前期	英語BⅡ22	(非)久保田 恵佑	金	2	2	1	S41	
前期	英語BⅡ23	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S42	
前期	英語BⅡ24	(非)齊藤 伸	金	2	2	1	S32	
前期	英語BⅡ25	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S23	
前期	英語BⅡ26	(非)ウィリアム・スコット	金	2	2	1	S43	
前期	英語BⅡ27	(非)ロナルド・スコット	金	2	2	1	S22	
前期	英語BⅡ28	フィリップ・マッカーズランド	金	2	2	1	S38	
前期	英語BⅡ29	久我 和巳	金	2	2	1	S31	食農学類も受講可 食農学類も受講可
前期	英語BⅡ43 (上級)	照沼 かほる	金	2	2	1	S35	
前期	英語BⅡ44 (基礎)	川田 潤	金	2	2	1	S14	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語BⅡ11	(非)飯嶋 良太	水	2	2	1	M34	
後期	英語BⅡ12	(非)植竹 大輔	水	2	2	1	S38	
後期	英語BⅡ13	(非)長谷川 明子	水	2	2	1	S21	
後期	英語BⅡ14	(非)齊藤 伸	水	2	2	1	S32	
後期	英語BⅡ15	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	M33	
後期	英語BⅡ16	(非)マーニ・タヴァーコリ	水	2	2	1	S31	
後期	英語BⅡ17	(非)ウィリアム・スコット	水	2	2	1	S43	
後期	英語BⅡ18	(非)ロナルド・スコット	水	2	2	1	S22	
後期	英語BⅡ19	吉高神 明	水	2	2	1	S11	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語BⅡ51 (上級)	村上 雄一	水	2	2	1	S12	
後期	英語BⅡ52 (基礎)	川田 潤	水	2	2	1	S36	食農学類
後期	英語BⅡ71	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S38	
後期	英語BⅡ72	(非)ロナルド・スコット	木	4	2	1	S22	行政政策・経済経営学類
後期	英語BⅡ73	高田 英和	木	4	2	1	S21	
後期	英語BⅡ31	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S33	
後期	英語BⅡ32	(非)久保田 恵佑	金	2	2	1	S41	
後期	英語BⅡ33	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S42	
後期	英語BⅡ34	(非)齊藤 伸	金	2	2	1	S32	
後期	英語BⅡ35	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S23	
後期	英語BⅡ36	(非)ウィリアム・スコット	金	2	2	1	S43	
後期	英語BⅡ37	(非)ロナルド・スコット	金	2	2	1	S22	
後期	英語BⅡ38	フィリップ・マッカーズランド	金	2	2	1	S38	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語BⅡ39	久我 和巳	金	2	2	1	S31	
後期	英語BⅡ53 (上級)	照沼 かほる	金	2	2	1	S35	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語BⅡ54 (基礎)	川田 潤	金	2	2	1	S14	
前期	応用英語ⅩⅠ	(非)小室 竜也	月	5	1	1	S35	学類指定なし (2019年度以降入学生のみ)
前期	応用英語ⅩⅢ	(非)佐々木 俊彦	火	5	1	1	S35	
前期	応用英語ⅩⅤ	フィリップ・マッカーズランド	水	1	1	1	S41	
前期	応用英語ⅩⅦ	(非)長谷川 明子	木	5	1	1	S35	
前期	応用英語ⅩⅨ	福富 靖之	金	5	1	1	S35	学類指定なし (2019年度以降入学生のみ)
後期	応用英語ⅩⅡ	(非)小室 竜也	月	5	1	1	S35	
後期	応用英語ⅩⅣ	(非)佐々木 俊彦	火	5	1	1	S35	
後期	応用英語ⅩⅥ	フィリップ・マッカーズランド	水	1	1	1	S41	
後期	応用英語ⅩⅧ	福富 靖之	木	5	1	1	S35	
後期	応用英語ⅩⅩ	福富 靖之	金	5	1	1	S35	

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教室	備考
前期	ドイツ語基礎ⅠA	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S11	主に行政政策・経済経営学類
前期	ドイツ語基礎ⅠB	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	1	S12	
前期	ドイツ語基礎ⅠC	(非)齊藤 寛	木	2	1	1	S13	
前期	ドイツ語基礎ⅠD	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ドイツ語基礎ⅠE	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S11	
前期	ドイツ語基礎ⅠF	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	1	S13	
前期	ドイツ語基礎ⅠG	(非)グンスケフォンケルン・J	木	4	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ドイツ語基礎（特設）ⅠA	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S11	
前期	ドイツ語基礎（特設）ⅠB	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S12	
前期	ドイツ語基礎（特設）ⅠC	ぐんすけふおんけるん・M	木	4	1	1	S11	主に行政政策・経済経営学類
後期	ドイツ語基礎ⅡA	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S11	
後期	ドイツ語基礎ⅡB	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	1	S12	
後期	ドイツ語基礎ⅡC	(非)齊藤 寛	木	2	1	1	S13	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ドイツ語基礎ⅡD	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S12	
後期	ドイツ語基礎ⅡE	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S11	
後期	ドイツ語基礎ⅡF	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	1	S13	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ドイツ語基礎ⅡG	(非)齊藤 寛	木	4	1	1	S12	
後期	ドイツ語基礎（特設）ⅡA	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S11	
後期	ドイツ語基礎（特設）ⅡB	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S12	主に行政政策・経済経営学類
後期	ドイツ語基礎（特設）ⅡC	ぐんすけふおんけるん・M	木	4	1	1	S11	
前期	【ドイツ語初級ⅠBC】	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	2	S12	
		(非)齊藤 寛	木	2	1		S13	（2018年度以前入学生のみのみ）
前期	【ドイツ語初級ⅠFG】	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	2	S13	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)グンスケフォンケルン・J	木	4	1		S12	
後期	【ドイツ語初級ⅡBC】	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	2	S12	
		(非)齊藤 寛	木	2	1		S13	（2018年度以前入学生のみのみ）
後期	【ドイツ語初級ⅡFG】	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	2	S13	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)齊藤 寛	木	4	1		S12	
前期	ドイツ語応用ⅠA【ドイツ語中級A】	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S11	
前期	ドイツ語応用ⅠB【ドイツ語中級B】	ぐんすけふおんけるん・M	木	3	2	1	S11	学類指定なし
後期	ドイツ語応用ⅡA【ドイツ語中級C】	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S11	
後期	ドイツ語応用ⅡB【ドイツ語中級D】	ぐんすけふおんけるん・M	木	3	2	1	S11	
前期	フランス語基礎ⅠA	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S38	主に行政政策・経済経営学類
前期	フランス語基礎ⅠB	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S35	
前期	フランス語基礎ⅠC	田村 奈保子	木	2	1	1	M33	
前期	フランス語基礎ⅠD	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S38	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	フランス語基礎ⅠE	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S35	
前期	フランス語基礎ⅠF	田村 奈保子	木	4	1	1	M33	
前期	フランス語基礎(特設)Ⅰ	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S21	主に行政政策・経済経営学類
後期	フランス語基礎ⅡA	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S38	
後期	フランス語基礎ⅡB	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S35	
後期	フランス語基礎ⅡC	田村 奈保子	木	2	1	1	M33	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	フランス語基礎ⅡD	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S38	
後期	フランス語基礎ⅡE	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S35	
後期	フランス語基礎ⅡF	田村 奈保子	木	4	1	1	M33	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	フランス語基礎(特設)Ⅱ	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S21	
前期	【フランス語初級ⅠAC】	(非)平手 伸昭	火	2	1	2	S38	
		田村 奈保子	木	2	1		M33	（2018年度以前入学生のみのみ）
前期	【フランス語初級ⅠDF】	(非)平手 伸昭	火	3	1	2	S38	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		田村 奈保子	木	4	1		M33	
後期	【フランス語初級ⅡAC】	(非)平手 伸昭	火	2	1	2	S38	
		田村 奈保子	木	2	1		M33	（2018年度以前入学生のみのみ）
後期	【フランス語初級ⅡDF】	(非)平手 伸昭	火	3	1	2	S38	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		田村 奈保子	木	4	1		M33	
前期	フランス語応用ⅠA【フランス語中級A】	(非)レジス・ドラビゾン	火	1	2	1	S12	
前期	フランス語応用ⅠB【フランス語中級B】	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S12	学類指定なし
後期	フランス語応用ⅡA【フランス語中級C】	(非)レジス・ドラビゾン	火	1	2	1	S12	
後期	フランス語応用ⅡB【フランス語中級D】	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S12	

前期	中国語基礎ⅠA	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S32	主に行政政策・経済経営学類
前期	中国語基礎ⅠB	(非)呉 怡芳	火	2	1	1	S31	
前期	中国語基礎ⅠC	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S32	
前期	中国語基礎ⅠD	(非)王 效紅	木	2	1	1	S34	
前期	中国語基礎ⅠE	(非)池澤 貴芳	木	2	1	1	S33	
前期	中国語基礎ⅠF	(非)井上 浩一	木	2	1	1	S35	
前期	中国語基礎ⅠG	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S34	
前期	中国語基礎ⅠH	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S32	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	中国語基礎ⅠI	(非)池澤 貴芳	火	3	1	1	S33	
前期	中国語基礎ⅠJ	(非)呉 怡芳	火	3	1	1	S31	
前期	中国語基礎ⅠK	金 敬雄	木	4	1	1	S23	
前期	中国語基礎ⅠL	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S32	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	中国語基礎ⅠM	(非)王 效紅	木	4	1	1	S34	
前期	中国語基礎ⅠN	(非)手代木 有兒	木	4	1	1	S36	
前期	中国語基礎(特設)ⅠA	金 敬雄	火	2	1	1	S23	
前期	中国語基礎(特設)ⅠB	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S34	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	中国語基礎(特設)ⅠC	金 敬雄	火	3	1	1	S23	
前期	中国語基礎(特設)ⅠD	(非)手代木 有兒	火	3	1	1	S36	
後期	中国語基礎ⅡA	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S32	
後期	中国語基礎ⅡB	(非)呉 怡芳	火	2	1	1	S31	主に行政政策・経済経営学類
後期	中国語基礎ⅡC	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S32	
後期	中国語基礎ⅡD	(非)王 效紅	木	2	1	1	S34	
後期	中国語基礎ⅡE	(非)池澤 貴芳	木	2	1	1	S33	
後期	中国語基礎ⅡF	(非)井上 浩一	木	2	1	1	S35	
後期	中国語基礎ⅡG	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S34	
後期	中国語基礎ⅡH	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S32	
後期	中国語基礎ⅡI	(非)池澤 貴芳	火	3	1	1	S33	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	中国語基礎ⅡJ	(非)呉 怡芳	火	3	1	1	S31	
後期	中国語基礎ⅡK	金 敬雄	木	4	1	1	S23	
後期	中国語基礎ⅡL	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S32	
後期	中国語基礎ⅡM	(非)王 效紅	木	4	1	1	S34	
後期	中国語基礎ⅡN	(非)手代木 有兒	木	4	1	1	S36	
後期	中国語基礎(特設)ⅡA	金 敬雄	火	2	1	1	S23	
後期	中国語基礎(特設)ⅡB	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S34	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	中国語基礎(特設)ⅡC	金 敬雄	火	3	1	1	S23	
後期	中国語基礎(特設)ⅡD	(非)手代木 有兒	火	3	1	1	S36	
前期	【中国語初級ⅠBE】	(非)呉 怡芳	火	2	1	2	S31	
		(非)池澤 貴芳	木	2	1	2	S33	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
前期	【中国語初級ⅠGM】	(非)井上 浩一	火	3	1	2	S34	
		(非)王 效紅	木	4	1	2	S34	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【中国語初級ⅡBE】	(非)呉 怡芳	火	2	1	2	S31	
		(非)池澤 貴芳	木	2	1	2	S33	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【中国語初級ⅡGM】	(非)井上 浩一	火	3	1	2	S34	
		(非)王 效紅	木	4	1	2	S34	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
前期	中国語応用ⅠA【中国語中級A】	金 敬雄	火	1	2	1	S23	
前期	中国語応用ⅠB【中国語中級B】	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S34	学類指定なし
前期	中国語応用ⅠC【中国語中級C】	(非)伊藤 由美	火	1	2	1	S32	
前期	中国語応用ⅠD【中国語中級D】	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S32	
前期	中国語応用ⅠE【中国語中級E】	(非)王 效紅	木	3	2	1	S34	
後期	中国語応用ⅡA【中国語中級F】	金 敬雄	火	1	2	1	S23	
後期	中国語応用ⅡB【中国語中級G】	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S34	
後期	中国語応用ⅡC【中国語中級H】	(非)伊藤 由美	火	1	2	1	S32	
後期	中国語応用ⅡD【中国語中級I】	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S32	
後期	中国語応用ⅡE【中国語中級J】	(非)王 效紅	木	3	2	1	S34	学類指定なし
前期	ロシア語基礎ⅠA	(非)吉川 宏入	火	2	1	1	S28	
前期	ロシア語基礎ⅠB	(非)吉川 宏入	木	2	1	1	S28	
前期	ロシア語基礎ⅠC	クズネツォーフ・マリナ	火	3	1	1	S28	
前期	ロシア語基礎ⅠD	クズネツォーフ・マリナ	木	4	1	1	S28	
前期	ロシア語基礎(特設)Ⅰ	クズネツォーフ・マリナ	金	2	1	1	S28	
後期	ロシア語基礎ⅡA	クズネツォーフ・マリナ	火	2	1	1	S28	
後期	ロシア語基礎ⅡB	(非)吉川 宏入	木	2	1	1	S28	
後期	ロシア語基礎ⅡC	クズネツォーフ・マリナ	火	3	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ロシア語基礎ⅡD	(非)カザンツェフ・ラーダ	木	4	1	1	S28	
後期	ロシア語基礎(特設)Ⅱ	クズネツォーフ・マリナ	金	2	1	1	S28	
前期	【ロシア語初級ⅠAB】	(非)吉川 宏入	火	2	1	2	S28	
		(非)吉川 宏入	木	2	1	2	S28	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
前期	【ロシア語初級ⅠCD】	クズネツォーフ・マリナ	火	3	1	2	S28	
		クズネツォーフ・マリナ	木	4	1	2	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【ロシア語初級ⅡAB】	クズネツォーフ・マリナ	火	2	1	2	S28	
		(非)吉川 宏入	木	2	1	2	S28	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【ロシア語初級ⅡCD】	クズネツォーフ・マリナ	火	3	1	2	S28	
		(非)カザンツェフ・ラーダ	木	4	1	2	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
前期	ロシア語応用ⅠA【ロシア語中級A】	(非)吉川 宏入	火	1	2	1	S28	
前期	ロシア語応用ⅠB【ロシア語中級B】	クズネツォーフ・マリナ	木	3	2	1	S28	学類指定なし
後期	ロシア語応用ⅡA【ロシア語中級C】	(非)吉川 宏入	火	1	2	1	S28	
後期	ロシア語応用ⅡB【ロシア語中級D】	(非)カザンツェフ・ラーダ	木	3	2	1	S28	
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠA	伊藤 俊介	火	2	1	1	S14	
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠB	伊藤 俊介	木	2	1	1	S14	主に行政政策・経済経営学類
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠC	伊藤 俊介	火	3	1	1	S14	
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠD	(非)梁 姫淑	火	3	1	1	S21	
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠE	(非)朴 相賢	木	4	1	1	S35	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅠA	伊藤 俊介	金	2	1	1	S12	
前期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅠB	(非)梁 姫淑	金	2	1	1	S11	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡA	伊藤 俊介	火	2	1	1	S14	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡB	伊藤 俊介	木	2	1	1	S14	主に行政政策・経済経営学類
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡC	伊藤 俊介	火	3	1	1	S14	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡD	(非)梁 姫淑	火	3	1	1	S21	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡE	(非)朴 相賢	木	4	1	1	S35	
後期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅡA	伊藤 俊介	金	2	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅡB	(非)梁 姫淑	金	2	1	1	S11	
前期	【韓国朝鮮語初級ⅠAB】	伊藤 俊介	火	2	1	2	S14	
		伊藤 俊介	木	2	1	2	S14	
前期	【韓国朝鮮語初級ⅠCE】	伊藤 俊介	火	3	1	2	S14	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
		(非)朴 相賢	木	4	1	2	S35	
後期	【韓国朝鮮語初級ⅡAB】	伊藤 俊介	火	2	1	2	S14	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
		伊藤 俊介	木	2	1	2	S14	
後期	【韓国朝鮮語初級ⅡCE】	伊藤 俊介	火	3	1	2	S14	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
		(非)朴 相賢	木	4	1	2	S35	
前期	韓国朝鮮語応用ⅠA【韓国朝鮮語中級A】	伊藤 俊介	火	1	2	1	S14	学類指定なし
前期	韓国朝鮮語応用ⅠB【韓国朝鮮語中級B】	(非)朴 相賢	火	3	2	1	S35	
後期	韓国朝鮮語応用ⅡA【韓国朝鮮語中級C】	伊藤 俊介	火	1	2	1	S14	
後期	韓国朝鮮語応用ⅡB【韓国朝鮮語中級D】	(非)朴 相賢	木	3	2	1	S35	

日本語Ⅰ～Ⅳ、日本事情Ⅰ～Ⅳ（外国人留学生のみ）

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	日本語ⅠA	井本 亮	火	2	1	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
前期	日本語ⅠB	井本 亮	木	2	1	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
前期	日本語ⅢA	井本 亮	火	1	2	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
前期	日本語ⅢB	井本 亮	木	3	2	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
後期	日本語ⅡA	井本 亮	火	2	1	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
後期	日本語ⅡB	井本 亮	木	2	1	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
後期	日本語ⅣA	井本 亮	火	1	2	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
後期	日本語ⅣB	井本 亮	木	3	2	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
前期	【日本語Ⅰ】	井本 亮	火	2	1	2	S24	留学生（2018年度以前入学生のみ）
		井本 亮	木	2	1	2	S24	
前期	【日本語Ⅲ】	井本 亮	火	1	2	2	S24	留学生（2018年度以前入学生のみ）
		井本 亮	木	3	2	2	S24	
後期	【日本語Ⅱ】	井本 亮	火	2	1	2	S24	留学生（2018年度以前入学生のみ）
		井本 亮	木	2	1	2	S24	
後期	【日本語Ⅳ】	井本 亮	火	1	2	2	S24	留学生（2018年度以前入学生のみ）
		井本 亮	木	3	2	2	S24	
前期	日本事情Ⅰ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S24	留学生
後期	日本事情Ⅱ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S24	留学生

情報リテラシー【情報処理Ⅰ】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	情報リテラシー01【情報処理Ⅰ01】	松本 正晴	月	1	1	2	情205	
前期	情報リテラシー02【情報処理Ⅰ02】	(非)菅野 浩子	木	1	1	2	情205	
前期	情報リテラシー03【情報処理Ⅰ03】	内海 哲史	金	2	1	2	理コンピュータ室	
前期	情報リテラシー04【情報処理Ⅰ04】	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	情205	
後期	情報リテラシー05【情報処理Ⅰ05】	(非)篠田 伸夫	月	1	1	2	情205	
後期	情報リテラシー06【情報処理Ⅰ06】	松本 正晴	水	2	1	2	情205	
後期	情報リテラシー07【情報処理Ⅰ07】	寛 宗徳	木	1	1	2	情205	
後期	情報リテラシー08【情報処理Ⅰ08】	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	情205	

問題探究科目【総合科目】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ボランティア論	初澤 敏生	月	1	1	2	S24	定員30名
前期	暮らしと仕事と大学生	熊沢 透	月	1	1	2	M4	
前期	大学で学ぶ	高森 智嗣	月	1	1	2	L1	
前期	哲学カフェ	小野原 雅夫	木	1	1	2	S31～34	定員50名
前期	生活探究演習	中村 恵子 ほか	木	1	1	2	S22	定員24名
前期	福島のブランド農業	則藤 孝志 ほか	木	1	1	2	M1	
前期	福島の地域データ	加藤 穂高	木	1	1	2	M22	
前期	STEAM実践学修	中田 文憲 ほか	金	2	1	2	M3	定員50名
前期	人・食・環境・生物の共生関係	望月 翔太 ほか	金	2	1	2	M23	
前期	ふくしま未来学入門Ⅰ	前川 直哉 ほか	金	2	1	2	遠隔	遠隔授業
前期	地域課題とビジネス	加藤 穂高	金	2	3	2	S13	3年生以上(高年次教養科目)
前期	むらの大学Ⅰ	前川 直哉 ほか	金	5	1	2	L1	
前期	EBPM入門	加藤 穂高	木	3	3	2	S13	3年生以上(高年次教養科目)
前期	地方と若者	鈴木 光海	金	2	1	2	S24	
後期	評価論入門	高森 智嗣	月	1	1	2	M22	
後期	環境放射能学入門	難波 謙二 ほか	水	2	1	2	M1	
後期	地域と世界の未来をつくる科学	川越 清樹 ほか	水	2	1	2	M22	
後期	震災農村復興論	小山 良太 ほか	水	2	1	2	M2	
後期	災害復興学	藤室 玲治 ほか	水	2	1	2	L2	
後期	大学的福島ガイド	阿部 浩一 ほか	木	1	1	2	L2	
後期	SDGsと経営	根建 晶寛	木	1	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	地域デザイン	江尻 綾美	木	1	1	2	M3	
後期	データから考えるジェンダー	前川 直哉	木	1	1	2	S28	
後期	立ち直りと地域共生社会	高橋 有紀	金	2	1	2	L3	
後期	ふくしま未来学入門Ⅱ	久保田 彩乃 ほか	金	2	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	むらの大学ⅡA	未定	金	5	1	2	S21	
後期	むらの大学ⅡB	前川 直哉	金	5	1	2	S22	
後期	むらの大学ⅡC	鈴木 敦己	金	5	1	2	S23	
後期	むらの大学ⅡD	久保田 彩乃	金	5	1	2	S24	
後期	むらの大学（滞在型）	前川 直哉・鈴木 敦己	-	-	2	2	-	
後期	データサイエンスの基礎	高森 智嗣 ほか	-	-	2	2	遠隔	遠隔授業(共生システム理工学類2024年度以降入学生は対象外)
後期	地域課題と探究指導	前川 直哉 ほか	-	-	3	2	-	
後期	データ分析入門01	鈴木 光海 ほか	水	2	1	2	S13	
後期	データ分析入門02	加藤 穂高 ほか	木	1	1	2	S13	

9. 接続領域の履修について

接続領域の履修について

「接続領域」は、高校教育と大学の専門的な教育とをスムーズに連結させ、大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身に付けることを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。各科目の指導内容や開講のしくみ、到達すべき目標はそれぞれある程度共通化されています。

これにより質保証を図り、学類専門教育へ円滑に接続させていきます。

（１）スタートアップ科目について

高校までに培われた能力に加えて、大学ならではの学問的学びの基盤を養っていくために、必修科目として「スタートアップセミナー」と「社会とデータ科学の基礎」を開講します。「スタートアップセミナー」は大学で学ぶための基本的なアカデミック・スキルズを身に付けることを目的としています。「社会とデータ科学の基礎」は、データに基づいて対象の実態を捉えるための科学的な考え方やスキルを身に付けることを目的としています。

<スタートアップセミナーの履修について>

別項目<スタートアップセミナーの履修について>を参照してください。

<社会とデータ科学の基礎の履修について>

① 1 年次前期に「社会とデータ科学の基礎」2 単位を修得しなければなりません。

② 学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。

③ 「社会とデータ科学の基礎」はメディア授業（遠隔オンデマンド開講）です。時間割上には配置されていません。毎週金曜日に「LC」を通じて、授業の動画や資料等が配信されるので、それらを用いて各自空き時間に学修を進め、金曜日～月曜日までの間に確認テストに回答してください。

④ 第 1 回～第 14 回は全学類共通ですが、第 15 回目の授業は学類ごとに授業内容も、開講形態も異なりますので、担当教員の指示に従って学修し、確認テストに回答してください。

⑤ 「社会とデータ科学の基礎」は CAP 除外科目です。

※この科目は、「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの必修科目です。詳しくは <「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの履修について> を参照してください。

※「社会とデータ科学の基礎」は履修登録撤回できません。

(2) ライフマネジメント科目について

生涯にわたるキャリア発達と身体・健康維持とを目的とし、必修科目として「キャリア形成論」と「健康運動科学実習」を開講します。「キャリア形成論」のねらいは第一に自分と向き合い自分の人生を見つめること、第二に働くことの意味や職業についての見方を再確認すること、第三にこれらを通して大学で学ぶことの意味を考え、学ぶ主体を確立することです。「健康運動科学実習」は、スポーツを通して運動や健康への興味・関心を高め、生涯にわたり健やかな生活をしていくための知識や習慣を身に付けることを目的としている科目です。

<キャリア形成論の履修について>

① 1 年次：前期に「キャリア形成論」2 単位を修得しなければなりません。

② 学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。

行政政策学類のクラス分けは、行政政策学類の掲示等で確認してください。再履修者も同様です。

③ キャリア形成論は履修登録撤回できません。

<健康運動科学実習の履修について>

① 1 年次前期に「健康運動科学実習」を修得しなければなりません。

② 指定された曜日、時間帯（下表）で受講してください。第 1 回目の授業の際に種目分けを行いますので、必ず出席してください。

集合場所は、第 1 体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と上履きを用意し、普段着で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

第 1 回目の授業に出席できなかった学生は、本嶋教員（保健体育棟 1 1 4 号）へ連絡をし、指示を受けてください。

学類	健康運動科学実習
行政政策学類	月曜日 2 時限
人間発達文化学類	月曜日 3 時限
経済経営学類	火曜日 3 時限
共生システム理工学類	金曜日 3 時限
食農学類	金曜日 4 時限

ただし、再履修者で、必修の科目と開講時間帯が重なり、指定時間帯の受講が困難な場合は、他の時間帯での履修を認めることがありますので、第1回目の授業で担当教員に必ず申し出てください。

③特別な理由により実技を行うことが困難な学生には、代替措置を認める場合があります。詳しくは第1回目の授業で説明しますので必ず出席してください。

④健康運動科学実習は履修登録撤回できません。

(3) 外国語コミュニケーション科目について

別項目**＜英語、英語以外の外国語の履修について＞**を参照してください。

外国人留学生は、同じく**＜英語、英語以外の外国語の履修について＞**にある**＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞**も参照してください。

10. スタートアップセミナーの 履修について

スタートアップセミナーの履修について

大学教育の基礎を身につけるスタートアップ科目の中心となる科目です。内容は、アカデミック・スキルズ、すなわち文献や資料の読み方や書評レポートの書き方、調査・研究方法、情報技術の基礎、プレゼンテーション、ディスカッションの技術などを身に付けます。スタートアップセミナー（または問題探究セミナーⅠ）終了時に初年次レポートを提出することになります。

この科目を中心として、1年終了時までに身に付けるべきアカデミック・スキルズは以下の通りです。

【アカデミック・スキルズ チェックリスト】

- ☐ OPAC、CiNii等のデータベースを活用した文献・資料の検索方法を知っている。
- ☐ 文献・資料の内容を要約したレジюмеの基本的な形式を知っている。
- ☐ 序論・本論・結論のような、レポートの基本的な構成を知っている。
- ☐ 文献・資料の内容をレジюмеやレポートに反映させる際のルール（引用のしかた）を知っている。
- ☐ 参考文献・資料一覧を作成する際のルールを知っている。
- ☐ 文献・資料の内容を要約したレジюмеを作成することができる。
- ☐ レポートの構成や引用のしかた等、一般的または指定された形式やルールを守ったレポートを作成することができる。
- ☐ パワーポイント等のICTを活用して、プレゼンテーションを行うことができる。

<スタートアップセミナーの履修手続きについて>

- ① 2単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。
- ② 未修得者は、必ず履修登録前に「LC」／各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。
- ③ スタートアップセミナーは、履修登録撤回できません。

食農学類スタートアップセミナー担当者一覧

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スタ ー	単位 数
スタート アップ セミナー	A	金 1	○林薫平、高梨琢磨	1	2
	B		○吉永和明、寺田圭	1	2
	C		○石井秀樹、福田洋介	1	2
	D		○熊谷武久、萩原幹花	1	2

1 1 . 英語、英語以外の外国語の 履修について

英語、英語以外の外国語の履修について

英語について

<「英語 A I」・「英語 A II」について>

CEFR B1 level を目指します。ただし、基礎クラスは A2 level を、上級クラスは B2 level を目指します。

(ア)「英語 A I」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(イ)「英語 A II」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の3種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

- ・ Reading …「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース
- ・ Writing …「書く」能力を養成するためのコース
- ・ Oral Communication …「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ウ) 1 年次では、「英語 A I」及び「英語 A II」を各 2 単位、計 4 単位を修得しなければなりません。また、各 2 単位、計 4 単位を超えて修得することはできません。

(I)「英語 A I」及び「英語 A II」は、それぞれ週 1 回 1 クラスを半期履修することにより 1 単位認定されます。4 単位を修得するためには、

「英語 A I」について前・後期各 1 クラスの計 2 クラス、

「英語 A II」についても前・後期各 1 クラスの計 2 クラスを履修する必要があります。

(オ)開講曜日・時限は学類ごとに指定されています。

- ・ 人間発達文化学類・共生システム理工学類は、
「英語 A I」が月曜日 2 時限、「英語 A II」が金曜日 1 時限
- ・ 行政政策学類・経済経営学類は、
「英語 A I」が月曜日 3 時限、「英語 A II」が金曜日 3 時限
- ・ 食農学類は、「英語 A I」が火曜日 4 時限、「英語 A II」が木曜日 2 時限
- ・ 学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。

(カ)「英語 A I」、「英語 A II」は、履修登録撤回できません。

<英語 A I ・ 英語 A II の履修について>

(ア)前期の所属クラスは「英語 A I」、「英語 A II」とともに、以下の手続きで行います。

1. シラバスを読んで、受講希望クラスの第 1 回目の授業に必ず出席してください。
2. 第 1 回目の授業では、授業内容についての説明と希望受付が 2 回（1 次、2 次）行われます。

＜1次説明・受付＞

- ・第1回目授業開始時刻（1時限8時40分、2時限10時20分、3時限13時00分、4時限14時40分）に希望クラスの教室に行き授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
- ・1次受付で定員に達したクラスは、2次受付は行いません。

＜2次説明・受付＞

- ・1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻（1時限9時40分、2時限11時20分、3時限14時00分、4時限15時40分）までに希望クラスの教室に行ってください。授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
- ・2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口に出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(イ)後期の所属クラスは「英語AⅠ」、「英語AⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

- ・同一教員のクラスが後期に開講されていない場合は、前期クラスの教員の指示に従ってください。

- ・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。

(ウ)「英語AⅠ」、「英語AⅡ」は、それぞれ後期のみ「基礎クラス」、「上級クラス」が開講されます。ただし、食農学類に関しては「英語AⅠ」のみ「基礎クラス」が開講されます。

成績評価は、「上級クラス」が「S、A、F」のいずれか、「基礎クラス」は「B、C、F」のいずれかになります。

受付期間は、9月中旬～下旬です。「上級クラス」・「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の認否は掲示板等でお知らせします。（人数が多い場合等は希望が認められない場合があります。）

(I)食農学類の学生で「英語AⅠ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、所定の手続きを行ったうえで（上記(ウ)）他学類枠（月曜2時限または月曜3時限）の「英語AⅠ」の「基礎クラス」または「上級クラス」を受講することができます。

(ウ)食農学類の学生で「英語AⅡ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、所定の手続きを行ったうえで（上記(リ)）、他学類枠（金曜1時限または金曜3時限）の「英語AⅡ」の「基礎クラス」または「上級クラス」を受講することができます。

<「英語BⅠ」・「英語BⅡ」について>

CEFR B2 level を目指します。ただし、基礎クラスはB1 level を、上級クラスはC1 level を目指します。

(ア)「英語BⅠ」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(イ)「英語BⅡ」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の3種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

- ・ Reading …「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース
- ・ Writing …「書く」能力を養成するためのコース
- ・ Oral Communication …「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ウ)2年次で英語を選択する学生は、「英語BⅠ」及び「英語BⅡ」を各2単位、計4単位を超えて修得することはできません。

(イ)「英語BⅠ」及び「英語BⅡ」は、それぞれ週1回1クラスを半期履修することにより1単位認定されます。4単位を修得するためには、「英語BⅠ」について前・後期各1クラスの計2クラス、「英語BⅡ」についても前・後期各1クラスの計2クラスを履修する必要があります。

(ウ)開講曜日・時限は学類毎に指定されています。

- ・ 人間発達文化学類・共生システム理工学類は
「英語BⅠ」が月曜日1時限、「英語BⅡ」が水曜日2時限
- ・ 行政政策学類・経済経営学類は
「英語BⅠ」が水曜日1時限、「英語BⅡ」が金曜日2時限
- ・ 食農学類は「英語BⅠ」が火曜日2時限、「英語BⅡ」が木曜日4時限
- ・ 学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。

(カ)「英語BⅠ」、「英語BⅡ」は、履修登録撤回できません。

＜英語ＢⅠ・英語ＢⅡの履修について＞

(ア)前期の所属クラスは「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」とともに、以下の手続きで行います。

1. シラバスを読んで、受講希望クラスの第１回目の授業に必ず出席してください。
2. 第１回目の授業では、授業内容についての説明と希望受付が２回（１次、２次）行われます。

＜１次説明・受付＞

- ・第１回目授業開始時刻（１時限８時４０分、２時限１０時２０分、４時限１４時４０分）に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
- ・１次受付で定員に達したクラスは、２次受付は行いません。

＜２次説明・受付＞

- ・１次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、２次説明・受付開始時刻（１時限９時４０分、２時限１１時２０分、４時限１５時４０分）までに希望クラスの教室に行ってください。授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
- ・２次受付の抽選にもれた学生及び第１回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口に提出してください。所属クラスは第２回目の授業までに掲示します。

(イ)後期の所属クラスは「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

- ・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。ただし、「通常クラス」から「基礎クラス」、「上級クラス」に限って変更ができます。

(ウ)「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」の「基礎クラス」と「上級クラス」は、前期から開講されます。ただし、食農学類に関しては「基礎クラス」、「上級クラス」は開講されません。

成績評価は「上級クラス」が「Ｓ、Ａ、Ｆ」のいずれか、「基礎クラス」は「Ｂ、Ｃ、Ｆ」のいずれかになります。

- ・「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、「通常クラス」と同様、第１回目授業開始時刻（１時限８時４０分、２時限１０時２０分、４時限１４時４０分）に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

- ・ 1 次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、2 次説明・受付開始時刻（1 時限 9 時 4 0 分、2 時限 1 1 時 2 0 分、4 時限 1 5 時 4 0 分）までに希望クラスに行ってください。授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

- ・ 2 次受付の抽選にもれた学生及び第 1 回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口提出してください。所属クラスは第 2 回目の授業までに掲示します。

(I)前期に通常クラスに所属していた学生に限り、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」へ変更可能です。

受付期間は、9 月中旬～下旬です。「上級クラス」・「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の認否は掲示板等でお知らせします。（前期の時点で「基礎クラス」、「上級クラス」が定員を満たしている場合、また希望人数が多い等の場合は希望が認められないことがあります。）

(ウ)食農学類の学生で「英語 B I」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠（月曜 1 時限または水曜 1 時限）の「英語 B I 基礎クラス」または「英語 B I 上級クラス」を受講することができます。他学類枠（月曜 1 時限または水曜 1 時限）の「英語 B I 基礎クラス」または「英語 B I 上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き（上記(I)）を行ってください。

(エ)食農学類の学生で「英語 B II」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠（水曜 2 時限または金曜 2 時限）の「英語 B II 基礎クラス」または「英語 B II 上級クラス」を受講することができます。他学類枠（水曜 2 時限または金曜 2 時限）の「英語 B II 基礎クラス」または「英語 B II 上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き（上記(I)）を行ってください。

＜応用英語について＞

(ア) 1 年次から、「応用英語」を履修することができます。

(イ) 当該科目は、それぞれの授業の目的・内容が異なります。詳細はシラバスに記載されています。

(ウ) ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。

例：応用英語Ⅰ、Ⅱ → 別の科目

- (I) 修得した単位は、教養領域・外国語科目の単位として計上されます。
- (II) 受講人数が多い場合、受講調整が行われることがあります。
- (III) 同一曜日・同一時限の応用英語とアドバンスト演習は、同じ科目としてみなされるため、再修得できません。

＜再履修等の履修手続きについて＞

- (I) 2年次生以上で「英語AⅠ・AⅡ」、「英語BⅠ・BⅡ」の再履修希望学生は、基盤教育係窓口から「英語再履修希望調査カード」を受け取り、第1回目授業開始時に希望クラスの教室に行き、カードを担当教員に提出してください。第1希望のクラスが受入不可で、第2、第3希望のクラスでも受付不可だった場合は、基盤教育係窓口まで申し出て下さい。

再履修希望カード配布時期：前期 3月中旬～下旬 / 後期 9月中旬

- (II) 1クラス（半期）のみの再履修希望学生は、修得済みクラスの開講時期（前期／後期）に関わらず、前期、後期いずれでも履修可能です。
- (III) 再履修以外の理由（休学等）で、「英語AⅠ・AⅡ」を2年次生以上、「英語BⅠ・BⅡ」を3年次生以上で履修する学生も同じ手続きをとってください。
- (IV) 再履修として前期から履修している学生は、後期の再履修手続は不要です。後期は、前期と同一教員のクラスになります。前期に「通常クラス」に所属し、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、所定の手続きをとってください。
- (V) 4年次生以上で専門教育科目の履修の関係で英語の再履修が困難な学生は、英語再履修受付期間に必ず基盤教育係窓口に申し出てください。

＜外部検定試験の活用について＞

「2019年度入学生からの英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。

＜海外語学研修について＞

「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。

英語以外の外国語について

<英語以外の外国語について>

英語以外の外国語は下記のとおり「Ⅰは前期、Ⅱは後期」に開講されます。

言語	1 年次	1 年次希望者 (基礎と同一セメスター)	2 年次
ドイツ語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
フランス語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
中国語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
ロシア語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
韓国朝鮮語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ

<英語以外の外国語：履修について>

(ア)人間発達文化学類・行政政策学類・経済経営学類の場合

- ・**基盤教育接続領域外国語コミュニケーション科目**(履修基準表参照)として、1 年次に英語以外の外国語(以下、非英と略す)の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」(計 2 単位：Ⅰは前期、Ⅱは後期)を履修しなくてはなりません(必修)。外国語の 1 単位は、週 1 回、90 分授業を前期または後期に 15 回受講し期末試験に合格することによって修得できます。
- ・**基盤教育教養領域外国語科目**(履修基準表参照)として、英語と非英のどちらか一方 4 単位、又は英語 2 単位と非英 2 単位、合わせて 4 単位を履修しなくてはなりません(選択必修)。外国語科目として履修できるのは、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」および「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」です。

(イ)共生システム理工学類・食農学類の場合

- ・**基盤教育教養領域外国語科目**として、1 年次と 2 年次で英語 4 単位か、非英 4 単位か、英語 2 単位+非英 2 単位のいずれかの形で、4 単位履修しなければなりません(選択必修)。外国語の 1 単位は、週 1 回、90 分授業を前期または後期に 15 回受講し期末試験に合格することによって修得できます。
- ・**基盤教育教養領域外国語科目**の 4 単位を、英語 4 単位で修得するのではなく、非英も受けて英語 2 単位+非英 2 単位、または非英 4 単位で修得したい学生は、1 年次で非英の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」(2 単位、(2)を参照)を修得する必要があります。また非英 4 単位を修得するには、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」(2 単位)に加えて、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」(2 単位)又は「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」(2 単位)((2)を参照)を修得する必要があります。

<英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」について>

(ア)「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」（１年次）

- ・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」（各１単位）は、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語の５言語から１言語を選択し、「基礎Ⅰ」と「基礎Ⅱ」は同じ言語を履修しなければなりません。
- ・「基礎Ⅱ」の履修は、当該言語「基礎Ⅰ」の単位修得が必要となります。なお、前期の「基礎Ⅰ」と後期の「基礎Ⅱ」は同一クラス（例えば「基礎ⅠＡ」と「基礎ⅡＡ」など）で履修します。
- ・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」は、行政政策学類と経済経営学類は火曜日２時限または木曜日２時限、人間発達文化学類と共生システム理工学類は火曜日３時限または木曜日４時限、食農学類は火曜日３時限に開講されます。

※人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類の学生は、接続領域として合計２単位を必ず修得しなければなりません。なお、上記２単位を修得した後、別言語で「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」の修得が可能ですが、修得単位は、自由単位への計上となります。

(イ)「基礎（特設）Ⅰ」・「基礎（特設）Ⅱ」（１年次）

- ・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」履修者のうち希望者は、同時に同じ言語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」を履修することができます。この科目は「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」で学ぶ言語の勉強にもっと力を入れたい学生のための科目です。この科目を受講する学生は、１年次に同じ言語の授業を、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」と合わせて週２回受講することになります。なお「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」と同様にセットで履修しなければなりません。
- ・フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は、金曜日２時限に開講されます。金曜２時限に情報リテラシーや学術基礎科目、問題探究科目などの受講が確定した場合、フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は受講できません。なお、ドイツ語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は木曜日２時限と木曜日４時限、中国語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は火曜日２時限と火曜日３時限に開講されます。
- ・なお、「基礎（特設）Ⅰ」を履修せずに「基礎（特設）Ⅱ」のみを履修することはできません。

(ウ)「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」と「アドバンスト演習Ⅰ」(経済経営学類専門科目)

- ・「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」は、「アドバンスト演習Ⅰ①」「アドバンスト演習Ⅰ②」(経済経営学類専門科目)としても履修できますが、その場合、修得単位は経済経営学類専門科目の単位となり、**基盤教育の外国語科目(必修 4 単位)に計上することはできませんので十分注意してください。**
- ・「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」(Ⅰは前期、Ⅱは後期)を、「アドバンスト演習Ⅰ」として履修する場合は、必ず「アドバンスト演習Ⅰ①」と「アドバンスト演習Ⅰ②」(①は前期、②は後期)をあわせて履修してください。「基礎(特設)Ⅰ」と「アドバンスト演習Ⅰ②」、または「アドバンスト演習Ⅰ①」と「基礎(特設)Ⅱ」を組み合わせることはできません。

(I)「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」(2年次)

- ・1年次の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」で学んだ語学力のレベルアップを図ります。また海外語学研修や留学への接続も意識した科目です。
- ・前期「応用Ⅰ」の履修には、当該言語「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」の単位修得が必要となります。また「応用Ⅱ」の履修には、当該言語「応用Ⅰ」の単位修得が必要となります。なお「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は同一クラス(例えば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」など)で履修します。
- ・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、すべての言語で火曜1時限と木曜3時限にあわせて2クラス以上が開講されます。「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」2単位を修得(次頁表②④の場合)するには、「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」とも同じ1クラス(たとえば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」)を選択し、それぞれ週1回受講しなければなりません。また「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」4単位を修得(上表③の場合)するには、「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」とも同じ2クラス(たとえば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」および「応用ⅠB」と「応用ⅡB」)を選択し、それぞれ週1回受講しなければなりません。クラス選択に指示がある場合はそれに従ってください。また②④において、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」のどちらかを修得できなかった場合、同一言語の「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」で代替が可能です。
- ・「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」は、同一言語で8単位まで修得できますが、4単位を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

(オ)「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」と「アドバンスト演習Ⅱ」(経済経営学類専門科目)

- ・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、「アドバンスト演習Ⅱ①」「アドバンスト演習Ⅱ②」「アドバンスト演習Ⅱ③」「アドバンスト演習Ⅱ④」(経済経営学類専門科目)として履修することもできますが、その場合、修得単位は経済経営学類専門科目の単位となり、**基盤教育教養領域外国語科目(選択必修 4 単位)に計上することはできませんので十分注意して**

ください。

- ・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」（Ⅰは前期、Ⅱは後期）を、「アドバンスト演習Ⅱ①」「アドバンスト演習Ⅱ②」「アドバンスト演習Ⅱ③」「アドバンスト演習Ⅱ④」（①と③は前期、②と④は後期）として履修する場合は、必ず「アドバンスト演習Ⅱ①」または「アドバンスト演習Ⅱ③」と「アドバンスト演習Ⅱ②」または「アドバンスト演習Ⅱ④」をセットで履修してください。「応用Ⅰ」と「アドバンスト演習Ⅱ②」、「アドバンスト演習Ⅱ①」と「応用Ⅱ」などの組み合わせで履修することはできません。
- ・アドバンスト演習Ⅱ①②③④の履修は、応用の修得単位に加えて 8 単位まで修得することができます。

(カ)教養領域「外国語科目」では英語と英語以外の外国語の同一言語を下表①～④のいずれかで合計 4 単位を修得しなければなりません、学類毎に修得方法が違いますので注意してください。

下表①～④以外で外国語科目 4 単位を修得しても、卒業要件を満たしません。（英語で 3 単位＋英語以外の外国語で 1 単位、または英語で 1 単位＋英語以外の外国語で 3 単位では、卒業要件を満たしません。）

＜教養領域「外国語科目」4 単位の修得方法：人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類＞

人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類		
①	英語で 4 単位	英語 BⅠ、英語 BⅡ、応用英語から 4
②	英語以外で 4 単位	同一言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを 2、応用Ⅰ・応用Ⅱを 2
③	英語以外で 4 単位	同一言語の応用Ⅰ・応用Ⅱを 4
④	英語で 2 単位と	英語 BⅠ、英語 BⅡ、応用英語から 2
	英語以外で 2 単位	同一言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを 2、または応用Ⅰ・応用Ⅱを 2

<教養領域「外国語科目」4単位の修得方法：共生システム理工学類、食農学類>

共生システム理工学類、食農学類		
①	英語で4単位	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から4
②	英語以外で4単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2、基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを2
③	英語以外で4単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2、応用Ⅰ・応用Ⅱを2
④	英語で2単位と	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から2
	英語以外で2単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2

<英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の履修手続きについて>

- (ア)「基礎Ⅰ」「基礎(特設)Ⅰ」の履修言語・クラスは、希望言語調査をふまえて担当教員が指定します。詳しくは新入生ガイダンスで説明しますので必ず出席してください。なお「基礎Ⅰ」の希望者が1クラス30名を超える言語は、受講調整を行う場合があります。
- (イ)「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」を履修する学生は、選択するクラスの第1回目の授業に出席してください。
- (ウ)「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、履修撤回できません。
- (I)履修方法について質問がある学生は、基盤教育係窓口にご相談してください。

<英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の再履修手続きについて>

- (ア)「基礎Ⅰ」の再履修希望学生は、3月上旬～下旬に基盤教育係窓口から「英語以外の外国語基礎Ⅰ受講希望調査カード」を受領し、必要事項を記入の上、指定されたレポートBoxに提出してください。また「基礎Ⅰ」再履修とあわせて「基礎(特設)Ⅰ」の履修を希望する場合は、その旨を同カードに記入してください。手続き・詳細は1月下旬～2月上旬頃に掲示で指示します。
- (イ)履修クラスは4月の授業開始前に掲示します。その指示に従って第1回目の授業を受講してください。なお、この「受講希望調査カード」を提出しないと希望する言語が履修できないことがあります。
- (ウ)「基礎Ⅱ」の再履修希望学生は、希望クラス第1回目の授業に出席してください。受講

希望調査カードは不要です。事前に掲示による指示があった場合にはそれに従ってください。やむを得ない理由で第1回目の授業に出席できない場合は、必ず各言語の責任教員に相談してください。（責任教員は掲示により確認してください。）

- (I)「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の再履修希望学生は、希望クラス第1回目の授業に出席してください。

<その他>

- (a)外部資格試験を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、「2019年度入学生からの英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。

- (b)海外語学研修を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、「2019年度入学生からの英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。

- (c)留学ビザによる編入学生は「英語以外の外国語」として「日本語」の履修を認めることがあります。

<外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について>

- ・外国人留学生は、外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から**母語・母国語系統を除く1カ国語で次の①から③のいずれかの方法で8単位を修得しなければなりません。**（日本語の履修が望ましいです。）

①	日本語	「ⅠA・ⅠB」・「ⅡA・ⅡB」・「ⅢA・ⅢB」・「ⅣA・ⅣB」※1	8単位
②	英語	「AⅠ・AⅡ」・「BⅠ・BⅡ」・「応用英語」※2	8単位
③	英語以外の外国語	ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語 いずれか同一言語で「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」、「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」、「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」※2	8単位

※1「日本語」はローマ数字の順で修得してください。

（例：「日本語ⅡA」の履修は「日本語ⅠA」または「日本語ⅠB」どちらか1単位の修得

が必要です。「日本語ⅢB」の履修は「日本語ⅡA」または「日本語ⅡB」どちらか1単位の修得が必要です。)

※2「英語」、「英語以外の外国語」は、それぞれの履修方法を参照してください。

なお、8単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

・「日本事情」は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

上記で述べた点以外は、基盤教育の履修方法は一般学生と同じです。

1 2 . 教養領域の履修について

教養領域の履修について

今日、高等教育で重視されている教養教育は、学生が他領域で学ぶ他の学生と価値観を共有し、より幅広く他領域の専門内容を理解し、協働するための「共通の言語」を形づくることを目的としています。これらを踏まえ「**教養領域**」では、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	5単位
共生システム理工学類、食農学類	7単位
※外国人留学生（全学類）	7単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

（１）学術基礎科目について

「人文科学」「社会科学」「自然科学」の分野からなり、幅広い教養教育の中心に位置する科目群です。各学問の基本的概念や特有の事象の見方・切り取り方を学ぶことによって、自らが専門として学ぶ学問とは異なる観点から多角的・学際的にアプローチする方法が数多く存在することに気づくことを目的としています。

<学術基礎科目の履修方法について>

①学術基礎科目の3分野（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）から各2単位を修得しなければなりません。

② ①を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

③教員免許状取得を希望する学生は、「社会科学」分野の「日本国憲法」を修得してください。（ただし、行政政策学類生は学類の学修案内で科目を確認してください。）

④科目名称についての注意

・授業科目名の二桁の数字だけが異なる場合は、同一の授業科目とみなします。**この場合両方を履修することはできません。**

例：日本国憲法 01、02 → 同一の科目

・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり**両方を履修することができます。**

例：歴史学Ⅰ、Ⅱ → 別の科目

- ⑤行政政策学類生は「市民と法」「日本国憲法 01、02」を履修できません。
- ⑥経済経営学類生は「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」「経営学」を履修できません。
- ⑦「履修希望受付」は、以下の「抽選履修登録方法」手続きで行います。

＜抽選履修登録方法＞

受付期間等や「LC」の抽選履修登録方法は、教務関係日程表・マニュアル等により確認してください。

＜1＞1次受付（前期科目4月初旬／後期科目10月上旬）

- ①履修希望科目のシラバスをあらかじめ確認し、曜日・時限毎に履修希望科目を「LC」で抽選履修登録してください。第3志望まで登録ができます。
- ②抽選履修登録の結果、教室収容人数を超える科目は「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。
受講調整が行われる場合、抽選となります。
- ③1次受付結果は「LC」で発表します。各自、確認してください。
- ④1次受付で受講が認められた科目の扱いは、以下のとおりです。
 - ・受講調整があった科目は、当該時間帯で科目の変更・追加・撤回できません。
 - ・受講調整がない科目は、原則として当該時間帯で科目の変更・追加できません。
- ⑤当該時間帯に1次受付で受講が認められた科目以外を登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び1次受付で受講が認められた科目も受講できなくなります。
- ⑥受講調整があった科目は、「LC」等でお知らせします。

＜2＞2次受付（詳細は、1次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。）

- ①1次受付後、受講調整を行った結果、履修希望が認められなかった学生に限り2次受付を行います。
受付期間・時間帯に注意してください。
- ②対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。
 - ・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。
科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。
 - ・1次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。
- ③2次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。
- ④当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び2次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。
- ⑤2次受付結果は「LC」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

<3>3次受付（詳細は、2次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。）

① 1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として特別に3次受付を行うことがあります。

受付期間・時間帯に注意してください。

② 対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。

・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。

科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。

・ 1次受付及び2次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。

③ 3次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。

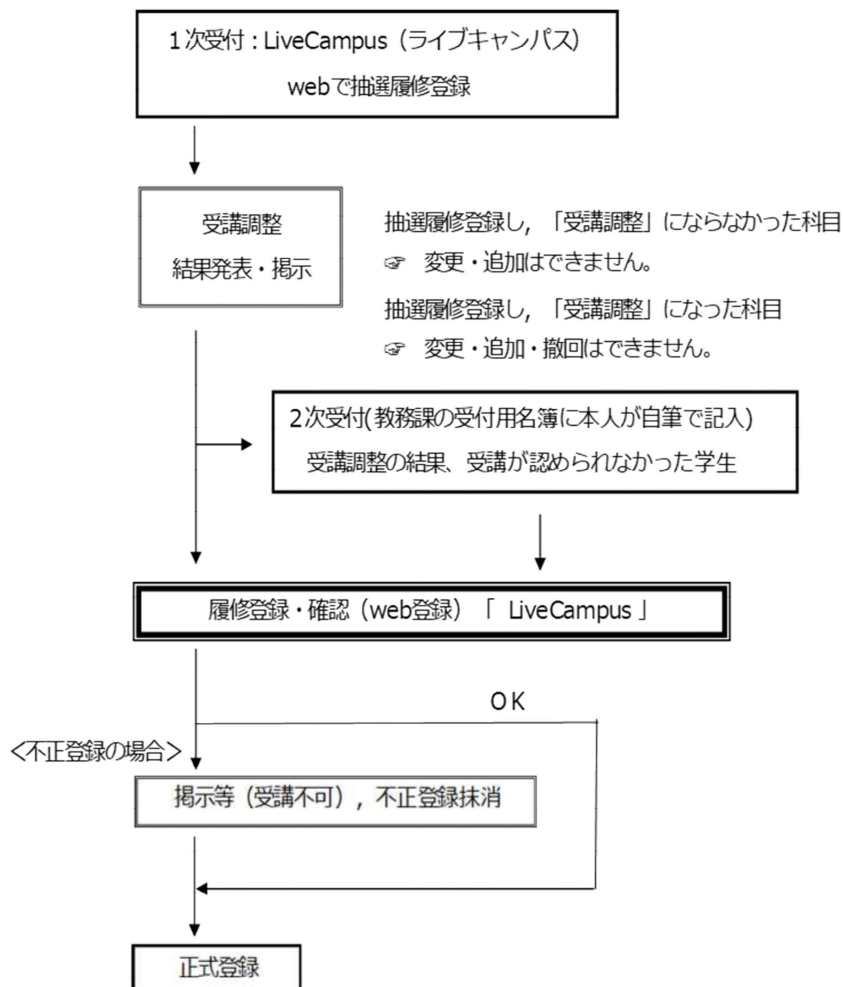
④ 当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び3次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。

⑤ 3次受付結果は「LC」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

＜注意＞

抽選登録に関するマニュアルは入学式当日に配付した「新入生共通ガイドブック」内に記載しています。マニュアルを参考に必ず期間中に抽選履修登録をしてください。「共通ガイドブック」は教務課 HP からダウンロードできます。

学術基礎科目・問題探究科目抽選履修登録手続きフローチャート



(※) 3次受付について: 1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として、
2次受付終了後に空きがある科目にかぎり特別に3次受付を行うことがあります。

※「新入生共通ガイドブック」は教務課 HP からダウンロードすることも可能です。

（２）キャリア設計科目について

「キャリアモデル学習」「ワーキングスキル」の２科目からなります。「キャリアモデル学習」は各学類に関わりの深い職業人による、職業や仕事内容、人生設計などについての講義が中心の科目です。

「ワーキングスキル」は、めまぐるしく変貌を遂げる現代社会の中で、より豊かなキャリア設計を実現するために、最新のスキルや知識を修得するための科目です。

キャリアモデル学習は、別項目＜キャリアモデル学習の履修について＞を参照してください。

＜ワーキングスキルの履修について＞

２年生以上から履修が可能です。

「抽選履修登録方法」は、学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

（３）健康・運動科目について

身体運動を楽しみ、生涯を通して、健康でスポーツに親しむ技能・知識を身に付けることを目的として「スポーツ実習」を開講します。

＜スポーツ実習の履修について＞

①「スポーツ実習」は、１年次後期から履修することができます。また、同一種目の場合でも複数回の履修が可能です。修得した単位は、選択必修または自由選択の単位になります。

②**第１回目の授業の際に受講調整を行います。集合場所は、第１体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と屋内シューズ、屋外シューズを持参し運動できる格好で出席してください。**欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

③スポーツ実習は、履修登録撤回できません。

④教員免許状取得のためには、「体育」科目として「健康運動科学実習」１単位に加え「スポーツ実習」１単位の修得が必要です。「スポーツ実習」の履修にあたっては、履修時限の指定はありませんが、下記表の曜日・時間においては、指定された学類の教員免許状取得希望者を優先します。教員免許取得希望者は必ず第１回目の授業の際に担当教員に伝えてください。第１回目の授業に出席できなかった学生は、本嶋教員（保健体育棟１１４号）へ連絡をし、指示を受けてください。

スポーツ実習	教員免許希望者が優先される学類
月曜日 2時限	行政政策学類、経済経営学類
月曜日 3時限	人間発達文化学類
金曜日 3時限	共生システム理工学類、食農学類

（４）外国語科目について

別項目＜英語、英語以外の外国語の履修について＞を参照してください。

外国人留学生は、同じく＜英語、英語以外の外国語の履修について＞にある＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞も参照してください。

（５）情報科目について

高度情報化社会においてパーソナル・コンピュータやネットワークなどの情報機器を適切に操作・活用し、情報の収集・整理・編集・発信・コミュニケーションを主体的に行うための基礎スキルの修得をめざします。具体的には、基本的な情報機器の構成・操作方法を理解し、情報収集、文書作成・データ集計などの方法を学びます。また、インターネットなどの情報発信・コミュニケーションに関わる基礎知識を身につけ、セキュリティなど日頃注意を払うべき事柄と心構えを学びます。

学修内容：コンピュータのしくみ（ハードウェア／OS／ソフトウェア）／インターネットと情報セキュリティ／情報倫理／情報の収集・整理・編集の実際

＜情報リテラシーの履修について＞

①修得単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

なお、教員免許取得を希望する学生は、『情報リテラシー』か『社会とデータ科学の基礎』を必ず修得してください。

②情報リテラシー、社会とデータ科学の基礎は、履修登録撤回できません。

③受講を希望する学生は、各自で持ち運び可能なノートパソコンを準備し、大学に持参してください。推奨するPCのスペック等については、福島大学ホームページ内のBYODサポートページを参照してください。

■前期履修手続き

・「情報リテラシー」の履修希望者は、「LC」の学内アンケート「情報リテラシー受講希望調査」に希望クラスを選択回答してください。受講希望に基づき、決定した所属クラ

スを決定次第、「LC」及び基盤教育掲示板に掲示します。

1 回目の授業を受ける前に必ず所属クラスと教室を確認して履修してください。

- ・ 全て同一科目のため複数クラスは受講できません。
- ・ 受講希望者数がクラスの収容人数を超えた場合、抽選となります。
- ・ 2 年次生以上の学生は、基盤教育係窓口から「受講希望調査カード（2 年次生以上）」を受領し、希望クラスを記入のうえ、基盤教育係窓口へ提出してください。

受付期間は 3 月下旬～4 月初旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。「情報リテラシー」の履修登録は教務課で行います。

■後期履修手続き

- ・ 前期の履修手続きで後期開講「情報リテラシー」の各クラスに編成された学生は履修希望を再提出する必要はありません。掲示情報を確認し、所属クラスの授業を履修してください。
- ・ 前期の履修希望受付期間に「希望調査カード」を提出しなかった後期履修希望学生、再履修希望学生は受講可能なクラスを掲示で確認し、受講希望カードを基盤教育係窓口へ提出してください。

受付期間は 9 月下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。「情報リテラシー」の履修登録は教務課で行います。

■再履修について

- ・ 「情報リテラシー」の再履修は基本的に認められますが、受講希望人数が収容可能数より多い場合は抽選をおこない、再履修者の受講を決定し、掲示でお知らせします。

（6）高年次教養科目について

「教養領域」の科目は、学年指定がない限り 1 年次のうちに履修してしまう学生が多いと思います。しかしながら、幅広く他領域の専門内容を理解し、学際性を養うことは、本格的に専門教育を学び始めた 2 年次以上でも大事になってきます。

そのために、「高年次教養科目」という仕組みを設けました。対象となる他学類の専門科目や教育推進機構開講科目を 2 年次以上で履修した場合に、基盤教育の「教養領域」と「問題探究領域」にまたがる選択必修の単位として計上することができます。（学類毎の単位数は下表のとおりです。）必修単位分として計上することはできないので注意してください。なお、対象となる科目名等は、別途掲示を確認してください。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	5 単位
共生システム理工学類、食農学類	7 単位
※外国人留学生（全学類）	7 単位

1 3 . キャリアモデル学習の履修 について

キャリアモデル学習の履修について

- ①学類毎の開講となります。詳細は、掲示等でお知らせします。
- ②人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類は「キャリア設計科目」の中から**選択して修得**することになります。
- ③共生システム理工学類、食農学類は、**必ず修得しなければなりません**。

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室
前期	キャリアモデル学習	福島 慶太郎 他	火	3	2	2	食農学類棟 みらいホール

1 4 . 問題探究領域の履修について

問題探究領域の履修について

「問題探究領域」は、東日本大震災や地域の過疎化などの現実的な問題から、「自分事」として取り組むべき課題を発見し、集団で問題解決に向けて調査・議論・実践を行うことを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	5 単位
共生システム理工学類、食農学類	7 単位
※外国人留学生（全学類）	7 単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

（１）問題探究科目

福島の震災・原発事故に関する問題や、地域や世界の今日的な課題を学び、その原因解明や問題解決方法を考えることを目的とし、「問題解決を基盤とした学習」の中心に位置づく科目です。

具体的な問題解決の事例や各学問によるアプローチの手法を学ぶ講義型科目のほか、学生たちが自ら問題解決に取り組むアクティブ・ラーニング型の科目も開講します。

<問題探究科目の履修について>

- ① 2 単位を修得しなければなりません。
- ② ①を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
- ③ 行政政策学類生は、夜間開講の問題探究科目で受講できる科目があります。
詳細は、行政政策学類の掲示等で確認してください。
- ④ 科目名称についての注意
 - ・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。
 - 例：ふくしま未来学入門Ⅰ，Ⅱ → 別の科目
- ⑤ 「抽選履修登録」は、教養領域の学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。
- ⑥ 「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。

(2) 自主学修プログラム

自主学修プログラムは、学生が自主的にグループを組織してテーマ・内容を設定し、任意の教員の指導のもとで学修することにより、単位が認定される制度です。活動は、自主的な協働学修やプロジェクト型の学修が主たる内容です。

自主学修プログラムは、学修の企画を立ち上げ、計画し、実践して成果をまとめるという一連のプロセスを評価し、単位認定します。

<自主学修プログラムの履修について>

- ①修得単位（1単位または2単位／認定単位は「N（認定）」評価）は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
- ②前期申請は4月、後期申請は10月です。詳細は、別途掲示等を確認してください。

(3) 問題探究セミナーについて

別項目<問題探究セミナーⅠの履修について>を参照してください。

1 5 . 問題探究セミナー I の履修 について

問題探究セミナーⅠの履修について

「問題探究セミナーⅠ」は、本学の教育理念でもある「問題解決を基盤とした教育」の入口科目で「スタートアップセミナー」とともに初年次教育の重要な科目であり、「スタートアップセミナー」がアカデミック・スキルズの定着を目的とするのに対し、この科目は現実の問題に対する理解・探究・解決を目的とするものです。すなわち、両者は縦糸と横糸の関係になります。

<問題探究セミナーⅠの履修手続きについて>

- ① 2単位を修得しなければなりません。学類ごとにクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。
- ② 未修得者は、必ず履修登録前に「LC」／各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。
- ③ 問題探究セミナーⅠは、履修登録撤回できません。

問題探究セミナーⅠ担当者一覧

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数
農場基礎実習Ⅱ	授業内で クラス分け	木3、4	深山 陽子 他	2	2

1 6 . 農学群食農学類のディプロマ・ ポリシー、カリキュラム・ポリシー

農学群食農学類のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1. ディプロマ・ポリシー

1) ディプロマ・ポリシー

本学類は、日本やモンスーンアジア等の農林業と食生活を深く理解し、よりよい社会の創造に向けて農学の専門性を活用できる人材を養成するため、「実践性」、「学際性」、「国際性」、「貢献性」の4つの能力の観点からディプロマ・ポリシーを定めています。

①課題解決志向と実践的な専門知識 DP1

農学から学んだ専門的な知識・技能の価値について、関連産業や地域社会の具体的な取組との関わりにおいて認識できる。

②学際的な理解力とコミュニケーション能力 DP2

専門化した農学を学びながらも、領域を超えた学際的な理解力と発信力を培うことで、連鎖総体のレベルアップを常に意識できる。

③国際的な問題意識とグローバルな知見の応用力 DP3

地域固有の課題の解決に向けた国際比較や国際交流に挑戦できる。

④冷静な分析力と持続的な地域貢献意識 DP4

科学的なエビデンスと論理性を大切にする冷静な分析力を身に付けるとともに、長期の時間視野から地域貢献の意義を理解できる。

2) ディプロマ・ポリシーと教育の特色

前記のように本学類は、「実践性」、「学際性」、「国際性」、「貢献性」の4つの学類共通のディプロマ・ポリシーを掲げています。ここではこれらのディプロマ・ポリシーと教育の特色について記しています。

①実践性を重んじる教育

本学類の各科目は、十分に高い専門性を含むと同時に、農林業・食品産業・地域社会の具体的な課題と結びついており、入学後の初期段階から実践的な学修を進めます。1年次の前期・後期の「農場基礎実習Ⅰ・Ⅱ」では、附属農場などで植物や動物、生産環境に早期に触れ、実践的な農学への高い意欲を醸成することをねらいとしています。2年次前期の「食農実践演習Ⅰ」、3年次通年の「食農実践演習Ⅱ」では、福島県内の農林業や食品産業の現場をフィールドとして、課題を抽出し解決を図るグループワークを展開します。

②学際性を重んじる教育

本学類の各コースは、生産環境・農林業・食品産業・消費者の連鎖であるフードチェーンに対応しています。また、各コースは多彩な専門分野で構成されていますが、相互に緊密に連携し、フードチェーンの成果の向上が図られるように設定しています。専門基礎科目の農学リテラシーでは、学際性を重視したオムニバス講義や初学者にも理解しやすい入門的・概論的な講義を配置しています。前述の「食農実践演習Ⅰ・Ⅱ」では、複数のコースの学生・教員による班編成で、分野横断型の学修を進めます。

③国際性を重んじる教育

本学類の各科目は、グローバルに共有された最新の知見や、農林業や食品産業の国や地域による具体的な特質を含んでいます。また、グローバルな問題意識を持つため、地域の特徴的な食品や伝統的な慣習の背後にある

国境を越えた普遍的な要素を学ぶことも大切であり、自然科学分野の「発酵・醸造学Ⅰ・Ⅱ」や、社会科学分野の「農林資源経済論」などの授業を配置しています。さらに、本学類の教育・研究は東日本大震災・原発事故からの復旧・復興の取り組みとつながっており、地域の具体的な課題と解決策、復興の事例等をとおして国際感覚を醸成します。

④貢献性を重んじる教育

本学類では、東日本大震災・原発事故からの復旧・復興の取り組みをとおして各地の農林業・食品産業・地域社会に寄与してきましたが、教育・研究上、新たな貢献が求められています。こうした経緯をふまえて、放射能汚染の問題については、俯瞰的な講義「震災農村復興論」（１年次後期）を配置しています。また、前述の「食農実践演習Ⅰ・Ⅱ」では、福島県内のフィールド（市町村・農林業関係団体・関連企業等）で、食と農に関する課題の特定・分析から解決策の提案までを行い、貢献意識を高める学修を進めます。

2. カリキュラム・ポリシー

1) 履修プログラムの基本的考え方

本学類で実施する教育課程は、「基盤教育」「専門教育」に区分され、「基盤教育」は「接続領域」、「教養領域」、「問題探究領域」から、「専門教育」は「学類共通専門基礎科目・数理リテラシー」、「学類共通専門基礎科目・農学リテラシー」、「学類共通専門科目」、「コース専門科目」、「卒業研究科目」からなります。

それぞれの科目群は、内容の難易度により順を追って履修するように体系的に配置しています。「学類共通専門基礎科目」は、１年次～２年次前期に配置し、「コース専門科目」は２年次後期から配置している。各コースの専門的な内容をふまえた応用科目は３年次に配置しています。専門実

験・実習・演習科目は、事前に必要な講義科目が配置されており、関連する基礎知識を理解したうえで、科目履修できる仕組みになっています。

基盤教育	接続領域、教養領域、問題探求領域
専門教育	学類共通専門基礎科目（１～２年次）、学類共通専門科目（２～３年次）、コース専門科目（２年次後期～）、卒業研究科目（３年次後期～）

２）カリキュラム・ポリシー

本学類の教育目標を達成するため、以下の特色ある教育課程を編成する。

（ア） フードチェーンの川下側から食の問題を理解し、農業生産の問題を総合的に分析し、新たなフードシステムの創出により地域の食料・農業の課題解決に貢献できる人材を育成するため、食品科学、農業生産学、生産環境学、農業経営学の専門に関する教育を学際的に行う。

（イ） 農林産物の生産、加工・多面的利用、製品化などを総合的に理解するために必要な専門基礎教育を実施する。冷静な分析力の基礎となる数理リテラシーのうち４単位を必修とし、これに加えて４単位を選択必修とする。また農学の基礎となる農学リテラシーのうち７科目１４単位を必修とし、これに加えて１４単位を選択必修とする。各コース概論の４科目(「食品科学概論」、「農業生産学概論」、「生産環境学概論」、「農業経営概論」)を必修とし、選択科目として配置された主要科目を選択履修することにより学際性が身に付く仕組みとなっている。

(ウ) 農産物の生産と利活用には、農業生産の体験が重要であることから、農業生産と加工が体験できる「農場基礎実習Ⅰ」、「農場基礎実習Ⅱ」を1年次に必修科目として実施する。2年次後期には「食農データサイエンス」を必修科目として配置し、1年次の実習での成果をふまえ、農産物加工、生産環境整備、農業経営に関する基礎的な情報処理・データ活用演習を実施し理解を深める。

(エ) 2年次前期と3年次通年に、福島県内をフィールドとして行う「食農実践演習Ⅰ」(必修科目)と「食農実践演習Ⅱ」(選択必修科目)を履修することで、「実践性」「貢献性」を強化する。この演習では、学際的な視点から4コースの学生と教員が福島県内の地域の協力を得て地域課題に取り組む。この前後に、「農場基礎実習Ⅰ」、「農場基礎実習Ⅱ」、「食農データサイエンス」、「卒業研究演習」を配置することにより、4年間を通じて切れ目なく問題探究演習・実習科目が配置される。

(オ) 本学の地域性をふまえ、震災からの農業復興、並びに放射能に関する教育を体系的に実施する。1年次の必修科目であるコース概論4科目(「食品科学概論」、「農業生産学概論」、「生産環境学概論」、「農業経営概論」)では、各コースの専門基礎を学ぶとともに、それぞれの専門の角度から放射能汚染対策も含めた震災復興の現状と課題について学修する。また基盤教育科目の「震災農村復興論」、学類共通専門基礎科目の「物理学」、「食品安全学」、コース専門教育科目の「農地再生論」、「果樹園芸学」、「里山管理論」、「環境水利学」、「農産物流通論」などを通して、①放射性物質の挙動、②作物への放射性物質の移行を制御する栽培方法、③放射性物質をめぐるリスク・コミュニケーション、④風評被害を克服するビジネスモデルなどについて体系的な教育を実施する。

(カ) 学類内のコース間の連携強化を重視し、かつ環境と安全性に配慮した先端技術による農産物の生産・加工・販売に関する一貫した教育を実施する。

(キ) 農産物の生産管理や分析などには数的処理能力が不可欠であることから、学類共通専門基礎科目のうち「基礎数学」、「統計学」を必修とする。また、同様に情報処理の知識も重要であることから、基盤教育科目である「情報リテラシー」の履修を推奨し、また学類共通専門科目として「食農データサイエンス」を必修とする。

(ク) 「キャリア形成論」、「キャリアモデル学習」、「ワーキングスキル」、「食農地域実習」及び「食農実践演習Ⅰ・Ⅱ」によって、職業の現場を強く意識した教育を実施する。

(ケ) グローバル化に対応できる外国語能力と国際性を高めるため、基盤教育科目では外国語科目8単位を選択・必修としている。また専門科目では「食農科学英語演習」を必修とした。さらに海外での研究経験が豊富な教員が担当する「世界の食料と農業」を必修の学類共通専門基礎科目としてオムニバスで実施し、グローバルな視点の涵養を図る。

17. 食農学類における教育課程の 特色について

食農学類における教育課程の特色について

本学類では、2年次前期までは学類共通専門基礎科目を、2年次後期からは所属する各コースの専門教育科目を中心に学修を進めます。

1. 学類共通専門基礎教育

1) 食と農の科学、国際化に関連する科目

1年次・2年次前期では、基盤教育と並行して、学類共通専門基礎科目を履修します。この学類共通専門基礎科目は、各コースの基礎的な重要科目であり、本学類の専門分野の基盤的な内容を含んでいます。具体的な科目は履修基準表に記しています。

学類共通の必修科目として1年次には「農場基礎実習Ⅰ・Ⅱ」があり、附属農場等で作物の栽培や農産物生産・加工の実習をします。なお、「農場基礎実習Ⅱ」は、基盤教育の問題探究領域、問題探究セミナーとして開講します。

2年次後期の「食農データサイエンス」では、食と農に関する基本データの収集・分析とプレゼンテーションの基礎技術を広く習得します。

このほか、「畜産学特別実習」が宇都宮大学農学部附属農場（栃木県真岡市）で、「森林特別実習」が福島県内で、集中で開講され履修できます。

2) 地域の食と農の課題解決に関する科目

2年次前期「食農実践演習Ⅰ」・3年次通年の「食農実践演習Ⅱ」では、福島県内のフィールド（市町村・農林業関係団体・関連企業等）で、食と農に関する課題の特定・分析から解決策の提案までの貢献意識を高める学修を進めます。また、これに関連したインターンシップも実施する予定です。

外国語能力は、基盤教育科目の英語等の学修をふまえ、学類共通専門科目「食農科学英語演習」で科学英語の理解力を高めます。

また、「卒業研究基礎演習」、「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」では英語等の論文を精読し、４年間を通して継続的に語学力を向上させることとなります。

３年次後期から履修する卒業研究科目は、「卒業研究基礎演習」（１単位）、「卒業研究演習Ⅰ」（２単位）、「卒業研究演習Ⅱ」（２単位）、「卒業論文」（４単位）で構成され、全科目が必修です（９単位）。「卒業論文」では、「食農実践演習Ⅰ・Ⅱ」のフィールドワークから得られたデータや、福島や地域が抱える食と農の課題解決に関するテーマを想定しています。

2. コース専門教育

1) 食品科学コース

食品科学コースでは、食品の分析について専門的な知識・技能を学修します。特に、優れた食品の製造について知識・技能を修得し、地域の伝統的な強みを活かす食や食品の理解を深めます。最新バイオ技術、生物化学、分子生物学、微生物学、分析科学論を駆使して食料、健康、資源、環境の諸問題を解決するための専門知識、技術を修得し、農学、工学、栄養学および化学的見地から新しい安全な食品開発と産業化、食品科学を通じた医薬学分野に貢献する能力を身に付けます。

コース教員による授業のほか、食品製造等に関連する福島県等の公設機関や地元企業で実学を学びます。また、本学類の他コースの科目を履修して多角的・総合的に理解を深めます。

2年次後期のコース所属後は、教員の指導により進路に対応したより専門的な履修計画を立てて学修します。「食品機能学Ⅰ」、「生物化学」、「有機化学概論」、「分析化学概論」のほか「食農データサイエンス」を履修し、専門基礎として必要な知識と実験技術を修得する幅広い知識を学修します。

3年次は授業等でより専門性が強くなります。

「食品機能学Ⅱ」、「食品加工学Ⅱ」、「発酵・醸造学Ⅱ」、「食品衛生管理学」、「食品保蔵学」等で専門知識を修得し、それらに密接に関連する「食品科学実験Ⅰ・Ⅱ」で実験技術を学修します。

3年次後期に各研究室に所属します。より少人数の演習や実験で実践的な知識を身に付けます。

4年次の「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」では、関連領域の演習をとおして、より高度な専門知識と技術力を修得し、より実践的な機能学、分析学、素材学、加工学、保蔵学、発酵・醸造学、安全学の知識を学修します。

2) 農業生産学コース

農業生産学コースでは、農業生産、特に農作物や家畜の生産における諸問題を解決するために、作物、果樹、蔬菜・花き、飼料作物等の栽培や育種、栄養生理、病害虫、土壌肥料や、環境保全型農業に関する専門知識や技術を学修します。

コース教員による授業のほか、自治体や農協、地元企業、農業試験場等でフィールドワークをします。また、本学類の他コースの科目を履修して多角的・総合的に理解を深めます。

2年次後期のコース所属後は、教員の指導により進路に対応したより専門的な履修計画を立てて学修します。「作物育種学」、「作物学概論」、「蔬菜・花き園芸学」、「果樹園芸学」など、農業生産学分野の基礎知識を修得します。

3年次は授業等でより専門性が強くなります。「植物病理学」、「飼料資源学」、「応用昆虫学」、「植物栄養学」、「環境保全型農業論」等で専門知識を修得し、また「農業生産学実験・実習Ⅰ・Ⅱ」で農業生産の専門領域の研究に関する基礎手法や情報収集方法を学びます。

3年次後期に各研究室に所属します。「卒業研究基礎演習」では、より少人数の演習や実験で実践的な知識を身に付けます。

4年次の「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」では、農業生産の専門領域の研究を行い、より高度な専門知識と技術力を修得します。

3) 生産環境学コース

生産環境学コースでは、森林・農地・水環境等の生産資源や、農業農村工学（農業土木）・機械など生産活動を管理・運用するシステムに関わる技術や知見を修得し、生産環境の保全・活用と諸問題を解決するための専門知識や技術を学修します。

コース教員による授業のほか、森林や農地等でフィールドワークをします。また、本学類の他コースの科目を履修して多角的・総合的に理解を深めます。

2年次後期のコース所属後は、教員の指導により進路に対応したより専門的な履修計画を立てて学修します。「力の科学」、「測量学」、「里山管理論」、「森林植物学」、「農業機械学」など、生産環境学分野の基礎知識と実験技術を修得します。

3年次は授業等でより専門性が強くなります。

「環境水利学」「森林保全学」、「森林生態系管理学」、「スマート農業論」、「環境モデル学」、「森林利用学」、「農業リモートセンシング」、「農村計画学」、「土壌物理学」、「野生動物管理学」等で専門知識を習得し、それらに密接に関連する「生産環境学実験・実習Ⅰ・Ⅱ」で実験・実習技術を学修します。

3年次後期に各研究室に所属します。より少人数の演習や実験で実践的な知識を身に付けます。

4年次の「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」では、関連領域の演習をとおして、より高度な専門知識と技術力を修得します。

4) 農業経営学コース

農業経営学コースでは、農林業の個別経営体の構造や行動をとらえる農業経営学を中心として、食料の生産から加工・流通を経て消費に至るプロセス、地域・農村社会や地域づくりの領域を含み、それらに関わる諸問題を解決するための知識と人文・社会科学的な技能を学修します。

コース教員による授業のほか、自治体や農協、地元企業、NPO組織等でフィールドワークをします。また、本学類の他コースの科目を履修して多角的・総合的に理解を深めます。

2年次前期の「農業経営学」、「世界の食料と農業」、等の授業が基礎となり、2年次後期のコース所属後は、教員の指導により進路に対応した

より専門的な履修計画を立てて学修します。「農業経済学」、「フードシステム論」、「農産物流通論」、「食料・農業政策学」、「協同組合学」、「農林資源経済論」等を学びます。

3年次は授業等でより専門性が強くなります。

「食品マーケティング論」、「アグリビジネス論」等で専門知識を修得し、フィールドワークの技法や分析の技術的手法を「農業経営学演習Ⅰ・Ⅱ」で現地調査をとおしながら学びます。

3年次後期に各研究室に所属します。より少人数の授業や演習で実践的な知識を身に付けます。

4年次の「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」では、農業経営学分野の専門領域の研究を行い、より高度な専門知識と技術力を修得します。

3. 基盤教育

本学の基盤教育は3つの領域で構成されています。

- ①接 続 領 域：高校教育からのスムーズな連結と、大学で学ぶうえで必要な基礎能力を身に付ける。
- ②教 養 領 域：専門分化した領域が他領域と価値観を共有したり、協働を可能としたりするために、より幅広く他領域の専門を理解し協働するための「共通の言語」を形づくる。
- ③問 題 探 究 領 域：現実的な問題から当事者意識を持って取り組むべき課題を発見し、集団で問題解決に向けて調査・議論・実践を行う。

学生は3つの領域の科目群を履修することにより、幅広い教養と基礎学力が培われ、地域社会の諸問題を発見し、その課題解決に向けた思考力が養成されます。

接続領域は、スタートアップ科目、ライフマネジメント科目、外国語コミュニケーション科目、教養領域は、学術基礎科目、キャリア設計科目、健康・運動科目、外国語科目、情報科目、問題探究領域は、問題探究科目、自主学修プログラム、問題探究セミナーからなります。

基盤教育は教育推進機構内の基盤教育委員会が管理・運営しています。全教員が兼任で基盤教育の授業を実施します。このうち、接続領域の「スタートアップセミナー」、「キャリア形成論」、教養領域の「キャリアモデル学習」、問題探究領域の「問題探究セミナー」は、本学類教員が担当します。

4. 自由選択科目

本学では、基盤教育と学類専門教育のほかに、学生の自由な学びを促すために自由選択科目を設けています。学生は、基盤教育科目、本学類の専門教育科目、他学類の専門教育科目のいずれからでも履修することができます。

本学類では、学際性の幅を広げるため、他学類の教員が開講する科目の履修を推奨しています。

1 8 . 学外実習について

学外実習について

1. 学外実習

本学類では実習科目「農場基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「畜産学特別実習」、「森林特別実習」、「食農実践演習Ⅰ・Ⅱ」、「食農地域実習」の全部または一部を学外施設等で実施します。それぞれの実習先の概要は各項目のとおりです。※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては記載内容に変更があり得ます

1) 農場基礎実習Ⅰ（学類共通専門基礎科目・農学リテラシー・1年次前期・必修・2単位）

農場基礎実習Ⅱ（基盤教育科目・問題探究領域・1年次後期・必修・2単位）

農場基礎実習Ⅰ・Ⅱでは、本学類の附属農場の他に福島県が所管する果樹研究所や畜産研究所等の学外施設で実習を行うことがあります。学外施設での実習の際は、当該施設の規則に従い行動するようにしてください。

なお、後述の傷害保険及び賠償責任保険へ加入していない学生は、学外施設での実習に参加できません。

2) 畜産学特別実習（学類共通専門基礎科目・農学リテラシー・1年次前期・選択必修・1単位）

本実習は、宇都宮大学農学部附属農場において、夏季休業期間中の集中講義として同農場教員の担当で実施します（所在地は下記のとおり）。本学類の教員が引率者として同行します。

受講者は、1年次前期に本学で事前講義（2コマ程度）を受けたのち、3日間の実習に取り組みます。実習期間中は現地に宿泊します。

実習内容に人数制限が必要な内容（乳牛の搾乳など）が含まれていることから、受講者数は最大25名程度です。

成績評価と単位認定は、レポートの成績等により実習担当教員が行います。

宇都宮大学農学部附属農場

〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4 4 3

3) 森林特別実習（学類共通専門基礎科目・農学リテラシー・2 年次前期・選択必修・1 単位）

本実習は、前期又は夏季休業期間中に、本学類の生産環境学コース教員の担当で、集中で実施します。

受講者は、2 年次前期に本学で事前講義（1 コマ程度）を受けたのち、3 日間の実習に取り組みます。実習は日帰りで、県内の複数の場所に行き、樹木の識別の仕方を覚えたり、野生動物の痕跡を調べたりするなど森林の生物多様性に関する実習、及び森林や森林環境の計測実習を行います。

実習には安全確保に留意すべき内容が含まれることから、受講者数は最大 30 名です。

成績評価と単位認定は、レポートの成績等により実習担当教員が行います。

4) 農学実践型教育「食農実践演習Ⅰ・Ⅱ」

「食農実践演習Ⅰ」（学類共通専門基礎科目・農学リテラシー・2 年次前期・必修・2 単位）

「食農実践演習Ⅱ」（学類共通専門科目・3 年次通年・選択必修・4 単位）

2 年次前期の「食農実践演習Ⅰ」・3 年次通年の「食農実践演習Ⅱ」は、学生と教員が福島県内の地域の方々と一緒に取り組むプロジェクトです。

「食農実践演習Ⅰ」は必修で全員が取り組みます。「食農実践演習Ⅱ」は、選択で、3 年次通年で取り組みます。いずれも、①フィールド実習をふまえた教育であること、②地域課題を抽出した「地域課題解決型プロジェクト」であること、③各プロジェクトに4 コースから教員が加わり学際的なアプローチで進めること、④研究・社会貢献と一体的に取り組むこと、が特徴です。

授業の第 1 回でガイダンスを実施し、詳細を案内します。

福島県内の自治体及び農業・食料に関わる団体と連携しながらフィールドを設定します。

5) 食農地域実習（学類共通専門科目・3 年次前期・選択必修）

○食農地域実習（1 単位）

主として福島県の食と農に関わる官公庁、会社、団体等において、就業体験も含めて実践的に学修を行い、汎用的能力を涵養します。

各機関等で実施している業務を参考とし、就業体験を概ね 5 日間実施します。

そこから得られた知見をとりまとめ発表し、自身の専門学修に繋げることで、食と農に関する職業人としての素養を培います。

○食農地域実習（2 単位）

主として福島県の食と農に関わる官公庁、会社、団体等において、自分の専門に関連する業務を題材として就業体験も含めて実践的に学修を行い、専門活用能力を涵養します。

各機関等で実施している業務を参考とし、就業体験を概ね 10 日間実施します。

そこから得られた知見をとりまとめ発表し、自身の専門学修に繋げることで、食と農に関する職業人としての素養を培います。

※食農地域実習（1単位）と（2単位）の両方を履修することはできません。

なお、4月にガイダンスを実施しますので、別途「LC」を確認してください。

2. 実習の実施体制

1) 安全面に関する取り組み

学内・外で実施する実習において学生の安全を確保する必要があることは言うまでもありません。本学類では、実習内容について、実習先の機関等と事前に十分に協議し、安全の確保を図っています。また、学類内に専門委員会を設けて危機管理体制に万全を期すとともに、「安全・危機管理に関するマニュアル」を作成して本学類の教職員・学生、実習先機関等に周知します。

2) 傷害保険及び賠償責任保険への加入

学生には下記のいずれかの傷害保険および賠償責任保険への加入を義務付けています。

○傷害保険

A：学生教育研究災害傷害保険（学研災）【公益財団法人 日本国際教育支援協会】

→学生が正課中、課外活動中、行事および通学中の事故により傷害等を受けた場合に対する保険。

B：学生総合共済（生命共済）【大学生協】

→病気での入院・ケガでの入通院などの場合に保証する保険。

○賠償責任保険

C：学研災付帯賠償責任保険（学研賠）【公益財団法人 日本国際教育支援協会】

→学生が正課中やインターンシップ中、行事および通学中に他人にケガをさせたり器物を損壊したりした場合の損害賠償を保証する保険。「学研災」と併せての加入が必要。

D：学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）【公益財団法人 日本国際教育支援協会】

→学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険で補償の学校管理下での事故に加え、プライベートでの事故や病気の治療費、扶養者の万一に備えた育英費用補償等の補償を受けることのできる保険。「学研災」と併せての加入が必要。

E：学生賠償責任保険【大学生協】

→実験・実習中などを含め、他人の身体や他人の財物等に対する賠償責任保険。

加入パターン例（傷害保険＋賠償責任保険）A＋C、A＋D、B＋E、A＋E

3）実習先への交通手段・学生の負担等

本学類の附属農場へは徒歩で移動します。

「農場基礎実習Ⅰ・Ⅱ」等で学外の圃場や研究所等に移動する際の交通費等は、原則として学生の自己負担とします。なお、自家用車等での移動は、原則として禁止します。ただし、特別な理由がある場合は担当教員に相談してください。

「畜産学特別実習」（栃木県）、「森林特別実習」（県内）の実習先は本学から離れた場所にありますが、実習に係る交通費、宿泊に要する経費等は、原則として学生の自己負担とします。後援会より一部補助されます。

1 9 . 学修教育方法

学修教育方法

1. 本学類における学修教育方法

1) クラス担任・副担任、学年担任・副担任による履修指導

学生は、入学後 25 名程度のクラスに所属します。各クラスには、クラス担任 1 名・副担任 1 名の教員が配置されます。2 年次後期からコースに所属すると、各コースの教員が担任・副担任を務めます。クラス担任・副担任および各コースの担任・副担任は、学生が研究室に配属されるまでの間（3 年次前期まで）、定期的に学生と面談し、履修や学修、生活、進路等について助言します。3 年次後期からは配属された研究室の指導教員が引き継ぎ、各指導を行います。

また、学年担任 1 名・副担任 1 名の教員も配置され、クラス担任・副担任と連携して履修指導等にあたります。

2026 年度入学生クラス担任・副担任（2 年次前期まで）

クラス名	A（あかつき）	B（きびたき）	C（けやき）	D（しのぶ）
クラス担任	◎林 薫平	吉永 和明	○石井 秀樹	熊谷 武久
クラス副担任	高梨 琢磨	寺田 圭	福田 洋介	萩原 幹花

（◎：学年担任、○：副担任）

2 年次後期～3 年次前期

	食品科学	農業生産学	生産環境学	農業経営学
コース担任	熊谷 武久	高梨 琢磨	石井 秀樹	林 薫平
コース副担任	吉永 和明	寺田 圭	萩原 幹花	福田 洋介

2) コース配属

学生は、2 年次後期に食品科学コース、農業生産学コース、生産環境学コース、農業経営学コースのいずれかに配属され、進路に即した履修プログラムを組み、専門性を深めます。各コースの配属学生数は 25 名程度と

し、希望人数等により若干名、増・減します。2年次前期までの成績を基にコース配属を行うため、希望人数がバランスを欠く場合は、希望するコースに配属されないことがあります。学生のコース配属は、学類教員会議で最終的に審議・決定されます。

コース選択・配属の手順は以下のとおりです。

(ア) 1年次前期の「食品科学概論」、「農業生産学概論」、1年次後期の「生産環境学概論」、「農業経営概論」で、各コース教員から、教育・研究内容や進学・就職などの進路に関わる情報が提供されます。

(イ) 1年次後期にコース配属についての説明会を行います。2月中旬～2月下旬に第1回事前調査を実施し、結果は公表しますので、学生はコース選択の参考にします。

(ウ) 2年次前期（6月下旬頃）に、各コースの説明資料を公開し、各コース先輩との懇談会を実施します。7月中旬に第2回事前調査を実施し、結果は、事前調査期間終了後に公表します。その後、8月上旬～中旬に本調査を実施し、調査結果と2年次前期までの成績を基にコース配属を行います。

(エ) 9月下旬にコース配属が決定しますので、所属コースに対応した履修計画を作成します。

3) 転コース

コース配属後、2年次2月上旬に転コースの希望を受け付けます。希望者がいた場合には、定められた選考方法に基づき、受入可否について総合的に判断した上で、学類教員会議で最終審議を行い、若干名の転コースを

認める場合があります。手続き等の詳細については、「LC」、掲示等で周知します。

4) 研究室配属

学生は3年次後期から研究室に配属されます。3年次前期に各コースの「研究室配属に関する申し合わせ」に従って配属を決定します。

5) 卒業研究科目の履修について

(ア) 学生は卒業研究科目（「卒業研究基礎演習」、「卒業研究演習Ⅰ」、「卒業研究演習Ⅱ」、「卒業論文」）を3年次後期から4年次後期までの1年6ヶ月にわたって履修し、所属研究室の教員から指導を受けます（主指導教員）。ただし、不測の事態等により所属研究室の教員から指導を受けられない場合には、学類長の判断により他の教員の指導を受けることがあります。

(イ) 学生は主指導教員による指導を受けて卒業研究を進め、所属するコースの「卒業論文に関する申し合わせ」に基づき、当該専門分野に関する卒業論文を作成します。なお、主指導教員以外の教員の助言や指導を受けることもできます。学生は事前に周知される方法・期日等により卒業論文を提出します。

(ウ) 卒業論文を提出した者は、卒業論文発表会においてその内容を発表し、審査を受けます。卒業論文発表会は、「卒業論文発表会実施要領」に基づき、実施されます。

(エ) 卒業研究科目の成績評価は、主として主指導教員が行います。なお、卒業論文については、各コースの「卒業論文に関する申し合わせ」に基づき、評価されます。

2. 学生の達成度評価・到達目標と進級・卒業要件

1) 学生の達成度評価

本学類では、授業理解度を評価する正規試験に加え、学年末に達成度評価（ラーニング・ポートフォリオの入力と面談）を実施します。達成度評価は、自らの進路の具体化を促すことを目的として実施します。面談は、指導教員（1年生：クラス担任、2年生：コース担任、3年生：研究室教員）が担当し、ラーニング・ポートフォリオの内容と学修状況を点検した上で、学修及び進路の具体化を促すため助言します。実施内容等は、「LC」で周知します。

ディプロマ・ポリシーの達成度は、学生は随時、ルーブリックによって自己評価することができます（次ページの表）。また、学生の授業科目の成績評価にあたってルーブリックが活用されます。

最終的なディプロマ・ポリシーの達成度は、4年次のラーニング・ポートフォリオ、卒業論文によって評価します。

2) 学生が各学年で修得する内容に関する到達目標

1年次：基盤教育と農業関連産業の基礎

2年次：グローバルな視点から専門をとらえる教養と農学の専門基礎

3年次：食料・農業の実践に関する専門知識・技術の習得と社会基盤の理解

4年次：ディプロマ・ポリシーの達成

（ア）課題解決志向と実践的な専門知識 DP1

農学から学んだ専門的な知識・技能の価値について、関連産業や地域社会の具体的な取組との関わりにおいて認識できる。

（イ）学際的な理解力とコミュニケーション能力 DP2

専門化した農学を学びながらも、領域を超えた学際的な理解力と発信力を培うことで、連鎖総体のレベルアップを常に意識できる。

(ウ) 国際的な問題意識とグローバルな知見の応用力 DP3

地域固有の課題の解決に向けた国際比較や国際交流に挑戦できる。

(エ) 冷静な分析力と持続的な地域貢献意識 DP4

科学的なエビデンスと論理性を大切にする冷静な分析力を身に付けるとともに、長期の時間視野から地域貢献の意義を理解できる。

3) 進級要件

本学類では、各年次における進級要件を以下のとおり定めています。この要件を満たさない場合は進級することができません。なお、やむを得ぬ特殊な事情と学類長が認めた場合はこの限りではありません。

	進級要件
2 年次への進級	1 年次末時点で要卒単位数 25 単位以上修得
3 年次への進級	2 年次末時点で要卒単位数 50 単位以上修得
4 年次への進級	3 年次末時点で要卒単位数 90 単位以上修得

※「要卒単位」とは、卒業までに最低限修得しておかなければならない 124 単位に含まれる単位のことです。例えば、「教育発達心理学」や「教育実習」などの教員免許のための科目は、124 単位に含まれない要卒外科目のため要卒単位にはなりません。

4) 卒業要件

卒業に必要な単位数（要卒単位数）は 124 単位です（履修基準表参照）。卒業すると学士（農学）の学位が与えられます。

3. 学修結果の保証人（保護者等）との共有

本学類では、各年度終了後に保証人に成績を送付します（4 年次後期以外）。学生、保証人、教員が学生の成績情報を共有するとともに、学生の学修への奨励や激励に役立てるためです。

なお、保証人への成績送付の可否は事前に意向を確認します（入学手続きの書類に同封されている「成績通知・単位確認表送付意向届」で意向を確認しています）。学年進行中に成績送付の可否の意向が変わった場合は、教務課食農学類係窓口にご相談してください。

また、送付は郵送でみなさんが「LC」に入力した「保証人住所」宛に送られます。もし住所の変更などがあった場合は、自身で忘れずに更新（修正）するようにしてください。

4. 履修基準表

1) 食農学類履修基準表（※外国人留学生の履修基準表は別に定めています）

	領域区分	科目区分		セメスター	1科目 単位数	要卒単位数		
						必修	選択必修	
基 盤 教 育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	2	2		
			社会とデータ科学の基礎	1	2	2		
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	2	2		
			健康運動科学実習	1	1	1		
		外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1	4		
	教養領域	学術基礎科目	人文科学分野の科目	1～	2	2	7（注1）	
			社会科学分野の科目	1～	2	2		
			自然科学分野の科目	1～	2	2		
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	3～	2	2		
			ワーキングスキル	3～	1または2			
		健康・運動科目	スポーツ実習	2～	1			
			外国語科目（注3）	英語BⅠ・BⅡ	3～	1		4
		応用英語		1～	1			
		英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ（注2）		1～	1			
		英語以外の外国語基礎（特設）Ⅰ・Ⅱ（注2）		1～	1			
		英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ（注2）		3～	1			
		情報科目	情報リテラシー	1～	2			
	問題探究領域	問題探究科目		1～	2	2		
		自主学修プログラム		1～	1または2			
		問題探究セミナー	農場基礎実習Ⅱ	2	2	2		
	小計						34	
専 門 教 育	専門領域	学類共通専門基礎科目	数理リテラシー	1～		4	4	7（注4）
			農学リテラシー	1～		14	14	
		学類共通専門科目		4～		4		
		コース専門科目		4～		28		
		（食品科学・農業生産学コース）				（4）	（24）	
		（生産環境学・農業経営学コース）				（8）	（20）	
		卒業研究科目		6～		9		
	小計						84	
自由選択	自由選択領域	自由選択科目（注5）					6	
計						124		

（注1）「教養領域」の学術基礎科目各分野2単位計6単位、キャリアモデル学習2単位、外国語科目4単位、「問題探究領域」の問題探究科目2単位、計14単位を修得した上で、さらに、「教養領域」の全科目及び「問題探究領域」の問題探究科目、自主学修プログラムから7単位修得する。

（注2）「教養領域」の英語以外の外国語は、同一言語で修得する。

（注3）「教養領域」の外国語科目必修4単位の修得方法は、英語4単位、英語以外の外国語4単位、英語2単位＋英語以外の外国語2単位のいずれかとする。

（注4）7単位については、所属するコース以外のコース専門科目を含めることができる。

（注5）要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に含めることができる。

2) 食農学類履修基準表（外国人留学生用）

	領域区分	科目区分		セメスター	1科目 単位数	要卒単位数		
						必修	選択必修	
基 盤 教 育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	2	2		
			社会とデータ科学の基礎	1	2	2		
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	2	2		
			健康運動科学実習	1	1	1		
		外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1	8 (注1)		7 (注1)
	外国語科目	英語BⅠ・BⅡ	3～	1				
		応用英語	1～	1				
		英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ (注1)	1～	1				
		英語以外の外国語基礎(特設) Ⅰ・Ⅱ(併修)	1～	1				
		英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ (注1)	3～	1				
		日本語科目	日本語Ⅰ～Ⅳ	1～	1			
	教養領域	日本事情	日本事情Ⅰ～Ⅳ	1～	2			
		学術基礎科目	人文科学分野の科目	1～	2		2	
			社会科学分野の科目	1～	2		2	
			自然科学分野の科目	1～	2		2	
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	3～	2		2	
			ワーキングスキル	3～	1または2			
		健康・運動科目	スポーツ実習	2～	1			
	情報科目	情報リテラシー	1～	2				
	問題探究領域	問題探究科目		1～	2	2		
		自主学修プログラム		1～	1または2			
		問題探究セミナー	農場基礎実習Ⅱ	2	2	2		
小計						34		
専 門 教 育	専門領域	学類共通専門基礎科目	数理リテラシー	1～		4	4	
			農学リテラシー	1～		14	14	
		学類共通専門科目		4～		4		
		コース専門科目		4～		28		
		(食品科学・農業生産学コース)				(4)	(24)	
		(生産環境学・農業経営学コース)				(8)	(20)	
		卒業研究科目		6～		9		
	小計						84	
自由選択	自由選択領域	自由選択科目 (注3)				6		
計						124		

(注1) 外国語コミュニケーション科目、外国語科目、日本語科目の中から母語・母国語系統言語を除く1ヶ国語で8単位、学術基礎科目各分野2単位計6単位、キャリアモデル学習2単位、問題探究科目2単位、計18単位を修得した上で、さらに「接続領域」の外国語コミュニケーション科目、「教養領域」の全科目、「問題探究領域」の問題探究科目、自主学修プログラムから7単位を修得する。

(注2) 7単位については、所属するコース以外のコース専門科目を含めることができる。

(注3) 要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に含めることができる。

3) 学類共通専門基礎科目

学類共通専門基礎科目（食農学類・全コース）

科目 区分	科目名	セメスター	1科目 単位数	要卒単位数	
				必修	選択
数理リテラシー	基礎数学	1	2	2	}
	統計学	2	2	2	
	化学	1	2		
	生物学	2	2		
	物理学	2	2		
	計			8	
農学リテラシー	農場基礎実習Ⅰ	1	2	2	}
	食品科学概論	1	2	2	
	農業生産学概論	1	2	2	
	生産環境学概論	2	2	2	
	農業経営概論	2	2	2	
	食農実践演習Ⅰ	3	2	2	
	世界の食料と農業	3	2	2	
	畜産学特別実習	1	1		
	基礎微生物学	2	2		
	栽培学汎論	2	2		
	食品安全学	3	2		
	森林科学	3	2		
	土壌科学	3	2		
	農業工学	3	2		
	畜産学概論	3	2		
	農業経営学	3	2		
	森林特別実習	3	1		
	計			28	

4) 学類共通専門科目

学類共通専門演習（食農学類・全コース）

科目名	セメスター	1 科目単位 数	要卒単位数	
			必修	選択
食農データサイエンス	4	2	2	
食農科学英語演習※注 1	5 又は 6	2	2	
食農実践演習Ⅱ	5 ～ 6	4		4
食農地域実習（1 単位）	5	1		1
食農地域実習（2 単位）	5	2		2
計			4	

※注 1「生産環境学コース」のみ 6 セメスター開講、その他の 3 コースは、5 セメスター開講です。

※注 2「食農地域実習」は Cap 除外科目かつ GPA 対象外科目です。

5) コース専門教育科目

専門教育科目（食品科学コース）

科目名	セメスター	1 科目単位数	要卒単位数	
			必修	選択
食品科学実験Ⅰ	5	2	2	24
食品科学実験Ⅱ	6	2	2	
食品機能学Ⅰ	4	2		
食品加工学Ⅰ	4	2		
発酵・醸造学Ⅰ	4	2		
食品素材科学	4	2		
生物化学	4	2		
有機化学概論	4	2		
分析化学概論	4	2		
食品機能学Ⅱ	5	2		
食品加工学Ⅱ	5	2		
発酵・醸造学Ⅱ	5	2		
食品衛生管理学	5	2		
食品保蔵学	5	2		
食品分析学	5	2		
植物栄養学	5	2		
農地再生論	6	2		
フードシステム論	6	2		
食品マーケティング論	7	2		
計				

専門教育科目（農業生産学コース）

科目名	セメスター	1 科目単位 数	要卒単位数	
			必修	選択
農業生産学実験・実習Ⅰ	5	2	2	24
農業生産学実験・実習Ⅱ	6	2	2	
作物育種学	4	2		
作物学概論	4	2		
蔬菜・花き園芸学	4	2		
果樹園芸学	4	2		
農産物流通論	4	2		
里山管理論	4	2		
植物病理学	5	2		
飼料資源学	5	2		
応用昆虫学	5	2		
植物栄養学	5	2		
環境保全型農業論	5	2		
スマート農業論	5	2		
農地再生論	6	2		
病虫害管理学	6	2		
食品加工学Ⅰ	6	2		
環境モデル学	6	2		
計				

専門教育科目（生産環境学コース）

科目名	セメスター	1 科目単位数	要卒単位数	
			必修	選択
力の科学	4	2	2	20
生産環境学実験・実習Ⅰ	5	2	2	
生産環境学実験・実習Ⅱ	6	2	2	
環境モデル学	6	2	2	
測量学	4	2		
里山管理論	4	2		
森林植物学	4	2		
農業機械学	4	2		
森林生物機能生態学	4	2		
環境水利学	5	2		
森林保全学	5	2		
農村計画学	5	2		
スマート農業論	5	2		
森林生態系管理学	5	2		
森林利用学	5	2		
土壌物理学	5	2		
農業リモートセンシング	5	2		
野生動物管理学	6	2		
計			28	

専門教育科目（農業経営学コース）

科目名	セメスター	1 科目 単位数	要卒単位数		計
			必修	選択	
農業経営学演習Ⅰ	5	4	4	12※2 8	28
農業経営学演習Ⅱ	6	4	4		
農業経済学	4	2			
フードシステム論	4	2			
農産物流通論	4	2			
食料・農業政策学	4	2			
協同組合学	4	2			
農林資源経済論	6	2			
食品マーケティング論	5	2			
農業簿記論	5	2			
アグリビジネス論	6	2			
蔬菜・花き園芸学	4	2			
果樹園芸学	4	2			
スマート農業論	5	2			
農村計画学	5	2			
社会計画論【行】※1	5	2			
環境経済学【経】※1	5	2			
ミクロ経済学Ⅰ【経】※1	5	2			
マクロ経済学Ⅰ【経】※1	5	2			
地域政策論【経】※1	5	2			
作物学概論	6	2			
地域福祉論【行】※1	6	2			
地域経済論【経】※1	6	2			
社会調査論【行】※1	7	2			

※1 科目名欄の【行】は行政政策学類開設科目、【経】は経済経営学類開設科目を示します。

※2 「農業経済学」「フードシステム論」「農産物流通論」「食料・農業政策学」「協同組合学」「農林資源経済論」「食品マーケティング論」「農業簿記論」「アグリビジネス論」の9科目（18単位）から6科目（12単位）以上履修する必要があります。

6) 卒業研究科目

卒業研究科目（食農学類・全コース）

科目名	セメスター	1 科目単位数	要卒単位	
			必修	選択
卒業研究基礎演習	6	1	1	
卒業研究演習Ⅰ	7	2	2	
卒業研究演習Ⅱ	8	2	2	
卒業論文	8	4	4	
計			9	

2 0 . 教員免許

教員免許

本学類の学生は、卒業要件に定められた単位のほかに、教育職員免許法（以下「免許法」という）および免許法施行規則（以下「施行規則」という）により定められた教育職員免許状（以下「免許状」という）を取得するのに必要な単位等を修得することにより、下記の免許状を取得できます。

なお、この際、本学類の本来の学修がおろそかにならないように注意しなければなりません。また、単に免許状取得だけを目的とするのは適当ではありません。

免許状取得にあたっては、学類の卒業要件単位数の他に修得しなければならない単位があります。免許状取得希望登録後は、本学以外の学校の協力を得ながら実習等を行うので、皆さん自身の日頃の努力や心がけが重要となります。

本学類生が取得できる免許状は以下の二つです。

○高等学校教諭 1 種免許状（農業）

主に本学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状です。

○高等学校教諭 1 種免許状（理科）

主に共生システム理工学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状です。

1. 免許状取得のための履修基準

免許状取得にあたって単位修得しなければならない科目は、【表 1】のとおりです。これは、免許法および施行規則により定められ、「教科及び教科の指導法に関する科目【表 2】」、「教育の基礎的理解に関する科目【表

3】〔A〕」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導教育相談に関する科目【表3】〔B〕」、「教育実践に関する科目【表3】〔C〕」及び「文部科学省令で定める科目（施行規則第66条の6）で定める科目【表4】」からなります。

【表 1】免許状取得に必要な最低修得単位数

免許状の種類		高等学校教諭一種免許状
基礎資格		学士の学位を有すること
免許教科		農業
最低修得単位数	教科及び教科の指導法に関する科目：【表 2】	3 6 (注)
	教育の基礎的理解に関する科目：【表 3】〔A〕	1 0
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導教育相談等に関する科目：【表 3】〔B〕	9
	教育実践に関する科目：【表 3】〔C〕	5
	日本国憲法：【表 4】〔a〕	2
	体育：【表 4】〔b〕	2
	外国語コミュニケーション：【表 4】〔c〕	2
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作：【表 4】〔d〕	2
	計	6 8

「理科」の免許状については、共生システム理工学類の履修方法の基準に従って履修することが必要です。

(注) 【表 3】〔A〕該当部分を 1 2 単位修得した場合は、最低修得単位は 3 4 単位となる。

【表 2】教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目			最低 修得 単位 数	開講区分
科目 区分		各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数			
				必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	農業の関係科目	農場基礎実習Ⅰ	2		2	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			食品科学概論	2		2	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			農業生産学概論	2		2	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			生産環境学概論	2		2	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			農業経営概論	2		2	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			栽培学汎論		2	20 (注)	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			森林科学		2		学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			食品安全学		2		学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			農業工学		2		学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			畜産学概論		2		学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			農業経営学		2		学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
			食品加工学Ⅰ		2		専門科目(食品科学コース)
			食品加工学Ⅱ		2		専門科目(食品科学コース)
			発酵・醸造学Ⅰ		2		専門科目(食品科学コース)
			食品素材科学		2		専門科目(食品科学コース)
			発酵・醸造学Ⅱ		2		専門科目(食品科学コース)
			食品衛生管理学		2		専門科目(食品科学コース)
			食品保蔵学		2		専門科目(食品科学コース)
			食品分析学		2		専門科目(食品科学コース)
			食品科学実験Ⅰ		2		専門科目(食品科学コース)
			作物育種学		2		専門科目(農業生産学コース)
			作物学概論		2		専門科目(農業生産学コース)
			蔬菜・花き園芸学		2		専門科目(農業生産学コース)
			果樹園芸学		2		専門科目(農業生産学コース)
			植物病理学		2		専門科目(農業生産学コース)
			応用昆虫学		2		専門科目(農業生産学コース)
			植物栄養学		2		専門科目(農業生産学コース)
			農業生産学実験・実習Ⅰ		2		専門科目(農業生産学コース)
			測量学		2		専門科目(生産環境学コース)

		森林生態系管理学		2		専門科目(生産環境学コース)
		森林利用学		2		専門科目(生産環境学コース)
		森林保全学		2		専門科目(生産環境学コース)
		農村計画学		2		専門科目(生産環境学コース)
		スマート農業論		2		専門科目(生産環境学コース)
		農業リモートセンシング		2		専門科目(生産環境学コース)
		生産環境学実験・実習Ⅰ		2		専門科目(生産環境学コース)
		農業経済学		2		専門科目(農業経営学コース)
		食料・農業政策学		2		専門科目(農業経営学コース)
		農産物流通論		2		専門科目(農業経営学コース)
		食品マーケティング論		2		専門科目(農業経営学コース)
		アグリビジネス論		2		専門科目(農業経営学コース)
		農業経営学演習Ⅰ		4		専門科目(農業経営学コース)
	職業指導	キャリアモデル学習	2		2	教科に関する専門的事項
	各教科の指導 法（情報通信 技術の活用を 含む。）	農業科教育法Ⅰ	2		2	各教科の指導法
		農業科教育法Ⅱ		2		2
計			16	76	36	

必修16単位を含め、36単位以上を修得する。

（注）【表3】〔A〕の『教育の基礎的理解に関する科目』の「社会教育論（生涯学習論を含む）Ⅰ」を修得した場合は、18単位となり、最低修得単位数の合計は34単位となる。

【表 3】教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める 教職に関する科目	科目名	単位数		最低修得 単位数
		必修	選択	
〔A〕 教育の基礎的理解に関する科目	人間と教育	2		10
	教職入門	2		
	教育と社会	2		
	社会教育論 (生涯学習論を含む) I		2	
	教育発達心理学	2		
	特別支援教育基礎	2		
〔B〕 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2		9
	教育の方法	2		
	ICT 活用の理論と方法	1		
	教育相談の基礎 (中学校・高等学校に 焦点づけて)	2		
	生活指導論	2		
〔C〕 教育実践に関する科目	事前及び事後指導	1		5
	教育実習（高）	2		
	教職実践演習（高）	2		
計		24	2	24

必修 24 単位を含め、24 単位以上を修得する。

【表 4】「文部科学省令で定める科目（施行規則第 66 条の 6 に定める科目）」

文部科学省令で定める科目		対応授業科目	単位数		必要単位数
			必修	選択	
日本国憲法〔a〕		日本国憲法	2		2
体育〔b〕		健康運動科学実習	1		1
		スポーツ実習	1		1
外国語コミュニケーション〔c〕		英語 A I		2	} 2
		英語 A II		2	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作〔d〕	数理、データ活用及び人工知能に関する科目	社会とデータ科学の基礎		2	} 2
	情報機器の操作	情報リテラシー		2	
計			4	8	8

2. 免許状取得への流れ

1) 免許状取得希望者の受け入れについて

免許状取得希望者（1 年次生）を対象として 7 月と 12 月頃に説明会を行いますので、希望者は両方の説明会に出席してください。この説明会では、免許状取得に必要な科目の履修方法、各種手続き等に関する重要な説明をします。説明会に出席しない場合には、免許状取得希望者として登録できない場合がありますので注意してください。

免許状取得希望者の募集は 1 年次生を対象に 2 月に行います。この手続きによって、免許種ごとに免許状取得希望者として登録され、2 年次以後の教職関連科目の履修が許可されます。

なお、本学類では、主に本学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる「高等学校教諭 1 種免許状（農業）」のほか、主に共生システム理工学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる「高等学校教諭 1 種免許状（理科）」の取得が可能です。後者の取得には相応の授業の履修と単位取得が必要です。申請に当たっては、共生システム理工学類の履修方法の基準等により慎重に検討してください。

免許状取得については、受入れ人数に制限があります。それぞれの免許状教科の取得希望者が制限人数を超過した場合、試験・面接等により選考します。

免許状取得登録後、免許状取得を放棄することになった場合は、その時点で速やかに教務課食農学類係窓口に出して、「教育職員免許状取得放棄届」を提出してください。

受入れ人数に余裕があり、標準修業年限（4 年）内での取得が困難であることを了解している場合に限って、2 年次以上で免許状取得を希望する者にも免許状取得登録を認めることがあります。

2) 教職関係の各種行事・手続き日程について

原則として下記の日程で行う予定です。詳細は後日掲示によりお知らせします。

対象学年	期 間	内 容
1 年	7月頃 1 2月頃 2月初旬	免許状取得に関する説明会（第1回） 免許状取得に関する説明会（第2回） 免許状取得希望登録
2 年	4月中旬～5月 1 月 3 月	免許状取得希望登録者説明会 教育実習参加希望者への説明会 教職担当教員との面談
3 年	4 月 3 月 3 月	出身校実習内諾報告書の提出（注1） 教職担当教員との面談 実習希望者が実習参加資格確認
4 年	4 月～5 月 5 月頃～9 月頃 7 月～1 2 月 1 0 月～1 月 学位記授与式	教育実習事前指導（注2） 教育実習 教育実習事後指導（注2） 教職実践演習 免許状授与

（注1）出身校で教育実習を行う学生のみ該当

（注2）理科で教育実習を行う場合も、食農学類の事前指導、事後指導を履修すること。

※上記日程の詳細については、必ず「LC」や、食農学類掲示板を確認すること。日程が変更になる場合があるので注意すること。

※「開放科目」として受講している科目については、授業開講学類の掲示板を確認すること。

※免許状取得希望登録後に免許状取得を辞退する場合は、速やかに教務課食農学類係窓口に『教育職員免許状取得放棄届』を提出すること。

3) 「教職履修カルテ」の活用について

免許状取得を希望する学生は「教職履修カルテ」を使用します。このカルテは、免許状を取得するために必要な科目の履修状況を教職関連科目の単位取得後に確認したり、教育実習等の事前事後指導に活用したりなど免許状取得のために4年間、活用するものです。具体的な活用方法等については、ガイダンス等で説明します。

免許状取得を希望する学生は、年度末にその年度の履修内容を「教職履修カルテ」に入力して、学類の教職担当教員と面談します。面談後は、学生自身が、面談内容や面談から考えたことを入力します。

個人面談を受けていなければ、4年次後期に開講される「教職実践演習」を履修できません。なお、自己評価シートは、ふりかえりを目的としており、学生が入力した自己評価は、「教職実践演習」等の評価と連動することはありません。

4) 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」について

これらの科目については、できる限り通常の授業科目と授業時間が重複しない時間帯に設定されるため、平日の5時限目や水曜日の午後、もしくは土曜日や集中講義として設定されることが多くなります。したがって、免許状取得希望者は、一日の受講時間が他の学生より多くなりますので、それなりの心構えが必要となります。

5) 「事前指導」、「事後指導」について

「事前指導」は、教育実習に入る前に、教育実習に関わる基礎的な知識や態度を学ぶための講義が行われます。

「事後指導」は、教育実習が終了した後、さらに教職意識を高めるために、一定のプログラムを行います。

「事前指導」、「事後指導」は、水曜の午後や、平日の5時限目等を実施されることが多く、開催日時等については、事前に掲示等で周知されますので、掲示等を見逃すことのないよう気をつけること、特に、「事前指導」の無断欠席は実習への参加資格を失うことがあるので注意が必要です。さらに、「事後指導」を無断欠席した場合には、免許状を取得できない場合があります。

6) 必修科目「教職実践演習」の受講について

免許状取得のためには8セメスター（4年次後期）に、教職関連の必修科目「教職実践演習」を受講する必要があります。この授業では、4年次前期までに履修した免許状取得に必要な授業や実習等で習得した内容を踏まえ、教員として学校現場で必要とされるさまざまな項目を実践的に学びます。なお、この授業の単位を修得しないと、免許状取得ができません。

3. 教育実習

1) 教育実習について

(ア) 免許状を取得するためには、各種免許状の種類に応じた教育実習を行い、所定の単位を修得する必要があります。なお、教育実習に必要な費用は履修者負担です。

(イ) 教育実習は、免許状取得登録者で教育実習履修資格等の条件を満たした者に対して履修が許可されます。以下の点に留意してください。

①教育実習は、原則として教員になる意思のある者に限り履修が認められるものです。

②教育実習に際しては、教員にふさわしい人格的資質、言動が要求されます。そのためには、日頃の心がけ、努力が必要です。

- ③教育実習は、実習校での教育実習のほかに、「事前指導」及び「事後指導」の履修を含めて3単位です。教育実習のほか、「事前指導」及び「事後指導」も履修登録してください。なお、「事前指導」及び「事後指導」を欠席した場合、教育実習の単位は認定されません。

理科で教育実習を行う場合も、食農学類の事前指導、事後指導を履修すること。

- ④必要な情報等は「LC」及び掲示で周知します。

(ウ) 教育実習校と教育実習期間

- ①高等学校教諭1種免許状（農業）の教育実習は、4年次に、原則として福島県立福島明成高等学校または出身校で行われます。期間は2週間です。
- ②高等学校教諭1種免許状（理科）の教育実習は、4年次に、原則として出身の高等学校で行われます。期間は2週間です。

2) 教育実習履修資格について

教育実習を履修するには、その前年度までに以下の条件をすべて満たしていることが必要です。

(ア) 【表2】『教科及び教科の指導法に関する科目』の「農業科教育法Ⅰ」、「農業科教育法Ⅱ」及び【表3】『教育の基礎的理解に関する科目等』の「教職入門」、「総合的な学習の時間及び特別活動の指導法」、の単位を修得していること。

(イ) 【表2】『教科及び教科の指導法に関する科目』の「教科に関する専門的事項」の必修科目のうち、10単位以上を修得していること。

(ウ) 3年次終了までに、要卒単位中より92単位以上を修得していること。

注意：「理科」免許種で教育実習を履修する場合は、共生システム理工学類の学修案内を参照してください。

3) 教育実習経費について

教育実習に必要な経費に関しては、履修者が実費を負担することがあります。

説明会での指示や諸掲示等に注意してください。

2 1 .食農学類で取得可能な資格

食農学類で取得可能な資格

1. 取得可能な資格

以下が食農学類で取得できる資格の一覧です。

資格の名称	国家資格	民間資格	備考
1. 食品衛生管理者・食品衛生監視員	○		任用資格取得が可能 食品科学コースの学生のみ取得可能
2. 食の6次産業化プロデューサー (レベル1, 2)		○	資格取得が可能 レベル2に関しては農業経営学コースに所属することが望ましい (レベル2支援スタッフは、農業経営学コースの学生のみ)
3. 自然再生士補		○	生産環境学コースの学生のみ取得可能
4. 環境再生医初級		○	生産環境学コースの学生のみ取得可能
5. 樹木医補		○	生産環境学コース、農業生産学コースの学生のみ取得可能

2年次後期に資格取得等の希望登録を行いますので、その際、必ず取得を希望する資格の登録を行ってください。登録をしないと資格を取得することができません。

※「食の6次産業化プロデューサー」は、別途1年次に登録を行います。

※「自然再生士補」、「環境再生医初級」、「樹木医補」の登録は行いません。資格取得に向けて、各自で手続きを進めてください。

1) 食品衛生管理者・食品衛生監視員【ともに任用資格】※¹

食農学類は、以下のとおり「食品衛生管理者」・「食品衛生監視員」の養成施設として登録されています。

養成施設の名称：国立大学法人福島大学農学群食農学類食品科学コース
食品衛生管理者・食品衛生監視員養成プログラム

食品科学コースに所属し、所定の単位を修得することにより「食品衛生管理者」・「食品衛生監視員」の任用資格を取得することができます。時間割の都合などで、4年間では他の資格や教員免許との同時取得はできない場合がありますので注意してください。

※¹・・・任用資格とは「食品衛生管理者や食品衛生監視員等の特定の職に任用されるための資格」のことです。

(ア) 履修要項

本資格取得のために単位修得の必要な科目は以下のとおりです。

【食品衛生法施行規則別表第14】と【食品衛生法施行規則別表第15】の両方をクリアする必要があります。中には食品科学コース以外のコース専門科目も含まれていますので、各自時間割を確認しながら計画的に履修するようにしてください。

○2025年度以降入学生向け

【食品衛生法施行規則別表第14】

次のうち、22単位以上修得かつ学科毎に1科目以上修得

(学科毎に1科目以上修得する必要があるため、「食品衛生管理学」は必修)

受講年次	受講期	法定科目	大学設定科目	単位数	必修又は 選択の別
1 年次	前期	無機化学	化学	2	選択
	後期	微生物学	基礎微生物学	2	選択
2 年次	前期	毒性学	食品安全学	2	選択
	後期	分析化学	分析化学概論	2	選択
		有機化学	有機化学概論	2	選択
		生物化学	生物化学	2	選択
		食品化学	食品素材科学	2	選択
		生理学	食品機能学Ⅰ	2	選択
		食品微生物学	発酵・醸造学Ⅰ	2	選択
		食品製造学	食品加工学Ⅰ	2	選択
3 年次	前期	食品分析学	食品分析学	2	選択
		食品保存学	食品保蔵学	2	選択
		食品衛生学	食品衛生管理学	2	必修
単位数計				26	

(参考)

学科	法定科目
化学	分析化学、有機化学、無機化学
生物化学	生物化学、食品化学、生理学、食品分析学、毒性学
微生物学	微生物学、食品微生物学、食品保存学、食品製造学
公衆衛生学	食品衛生学

【食品衛生法施行規則別表第 15】

次のうち、18 単位以上修得

(農産物製造学については、2 科目修得した場合に適用される)

受講年次	受講期	法定科目	大学設定科目	単位数	必修又は選択の別
1 年次	後期	栄養学	食品の機能	2	選択
		医学概論	人体の構造と機能及び疾病（医学概論）	2	選択
2 年次	前期	家畜生理学	畜産学概論	2	選択
	後期	農産物製造学	果樹園芸学	2	選択
		農産物製造学	蔬菜・花き園芸学	2	選択
3 年次	前期	食品理化学	食品機能学Ⅱ	2	選択
		植物生理学	植物栄養学	2	選択
		応用微生物学	発酵・醸造学Ⅱ	2	選択
		酪農微生物学	飼料資源学	2	選択
		食品工学	食品加工学Ⅱ	2	選択
	後期	その他これらに類する食品衛生に関する科目	病虫害管理学 (農薬化学相当)	2	選択
単位数計				22	

(イ) 資格取得希望の受付

2 年次後期のコース配属後に資格取得等の希望登録を行いますので、食品科学コースに配属された上で、希望を出してください。なお、コース配

属の前にも資格取得に必要な科目が開講されていますので、あらかじめ単位の修得を進めておいてください。

(ウ) プログラム修了（見込）証明書の発行について

以下の条件を満たした学生全員に対して、「プログラム修了証明書」を発行します。証明書は、4年次末の学位記と併せて配付します。

(条件)

- ・ 2年次10月の資格取得等の希望登録において、本資格に希望を出していること。
- ・ 必要単位を全て修得していること。

なお、上述より早く証明書が必要な場合には、教務課食農学類係窓口で発行を申請してください。その場合も、上述の条件を満たしていることが必要です。

また、全ての単位を修得する前に、採用試験等で証明書を求められた場合には、「プログラム修了見込証明書」を発行しますので、自身で必要単位の修得状況を確認の上、教務課食農学類係窓口で申請してください。なお、以下の条件を満たしていることが必要です。

(条件)

- ・ 2年次10月の資格取得等の希望登録において、本資格に希望を出していること
- ・ 証明書の発行申請時点で、履修年次や時間割の重複等により履修できない科目を除いて、必要科目を全て単位修得あるいは履修していること。かつ残りの必要科目を卒業までに単位修得できると認められること。

2) 食の6次産業化プロデューサー

食農学類では、所定の単位を修得し、定められた手続きを行うことで食の6次産業化プロデューサー（以下、食プロ）のレベル認定を受けることができます。本学類で認定を受けられるのは、レベル1～レベル2までです。時間割の都合などで、4年間では他の資格や教員免許との同時取得はできない場合がありますので注意してください。

(ア) 資格の概要

食の6次産業化を担う人材の認定・育成を目的としています。

生産（1次産業）、加工（2次産業）、流通・販売・サービス（3次産業）の一体化や連携により、地域の農林水産物を活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開など、食分野で新たなビジネスを創出するための職能レベルを認定します。

(イ) 履修要項

レベル認定を受けるには、「わかる」と「できる」のレベル判定を揃える必要があります。（レベル1認定の場合は、「わかる」のみで認定を受けることができます）

「わかる」…本学類で認定されている「育成プログラム」を受講することが必要

「できる」…各自で「できる」申請書の作成・提出が必要

本学類では、以下の「わかる」育成プログラムを実施しています。

- ・レベル1
- ・レベル2（事業主・法人スタッフ）
- ・レベル2（支援スタッフ）

それぞれのプログラム詳細は以下のとおりです。それぞれ希望するプログラムの科目を単位修得してください。食プロレベル2の取得を目指す場合は、レベル1・レベル2のプログラムを両方受講してください。

○「わかる」育成プログラム レベル1

以下の科目を全て単位修得してください。

科目名	履修セメスター	備考
食品科学概論	1	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
農業生産学概論	1	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
農場基礎実習Ⅰ	1	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
農業経営概論	2	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
農場基礎実習Ⅱ	2	問題探究領域科目(問題探究セミナーⅠ)

○「わかる」育成プログラム レベル2（事業主・法人スタッフ）

以下の科目を全て単位修得してください。

※「農業経営学コース」に所属していることが望ましいです。

科目名	履修セメスター	備考
食品科学概論	1	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
農場基礎実習Ⅰ	1	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
農業経営学	3	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
フードシステム論	4	コース専門科目(農業経営学コース)
食品マーケティング論	5	コース専門科目(農業経営学コース)
アグリビジネス論	6	コース専門科目(農業経営学コース)

○「わかる」育成プログラム レベル2（支援スタッフ）

以下の科目を全て単位修得してください。なお、同プログラムの科目は変更となる可能性があります。在学中に同科目が変更となった場合は、「LC」等でその旨お知らせします。

※「農業経営学コース」に所属している必要があります。

科目名	履修セメスター	備考
食品科学概論	1	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
農場基礎実習Ⅰ	1	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
農業経営学	3	学類共通専門基礎科目(農学リテラシー)
フードシステム論	4	コース専門科目(農業経営学コース)
食農実践演習Ⅰ	3	学類共通演習科目
食品マーケティング論	5	コース専門科目(農業経営学コース)
農業経営学演習Ⅰ	5	コース専門科目(農業経営学コース)
食農実践演習Ⅱ	5～6	学類共通演習科目
アグリビジネス論	6	コース専門科目(農業経営学コース)
農業経営学演習Ⅱ	6	コース専門科目(農業経営学コース)

それぞれのプログラム修了後、修了証を発行します。この修了証を用いて、「わかる」レベルの申請を行うことになります。

(ウ) 各種手続き

本資格を取得するには、いくつかの手続きが必要になります。それぞれの方法についてよく確認するようにしてください。

① 申請者 I Dの取得及びマイページの登録

「わかる」及び「できる」のレベル申請などは、申請者 I Dを用いて各自のマイページから行うことになります。この I D取得及びマイページの登録を、各自以下【資料①】を参考にして行ってください。1 年次 3 月の修了証発行前までに、教務課へ申請者 I Dを報告するようにしてください。この申請者 I Dがないと修了証の発行はできません。

【資料①】

<https://www.6ji-biz.org/process.html>

レベル認定のプロセス

→«食 Pro.の資料ダウンロード»

→「新たなビジネス人材を創る ～国家戦略プロフェッショナル検定食の 6 次産業化プロデューサー（食 Pro.）～」—制度紹介と申請方法のご案内—を D L

→「マイページ登録・申請者 ID 取得」のページを確認してください。

② 「わかる」レベル申請

「わかる」レベルの判定を受けるには、「わかる」育成プログラム受講後に発行される修了証を用いて申請を行う必要があります。申請には、「個人申請」と「団体申請」があります。**修了証の有効期限は、発行から 1 年間です。この期間を過ぎると申請に使用できなくなりますので注意してください。**

- ・「個人申請」

レベル1の申請は、各自希望者で「個人申請」の手続きをしてもらいます。

手続き詳細は、前述の【資料①】内「レベル1の個人申請」、「レベル2の個人申請」箇所を確認してください。

- ・「団体申請」

団体申請は、希望者が10名以上いる場合に大学でとりまとめの上申請を行います。

レベル2の申請は、この団体申請を予定しています。（希望者が10名未満の場合は、「個人申請」になります）

手続き詳細は、前述の【資料①】内「レベル2の団体申請」箇所を確認してください。

③「できる」レベル申請

「できる」レベルの判定を受けるには、「できる」判定用の申請書類を各自で作成し、マイページから提出する必要があります。

手続き詳細は、前述の【資料①】内「「できる」判定用申請書類作成」箇所を確認してください。

なお、「できる」申請書を作成する前に、申請予定者を集めた申請書の書き方相談会を開催する予定です。この相談会に参加した上で、各自書類の作成を進めてください。

また、申請書を作成する際には、以下の【資料②】も参考にしてください。

【資料②】

<https://www.6ji-biz.org/relation.html>

お役立ち情報

→食の6次産業化プロデューサー基幹教則本（食 Pro.本）

④審査手数料の支払い

各レベルの判定を受けるには、審査手数料の支払いが必要です。

個人申請の場合は、各自振込を行ってください。団体申請の場合は、申請者から集金の上、大学で一括振込を行います。

審査手数料の金額は以下のとおりです。（2019年10月1日改訂）

	審査手数料	「わかる」審査手数料	「できる」審査手数料
レベル1	5,500円	－	－
レベル2	16,500円 (14,000円)	5,500円 (3,000円)	11,000円

※（）内の数字は、団体申請の場合の金額です。

(エ) レベル認定（資格取得）までの流れ

レベル認定までのおおまかな流れは以下のとおりです。

1 年次 4 月	新入生ガイダンス内で食プロ資格について説明
1 年次 1 月	食プロ資格取得希望者の受付 ※以降、追加での受付は無し（取り下げは可）
1 年次 1 月	申請者 I D の各自取得を案内、I D の収集
1 年次 3 月	後期成績発表後、レベル 1 修了証の発行 食プロ事務局へ修了者情報（申請者 I D 含む）の報告
2 年次 1 0 月	コース配属決定後、レベル 2 取得希望者の受付 ※以降、追加での受付は無し（取り下げは可） レベル 1 取得希望者は、各自レベル 1 申請
3 年次 3 月	後期成績発表後、レベル 2 修了証の発行 食プロ事務局へ修了者情報（申請者 I D 含む）の報告
4 年次	申請受付期間中に食プロわかるレベル 2 団体申請
4 年次	「できる」申請書書き方相談会開催（レベル 2 取得希望者対象）
4 年次	レベル 2 取得希望者は各自でマイページから「わかる」「できる」レベル申請

本資格の取得を希望する場合は、上の表に記載されている「食プロ資格取得希望者の受付」及び「レベル 2 取得希望者の受付」で申請を行ってください。この受付以降は、追加での申請を受け付けません。申請後は、各自で所定の科目の履修を進めてください。

2 年次 1 0 月に農業経営学コースに進めなかった学生で、食プロレベル 1 の取得を希望する場合は、この時点でレベル 1 の申請を行うようにしてください。

3) 自然再生士補

生産環境学コースでは、所定の単位を修得することで「自然再生士補」の資格を取得することができます。

履修要項

生産環境学コースに在籍する者または卒業した者で、指定された実験・実習、講義分野の認定科目より規定の科目数、単位数を履修・修得していることが条件となります。

自然再生士補資格認定希望者は次の条件を満たすことが必要です。

条件 1 : 食農学類が発行する履修科目名・取得単位数が明記された成績証明書（証明印のある原本）の提出（成績台帳やコピーは不可）

条件 2 : 下表の実験・実習分野より **3 科目以上 6 単位以上**の履修・修得

下表の講義分野より **2 科目以上 4 単位以上** の履修・修得
→実験・実習と講義分野の合計 **5 科目以上 10 単位以上**の履修・修得があること。

条件 3 : 実験・実習分野又は講義分野に関係なく下表の合計 **6 科目 12 単位以上**の履修・修得があること。

上記の「条件 1 と 2」あるいは「条件 1 と 3」を満たせば、在学中に自然再生士補が取得できます。資格取得のためには審査・登録料金 8,000 円が必要となります。

※自然再生士補資格認定申請を希望する学生の履修状況が条件 2 か条件 3 のいずれか 1 つに該当していれば、自然再生士補認定申請を行うことができます。

条件1は、教務課食農学類係窓口で証明書を発行しますので、申込をしてください。

【表】自然再生士補に関連する科目一覧

実験・実習(演習)分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習		①自然再生・自然環境概論	
②動・植物同定調査に係る実習・演習 (森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む)	・森林特別実習	②自然再生・自然環境保全に係る計画(設計)学	・農村計画学
		③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	・農業工学
③地域環境資源調査に係る実習・演習	・食農実践演習Ⅰ ・食農実践演習Ⅱ	④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	・森林保全学
④自然環境保全活動に係る実習・演習		⑤植物(草本類、木本類、水生植物等)分類・生態・生理学	・森林植物学 ・森林生態系管理学
⑤生態学実習・演習	・生産環境学実験・実習Ⅰ	⑥動物(哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等)分類・生態・生理学	・野生動物管理学
		⑦環境リスクマネジメント学	・世界の食料と農業
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・食農データサイエンス ・スタートアップセミナー	⑧環境経済学	
		⑨環境社会学	
		⑩地域環境学・地域生態論	・生産環境学概論
		⑪環境関連法規	
特別講義			

4) 環境再生医初級

生産環境学コースでは、所定の単位を修得することで「環境再生医初級」の資格を取得することができます。

履修要項

下の表中の 8 科目 16 単位を取得すれば、在学中に環境再生医初級が取得できます。資格取得の申請には、登録申請料金 8,000 円が必要となります。申請時期や方法等については、生産環境学コースに所属する学生に向けて案内がありますので、案内を見て担当教員に問い合わせてください。

【表】環境再生医初級に関連する科目一覧

初級認定 講習項目	項目概要 (原則的なコンテンツ)	自校対応科目 構成	単位数
1. 地球環境問題・ 自然環境復元 概論	生物や自然に関する基礎知識を持ち、生物多様性の危機等、地球環境危機の根源について、国際的な視野の下で十分に理解していること。	①地球環境・気候変動	生産環境学概論 2
		②生物多様性・生態系・生物分類	森林植物学 2
		③環境倫理・哲学・思想・歴史	森林生態系管理学 2
		④環境問題の国際動向 等	
2. 自然環境の 再生	農山村や河川、都市等における自然環境の保全・再生の動向及び技術について、基礎的な知識を持つこと。	①自然環境再生の動向	農業工学 2
		②山林・農地の自然再生	
		③河川・水辺の自然再生	
		④都市における自然再生 等	
3. 物質資源	資源や物質に関する循環型社会の構築について、課題に対する理解と基礎的な知識を持つこと。	①循環型社会の形成	世界の食料と農業 2
		②産業・経済および社会活動の方向—エコロジカル・リテラシー、エコマテリアル、ゼロエミッション	森林科学 2
		③循環型社会と暮らし／海外例等	
4. 環境教育・ 市民活動	学校教育や生涯学習における環境学習の動向と課題について、基礎的な理解をしていること。	①環境学習・自然体験・学校バイオトープ	農村計画学 2
		②NPO・地域コミュニティ再生	
		③インタープリテーション・ファシリテーション 等	
5. 環境行政・ 関係法令	環境の保全・再生を進めるに当たって必要な条約と環境関連法の内容について、基礎的な知識を持つこと。	①環境基本法・生物多様性国家戦略	森林保全学 2
		②自然再生推進法・自然関連法	
		③循環型社会形成推進基本法・リサイクル関連法令	
		④環境教育推進法 等	
合 計			16

注釈・付記事 項	☐ 項目ごとの必要単位の設定をする。 1. <u> 6 </u> 以上 2. <u> 2 </u> 以上 3. <u> 4 </u> 以上 4. <u> 2 </u> 以上 5. <u> 2 </u> 以上 ☐ 必要な修得単位の合計を <u> 16 </u> 単位以上とする。
---------------------	---

5) 樹木医補

「樹木医補」とは、樹木の保護管理、樹勢回復・治療などに関する高度な知識・技能を有する専門家・指導的技術者として、森林や緑地の緑を守る役割を担うことができる資格です。樹木医補に認定されると、より高度で専門的な樹木医になるための試験に優遇装置を受けられます。生産環境学コース・農業生産学コースは、「樹木医補資格養成機関」として登録されているので、下記の条件を満たすことによって、卒業後に資格を取得することができます。

履修要項

生産環境学コースまたは農業生産学コースを卒業した者で、指定された実験・実習、講義分野の認定科目より規定の科目数、単位数を履修・修得していることが条件となります。

樹木医補資格認定希望者は下記の条件を満たすことが必要です。

条件：講義科目のうち 6 分野以上を選び 14 単位以上、実験・実習科目のうち 4 分野 4 科目以上を修得し、卒業した者（実験・実習科目については、単位数の条件なし）

上記を満たし、卒業後に一般財団法人 日本緑化センターへの手続き（申請書、卒業・成績証明書、手数料等を提出）を経て「樹木医補」として認定されます。資格取得のためには審査・登録料金 8,000 円が必要となります。

※申請に関する詳細は、一般財団法人 日本緑化センターの HP を確認してください。

(https://www.jpgreen.or.jp/jyumokuiho/03_shinsei.html)

【表】 分野別科目対応表（講義科目の○数字は単位数）

		講義科目分類	実験・実習科目分類
分野別	樹木の分類	森林植物学② ※ 森林生物機能生態学② ※	森林特別実習
	樹木の生態・生理	森林生態系管理学② 果樹園芸学②	
	立地・土壌	土壌科学② 土壌物理学②	生産環境学実験・実習Ⅰ
	植物病理	植物病理学②	
	昆虫・動物	野生動物管理学② 森林保全学② 応用昆虫学②	
	樹木医学		食農地域実習（就業体験学習）
	農薬科学	病虫害管理学②	
	造園学	里山管理論②	食農地域実習（就業体験学習）
	樹木医補総合	森林科学②	食農地域実習（就業体験学習） 生産環境学実験・実習Ⅱ

注．樹木医学研究に係る「卒業論文」は、内容に該当する分野の実験・実習科目の1科目とすることができます。

注．樹木医学研究に係る「食農地域実習（就業体験学習）」を履修した場合は、内容に該当する分野の実験・実習科目の1科目とすることができます。ただし、その場合は、指導教員等の証明書と、インターンシップを受け入れる側の実習内容の証明書が必要となります。

※令和8年4月現在、以下の2科目の変更申請中です。

- ・「森林植物学」の分野を「樹木の生態・生理」から「樹木の分類」に変更。
- ・「森林生物機能生態学」を「樹木の分類」の分野の科目として新たに追加。

申請結果が判明次第、LC でお知らせします。（8月頃を予定しています。）

2. 受験資格等の取得が可能な資格

以下が、食農学類で受験資格等を取得できる資格です。

資格の名称	国家資格	民間資格	備考
1. 甲種危険物取扱者	○		受験資格の取得が可能
2. ビオトープ管理士		○	試験の一部免除申請が可能 生産環境学コースの学生のみ可能

1) 甲種危険物取扱者

食農学類では、所定の単位を修得することにより、「甲種危険物取扱者」の受験資格を得ることができます。時間割の都合などで、他の資格や教員免許との同時取得は出来ない場合がありますので注意してください。

(ア) 資格の概要

危険物取扱者とは、危険物を取り扱う場合に必要となる国家資格です。消防法に定める危険物を取り扱うことができ、甲種の場合は、第1類から第6類の全ての危険物を取り扱うことができます。

(イ) 資格取得の条件

この資格を取得するためには、①受験資格を取得すること②試験に合格することが必要です。

本学類では、下表の科目から15単位以上を修得することで①を満たすことができます。

【表】食農学類における化学に関する科目一覧

区分	科目名	履修セメ	単位数
数理リテラシー	化学	1	2
農学リテラシー	食品科学概論	1	2
	生産環境学概論	1	2
	食品安全学	3	2
食品科学コース	食品機能学Ⅰ	4	2
	食品加工学Ⅰ	4	2
	発酵・醸造学Ⅰ	4	2
	食品素材科学	4	2
	生物化学	4	2
	有機化学概論	4	2
	分析化学概論	4	2
	食品機能学Ⅱ	5	2
	食品加工学Ⅱ	5	2
	発酵・醸造学Ⅱ	5	2
	食品衛生管理学	5	2
	食品保蔵学	5	2
	食品分析学	5	2
	食品科学実験Ⅰ	5	2
	食品科学実験Ⅱ	6	2
農業生産学コース	植物病理学	5	2
	飼料資源学	5	2
	植物栄養学	5	2
	病虫害管理学	6	2
生産環境学コース	生産環境学実験・実習Ⅰ	5	2
	生産環境学実験・実習Ⅱ	6	2
単位数の合計が 15 単位以上であること	単位数の合計		52

②は、各自で受験手続きなどを行ってください。その際、（１）を満たしていることを示す書類が必要になりますので、教務課食農学類係窓口にて単位修得証明書の発行を依頼してください。

2) ビオトープ管理士（資格試験一部免除）

生産環境学コースでは、所定の単位を修得することで「ビオトープ管理士資格」の試験の一部免除を申請することができます。

履修要項

生産環境学コースに在籍する者または卒業した者で、以下の認定科目を履修・修得するとビオトープ管理士資格（設計部門・計画部門）の試験問題数が半減されます。なお、認定科目は変更となる可能性があります。在学中に認定科目が変更となった場合は、「LC」等でその旨お知らせします。

【認定科目】

科目名	履修セメスター	科目区分
生産環境学概論	2	農学リテラシー
森林科学	3	農学リテラシー
農業工学	3	農学リテラシー
森林植物学	4	生産環境学コース専門科目
森林保全学	5	生産環境学コース専門科目
農村計画学	5	生産環境学コース専門科目
生産環境学実験・実習Ⅰ	5	生産環境学コース専門科目
野生動物管理学	6	生産環境学コース専門科目
生産環境学実験・実習Ⅱ	6	生産環境学コース専門科目

2 2 . 「地域×データ」実践教育 プログラムの履修について

「地域×データ」実践教育プログラムの履修について

「地域×データ」実践教育プログラムは、地域に根ざした学修とデータにもとづく学修を幅広く体験できるよう基盤教育科目と学類専門教育科目とを組み合わせたプログラムです。本学の特徴ともいえる「正解のない問い」にチャレンジする学生を育成する科目の中心的な位置づけとなる特修プログラムです。

より実践的な力を身につけたい学生は「むらの大学」などのプロジェクト科目を受講し、「自主学修プログラム」などを利用して複数年にわたってプロジェクトを継続します。一般的には、「ふくしま未来学入門Ⅰ」および「ふくしま未来学入門Ⅱ」などの「地域×データ」実践教育プログラム科目を受講し、卒業要件に定められた単位の他に、下記の履修基準表に示す要認定単位数（30単位）を修得することで「地域×データ」実践教育プログラム修了と見なします。

【「地域×データ」実践教育プログラム履修基準表】

領域・科目区分		開設科目等	1 科目 単位数	必修	要認定 単位数
基盤教育	スタートアップ科目	社会とデータ科学の基礎	2	2	12
	学術基礎科目	「地域×データ」実践教育プログラム科目	各 2	－	
	問題探究科目	問題探究セミナー I	2	2	
		ふくしま未来学入門 I ・ II	各 2	2	
		むらの大学 I ・ II	各 2	－	
		データ分析入門、福島の地域データ、 データサイエンス実践演習			
		EBPM 入門、地域課題と探究指導、 地域課題とビジネス、地方と若者			
		その他の問題探究科目			
自主学修プログラム（地域実践）		1～	－		
専門教育	問題探究科目	問題探究セミナー II	2	2	12
	学類専門科目	「地域×データ」実践教育プログラム科目	各 2	－	
上記の基盤教育または専門教育から					6
「地域×データ」実践教育プログラム修了認定に必要な単位合計					30

【2026年度「地域×データ」実践教育プログラム科目】＊は開放科目を示す。
（以下に一覧）

区分	学類等	授業科目名	備考
基盤	(人)	倫理学	
基盤	(社)	市民と法	
基盤	(社)	地域論Ⅰ	
基盤	(社)	社会論	
基盤	(社)	地理学Ⅰ	
基盤	(社)	歴史学Ⅰ	
基盤	(社)	歴史学Ⅱ	
基盤	(社)	日本国憲法	
基盤	(社)	経済学Ⅰ	
基盤	(社)	農業と人間	
基盤	(社)	政治学	
基盤	(社)	経営学	
基盤	(社)	ジェンダー学入門	
基盤	(社)	経済学Ⅱ	
基盤	(自)	環境の科学	
基盤	(自)	環境の科学Ⅰ	
基盤	(自)	環境の科学Ⅱ	
基盤	(問)	大学で学ぶ	
基盤	(問)	福島のブランド農業	
基盤	(問)	ボランティア論	
基盤	(問)	グローバル災害論	
基盤	(問)	生活探究演習	
基盤	(問)	映画の世界・映画と世界	
基盤	(問)	哲学カフェ	
基盤	(問)	ふくしま未来学入門Ⅰ	
基盤	(問)	ふくしま未来学入門Ⅱ	
基盤	(問)	災害復興支援学Ⅱ	
基盤	(問)	成年年齢引き下げと政策的課題	
基盤	(問)	アジア共同体構想	
基盤	(問)	環境放射能学入門	
基盤	(問)	震災農村復興論	
基盤	(問)	評価論入門	
基盤	(問)	再生可能エネルギー	
基盤	(問)	むらの大学Ⅰ	
基盤	(問)	むらの大学Ⅱ	
基盤	(問)	むらの大学（合宿版）	
基盤	(問)	放射線入門	
基盤	(問)	NPO論	
基盤	(問)	立ち直り支援と地域社会	
基盤	(問)	データ分析入門	
基盤	(問)	暮らしと仕事と大学生	
基盤	(問)	都市計画と「まちづくり」	
基盤	(問)	地域と世界の未来をつくる科学と数学	
基盤	(問)	地域と世界の未来をつくる科学	
基盤	(問)	社会とデータの基礎	
基盤	(問)	戦争と平和と法	
基盤	(問)	SDGsと経営	
基盤	(問)	STEAM実践学修	
基盤	(問)	災害復興学	
基盤	(問)	人・食・環境・生物の共生関係	
基盤	(問)	旅から見直す私たちの日常生活	

区分	学類等	授業科目名	備考
基盤	(問)	地域デザイン	
基盤	(問)	データから考えるジェンダー	
基盤	(問)	立ち直りと地域共生社会	
基盤	(問)	むらの大学（滞在型）	
基盤		自主学修プログラム	
基盤	食農	農場基礎実習Ⅱ（問題探究セミナーⅠ）	

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	人間	* 現代アートマネジメント	
専門	人間	* 未来創造教育論	
専門	人間	* 科学技術と環境の倫理学	
専門	人間	* 自然災害と人間	
専門	人間	* 気候環境と人間	
専門	人間	* 都市とまちづくりの地理学	
専門	人間	食料生産と国土保全の地理学	
専門	人間	* 地域文化の総合研究	
専門	人間	* 現代社会と地域計画	
専門	人間	* 食と健康（人間）	
専門	人間	* 住環境学	
専門	人間	* 生涯スポーツ論	
専門	人間	* スポーツ政策論	
専門	人間	スポーツ企画演習	
専門	人間	自然体験実習	
専門	人間	地域教育実践Ⅰ	
専門	人間	* 芸術と環境	
専門	行政	憲法Ⅰ（人権）	
専門	行政	* 憲法（人権）Ⅰ	
専門	行政	民法Ⅰ（総則・不法行為）	
専門	行政	* 民法総則	
専門	行政	* 民法（不法行為）	
専門	行政	民法Ⅱ（債権）	
専門	行政	* 民法（債権総論）	
専門	行政	* 民法（債権各論）	
専門	行政	* 刑法Ⅰ	
専門	行政	* 刑法Ⅱ	
専門	行政	行政法Ⅰ（総論）	
専門	行政	* 行政法総論Ⅰ	
専門	行政	* 法社会学Ⅰ	
専門	行政	* 法社会学Ⅱ	
専門	行政	* 民事裁判法Ⅰ	
専門	行政	* 民事裁判法Ⅱ	
専門	行政	* 地方政治論Ⅱ	
専門	行政	* 公共政策論Ⅱ	
専門	行政	* 地方行政論	
専門	行政	* 社会計画論	
専門	行政	* 地域環境論	
専門	行政	* 情報社会論	
専門	行政	* 社会調査論	
専門	行政	* 地域史Ⅰ	
専門	行政	* 地域史Ⅱ	
専門	行政	* 国際文化交流論	
専門	行政	古文書学実習	
専門	行政	考古学実習	

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	経済	専門演習（吉田樹）	
専門	経済	* 開発経済学	
専門	経済	* 環境経済学	
専門	経済	* 経済政策	
専門	経済	* 交通政策論	
専門	経済	* 国際関係論	
専門	経済	* 国際公共政策論	
専門	経済	* 産業組織と規制の経済学	
専門	経済	* 社会政策	
専門	経済	* 地域企業経営論	
専門	経済	* 地域経済論	
専門	経済	* 地域政策論	
専門	経済	* 地域と経済	
専門	経済	* 調査法Ⅱ（フィールド）	
専門	経済	* 労働経済	
専門	経済	* 統計学概論	23入学生以降対象
専門	理工	* 経営工学	
専門	理工	* 流通管理概論	
専門	理工	* エコロジカル経済学	
専門	理工	循環型産業論	
専門	理工	社会計画概論	
専門	理工	社会計画演習Ⅰ	
専門	理工	社会計画演習Ⅱ	
専門	理工	* 環境計画論	
専門	理工	* 環境文化論	
専門	理工	再生可能エネルギーⅠ	
専門	理工	再生可能エネルギーⅡ	
専門	理工	放射線科学	
専門	理工	* 水循環システム学	
専門	理工	* 水循環システム学概論	
専門	理工	* 環境衛生科学	
専門	理工	* 環境保全論	
専門	理工	* 都市計画概論	
専門	理工	社会情報分析	
専門	食農	農場基礎実習Ⅰ	
専門	食農	食農実践演習Ⅰ	
専門	食農	食農実践演習Ⅱ	
専門	食農	（廃止）	（旧）食農実践演習Ⅲ
専門	食農	* 食品科学概論	
専門	食農	* 農業生産学概論	
専門	食農	* 生産環境学概論	（旧）生産環境科学概論
専門	食農	* 農業経営概論	
専門	食農	* 基礎微生物学	
専門	食農	* 栽培学汎論	
専門	食農	食農データサイエンス	（旧）食農情報処理演習
専門	食農	* 食品安全学	
専門	食農	* 農業工学	
専門	食農	* 畜産学概論	
専門	食農	* 農業経営学	

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	食農	* 食品機能学Ⅰ	
専門	食農	* 食品加工学Ⅰ	
専門	食農	* 発酵・醸造学Ⅰ	
専門	食農	* 食品素材科学	
専門	食農	* 有機化学概論	
専門	食農	* 分析化学概論	
専門	食農	* 食品機能学Ⅱ	
専門	食農	* 食品加工学Ⅱ	
専門	食農	* 発酵・醸造学Ⅱ	
専門	食農	* 食品衛生管理学	
専門	食農	* 食品保蔵学	
専門	食農	* 食品分析学	
専門	食農	食品科学実験Ⅰ	
専門	食農	食品科学実験Ⅱ	
専門	食農	* 作物育種学	
専門	食農	* 作物学概論	(旧) 稲作学
専門	食農	* 蔬菜・花き園芸学	
専門	食農	* 果樹園芸学	
専門	食農	* 植物病理学	
専門	食農	* 飼料資源学	
専門	食農	* 応用昆虫学	
専門	食農	* 植物栄養学	
専門	食農	* 環境保全型農業論	
専門	食農	* 農地再生論	
専門	食農	* 病害虫管理学	
専門	食農	農業生産学実験・実習Ⅰ	
専門	食農	農業生産学実験・実習Ⅱ	
専門	食農	* 環境水利学	(旧) 水資源利用学
専門	食農	* 里山管理論	
専門	食農	* 農業機械学(2単位)	
専門	食農	* 森林保全学	(旧) 森林保護学
専門	食農	* 農村計画学	
専門	食農	* スマート農業論	
専門	食農	生産環境学実験・実習Ⅰ	
専門	食農	* 農業リモートセンシング	
専門	食農	* 野生動物管理学	
専門	食農	生産環境学実験・実習Ⅱ	
専門	食農	* 農業経済学	
専門	食農	* フードシステム論	
専門	食農	* 農産物流通論	
専門	食農	* 食料、農業政策学	(旧) 農業政策学
専門	食農	* 協同組合学	
専門	食農	* 農林資源経済論	
専門	食農	* 食品マーケティング論	

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	食農	* アグリビジネス論	
専門	食農	農業経営学演習Ⅰ	
専門	食農	農業経営学演習Ⅱ	
専門	食農	森林生物機能生態学	

2 3 . グローバル特修プログラム の履修について

グローバル特修プログラムの履修について

皆さんは、自分の将来を考えて専門分野の知識や技能を深めることを目的に、入学されたと思います。しかし、大学で開講される多種多様な科目群から自分の興味・関心にあった科目を系統立てて履修することは、それほど簡単なことではありません。そこで、福島大学では、現代の多文化社会において必要とされる教養を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル化する社会を担っていく力を身につけたい学生のために「グローバル特修プログラム」を用意しました。以下の「グローバル教養プログラム」と「英語グレードアッププログラム」の二つを提供します。

①グローバル教養プログラム

「グローバル教養プログラム」は、グローバル化する社会を理解するために必要な知識や技能を身につけたい学生のために、基盤教育科目、学類専門教育科目、短期語学研修等から構成されるプログラムです。これまで出会ったことのない新しい問題に、グローバルな視点から対応する力を身につけてください。

以下に示す要認定単位数（30単位）を修得し、指定の外部試験のスコア取得を証明する書類を提出することでプログラム修了とみなします。要認定単位数を満たした後に、教務課にて申請手続きを行ってください。

領域区分	科 目 区 分		開設科目等	セメス ター	1 科目 単位数	要認定単位数	
						必修	選択
基盤教育	接続領域	外国語コミュニ ケーション科目	英語・英語以外 の外国語	1～	1	4	4
	教養領域	外国語科目	英語・英語以外 の外国語	1～	1	2	
		学術基礎科目	グローバル教養 プログラム科目	1～	2		
	問題探究 領域	問題探究科目	グローバル教養 プログラム科目	1～	2		
	基盤教育 小計						10
専門教育	学類専門科目		グローバル教養 プログラム科目	1～	2	4	14
その他	短期語学研修			2～	1又は2		
	交流協定校認定科目			2～	1又は2		
	外部資格試験認定			1～	2	2	
専門教育＋その他 小計						20	
基盤教育＋専門教育＋その他 計						30	

【グローバル教養プログラム科目】

※授業内容等はシラバスで確認をしてください。

区分	授業科目名	履修年次	学類等	備考
基盤	英語 A I	1	基盤	
基盤	英語 A II	1	基盤	
基盤	英語 B I	2	基盤	
基盤	英語 B II	2	基盤	
基盤	応用英語 X I ～ X X	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎 I	1	基盤	
基盤	フランス語基礎 I	1	基盤	
基盤	中国語基礎 I	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎 I	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎 I	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎 II	1	基盤	
基盤	フランス語基礎 II	1	基盤	
基盤	中国語基礎 II	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎 II	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎 II	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎（特設） I	1	基盤	
基盤	フランス語基礎（特設） I	1	基盤	
基盤	中国語基礎（特設） I	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎（特設） I	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎（特設） I	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎（特設） II	1	基盤	
基盤	フランス語基礎（特設） II	1	基盤	
基盤	中国語基礎（特設） II	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎（特設） II	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎（特設） II	1	基盤	
基盤	ドイツ語応用 I	2	基盤	
基盤	フランス語応用 I	2	基盤	
基盤	中国語応用 I	2	基盤	

基盤	ロシア語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	韓国朝鮮語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	ドイツ語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	フランス語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	中国語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	ロシア語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	韓国朝鮮語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	ことばの仕組み	1	学術	
基盤	グローバル災害論	1	問題	
基盤	アジア共同体構想	1	問題	
専門	教育の歴史	2	人間	
専門	西洋教育思想	2	人間	
専門	産業・組織心理学	2	人間	
専門	社会・集団・家族心理学	2	人間	履修にあたって 条件があるの で、履修希望者 はシラバス参照
専門	社会的養護	2	人間	
専門	知的障害者教育指導法	3	人間	
専門	知的障害者の行動分析	2	人間	
専門	調理実習	2	人間	
専門	人間と衣服	3	人間	
専門	芸術と環境	3	人間	隔年開講
専門	映像メディア論	2	人間	隔年開講
専門	現代アートマネジメント	1	人間	隔年開講
専門	絵画Ⅰ	1	人間	
専門	美術解剖学	2	人間	
専門	芸術学Ⅰ	3	人間	
専門	美術史Ⅱ	3	人間	
専門	アジア言語文化論Ⅰ	2	人間	
専門	アジア言語文化論Ⅱ	2	人間	

専門	伝統言語文化論	2	人間	
専門	ドイツ語圏の言語と文化	2	人間	
専門	異文化理解	2	人間	
専門	外国史概説	2	人間	
専門	世界地誌	2	人間	
専門	東洋近現代社会史	2	人間	
専門	東洋近世社会史	2	人間	
専門	東洋古代・中世社会史	2	人間	
専門	ヨーロッパ近世・近代史	2	人間	3年に2回開講
専門	ヨーロッパ古代・中世史	2	人間	3年に2回開講
専門	ヨーロッパ近・現代史	2	人間	3年に2回開講
専門	確率論・統計学	2	人間	
専門	スポーツ政策論	3	人間	
専門	スポーツ文化史	2	人間	
専門	異文化交流演習	2	人間	
専門	比較地域文化論	2	行政	
専門	言語文化論Ⅰ	3	行政	
専門	言語文化論Ⅱ	3	行政	
専門	国際文化交流論	3	行政	
専門	欧米文化論Ⅰ	3	行政	
専門	欧米文化論Ⅱ	3	行政	
専門	英語コミュニケーションA	3	行政	
専門	英語コミュニケーションB	3	行政	
専門	英語コミュニケーションC	3	行政	
専門	English PresentationsⅠ	3	行政	
専門	English PresentationsⅡ	3	行政	
専門	中国語コミュニケーションⅠ	3	行政	
専門	中国語コミュニケーションⅡ	3	行政	
専門	外書講読（英語）Ⅰ	3	行政	
専門	外書講読（英語）Ⅱ	3	行政	
専門	外書講読（非英）Ⅰ	3	行政	

専門	外書講読（非英）Ⅱ	3	行政	
専門	国際法Ⅰ	3	行政	
専門	国際法Ⅱ	3	行政	
専門	外国史概論	2	行政	
専門	国際政治論Ⅰ	3	行政	
専門	国際政治論Ⅱ	3	行政	
専門	言語文化論	2	行政（夜）	
専門	国際文化交流論	2	行政（夜）	
専門	欧米文化論	2	行政（夜）	
専門	外国語コミュニケーション文化	2	行政（夜）	
専門	現代文化論	1	行政（夜）	
専門	国際関係と法	2	行政（夜）	
専門	現代の国際政治	2	行政（夜）	
専門	多文化理解	1	経済	
専門	国際関係論	2	経済	
専門	国際公共政策論	3	経済	
専門	比較社会論	3	経済	
専門	言語コミュニケーション論	3	経済	
専門	日英比較言語論	3	経済	
専門	英語圏文化スタディーズ	3	経済	
専門	ヨーロッパ文化スタディーズ	3	経済	
専門	アジア文化スタディーズ	3	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅰ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅱ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅲ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅳ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅴ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅵ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅶ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅷ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅸ	1	経済	

専門	英語アドバンスト演習Ⅹ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅠ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅡ	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	

専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	ドイツ語実践演習Ⅰ	2	経済	
専門	ドイツ語実践演習Ⅱ	3	経済	
専門	ロシア語実践演習Ⅰ	2	経済	
専門	ロシア語実践演習Ⅱ	3	経済	
専門	中国語実践演習	2	経済	
専門	韓国朝鮮語実践演習	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅠ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅡ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅢ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅣ	2	経済	
専門	Work Experience AbroadⅠ	2	経済	
専門	Work Experience AbroadⅡ	2	経済	
専門	集合と位相Ⅰ（藤本）	2	理工	
専門	集合と位相Ⅱ（藤本）	2	理工	
自由	海外演習（随時開講）	2	理工	
専門	生物多様性概論（黒沢）	2	理工	
専門	保全遺伝学（兼子）	2	理工	
専門	地下水盆管理学（柴崎）	2	理工	
専門	気象学（吉田）	2	理工	
専門	環境文化論（後藤）	2	理工	
専門	問題探究セミナーⅡ（心理生理コース）	2	理工	
専門	流通管理概論（石川）	2	理工	
専門	サプライチェーンマネジメント（石川）	2	理工	
専門	食農実践英語演習	3	食農	
専門	森林科学	2	食農	
専門	世界の食料と農業	2	食農	
専門	土壌科学	2	食農	
専門	畜産学概論	2	食農	
専門	稲作学	2	食農	

専門	蔬菜・花き園芸学	2	食農	
専門	食品加工学 II	3	食農	
専門	植物病理学	3	食農	
専門	飼料資源学	3	食農	
専門	応用昆虫学	3	食農	
専門	農村計画学	3	食農	
専門	食品マーケティング論	3	食農	
専門	アグリビジネス論	3	食農	
専門	環境保全型農業論	3	食農	

各資格試験の認定要件（英語）

資格試験名	認定要件
実用英語技能検定 CSE スコア (日本英語検定協会)	2125 以上
T O E I C L & R + S & W (Educational Testing Service)	1355 以上
T O E F L (i B T) (Educational Testing Service)	57 以上
I E L T S (International English Language Testing System)	4.5 以上
ケンブリッジ英語検定試験 (Cambridge English Qualifications)	150 以上
GTEC (Global Test of English Communication)	1075 以上
TEAP (Test of English for Academic Purposes)	267 以上
TEAP (CBT) (Test of English for Academic Purposes)	510 以上

各資格試験の認定要件（英語以外の外国語）

資格試験名	認定要件
ドイツ語技能検定試験 (ドイツ語学文学振興会)	4 級
共通ヨーロッパ語学証明書－ドイツ語 (欧州理事会文化協調会議教育委員会)	A 1 ※
実用フランス語技能検定試験 (フランス語教育振興協会)	4 級
フランス文部省認定フランス語資格試験 DELF・DALF (DELF・DALF 委員会)	A 1
中国語検定試験 (日本中国語検定協会)	4 級
H S K 漢語水準考試 (孔子学院総部／国家漢弁)	2 級
ロシア語能力検定公開試験 (東京ロシア語学院)	4 級
韓国語能力試験 (韓国教育財団)	2 級

外部資格試験は、英語・英語以外の外国語からそれぞれ一つまで認定します。その場合、一方を必修 2 単位、他方を選択 2 単位に算入します。

②英語グレードアッププログラム

「英語グレードアッププログラム」は、基盤教育の必修科目を履修した後、さらに英語学習を継続し、学類専門教育科目、国際交流センターが開講する英語による講義科目などの履修を通して、海外留学・海外インターンシップなどに繋げるためのプログラムです。卒業時まで、英検の準 1 級程度、TOEIC L&R test の 700 点台に相当する英語運用能力の修得を目標としています。具体的には、「講義や研修での課題図書など、まとまった量の英文の要点を理解することができる」、「講演や講義など、興味・関心のある話題に関するまとまりのある話を理解することができる」、「自分の仕事や専門分野に関する講義や発表などを聞いて、それについて質問したり自分の考えを述べたりすることができる」、「講義の内容や新聞の記事など、興味・関心のある話題について、聞いたり読んだりした内容の要約を書くことができる」などです。

国際交流センターが開講する英語による講義科目を履修するためには、英検 CSE スコア 2200、TOEIC L&R test 600、IELTS 5.0、TOEFL iBT 60 程度の英語力が推奨されます。詳細は各科目のシラバスを参照してください。

以下に示す要認定単位数（30 単位）を修得し、指定の外部試験のスコア取得を証明する書類を提出することでプログラム修了とみなします。要認定単位数を満たした後に、教務課にて申請手続きを行ってください。

領域区分	科 目 区 分		開設科目等	セメス ター	1 科目 単位数	要認定単位数	
						必修	選択
基盤教育	接続領域	外国語コミュ ニケーション 科目	英語	1～	1	4	
	教養領域	外国語科目	英語	1～	1	4	2
	問題探究 領域	自主学修プロ グラム	留学準備等自主 学修プログラム	1～	1 又は 2		
	基盤教育 小計						10
専門教育	学類専門科目		英語グレードア ッププログラム 科目	1～	2	12	
	専門教育 小計						12
その他	国際交流センター開講科 目		英語による講義	1～	1 又は 2		6
	短期語学研修			2～	1 又は 2		
	交流協定校認定科目			2～	1 又は 2		
	外部資格試験認定			1～	2	2	
	その他 小計						8
基盤教育＋専門教育＋その他 計						30	

【英語グレードアッププログラム科目】

※授業内容等はシラバスで確認をしてください。

区分	授業科目名	履修年次	学類等	備考
基盤	英語 A I	1	基盤	
基盤	英語 A II	1	基盤	
基盤	英語 B I	2	基盤	
基盤	英語 B II	2	基盤	
基盤	応用英語 X I ～ X X	1	基盤	
基盤	自主学修プログラム（留学準備等）	1	問題	
専門	英語学概論	2	人間	
専門	英語意味論	2	人間	
専門	初期近代英米文学	2	人間	
専門	英米文学演習Ⅳ	2	人間	
専門	英米文学演習Ⅴ	3	人間	
専門	異文化理解	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅠ	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅡ	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅢ	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅣ	1	人間	
専門	英語コミュニケーションⅤ	3	人間	
専門	英語コミュニケーションⅥ	3	人間	
専門	英語音声学	1	人間	
専門	英語コミュニケーション A	3	行政	
専門	英語コミュニケーション B	3	行政	
専門	英語コミュニケーション C	3	行政	
専門	English PresentationsⅠ	3	行政	
専門	English PresentationsⅡ	3	行政	
専門	言語コミュニケーション論	3	経済	
専門	日英比較言語論	3	経済	
専門	英語圏文化スタディーズ	3	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅰ	1	経済	

専門	英語アドバンスト演習Ⅱ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅲ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅳ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅴ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅵ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅶ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅷ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅸ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅹ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅠ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅡ	1	経済	
専門	Japan Study ProgramⅠ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅡ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅢ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅣ	2	経済	※別名で同時開講
専門	Work Experience AbroadⅠ	2	経済	
専門	Work Experience AbroadⅡ	2	経済	
専門	集合と位相Ⅰ（藤本）	2	理工	
専門	集合と位相Ⅱ（藤本）	2	理工	
自由	海外演習（随時開講）	2	理工	
専門	問題探究セミナーⅡ（心理生理コース）	2	理工	
その他	Interpretation Exercises	2	国セ	
その他	Fukushima's History and CultureⅠ	2	国セ	
その他	Understanding Post-Disaster Fukushima	2	国セ	※別名で同時開講
その他	Popular Culture in JapanⅠ	2	国セ	

各資格試験の認定要件（英語）

資格試験名	スコア
実用英語技能検定 CSE スコア (日本英語検定協会)	2305 以上
T O E I C L & R + S & W (Educational Testing Service)	1560 以上
T O E F L (i B T) (Educational Testing Service)	72 以上
I E L T S (International English Language Testing System)	5.5 以上
ケンブリッジ英語検定試験 (Cambridge English Qualifications)	160 以上
GTEC (Global Test of English Communication)	1190 以上
TEAP (Test of English for Academic Purposes)	309 以上
TEAP (CBT) (Test of English for Academic Purposes)	600 以上

2 4 . 「正解のない問い」に挑む

データサイエンス教育プログラム の履修について

「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの履修について

英語が世界の共通言語になったように、数理・データサイエンス・AI は世界の共通知識になりつつあります。数理・データサイエンス・AI に関する知識やスキルは、様々な学問を学ぶ上でも、将来の職業生活においても非常に重要です。

学生のみなさんの中には「自分は文系だから」、「数学は苦手だ」といった理由で不安を覚える方もいるかもしれませんが、心配は要りません。

福島大学は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（以下、「認定制度」という）に認定され、全学として、基礎から実践へと積み上げ式に学んでいく「「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル）」を開講しています。

本プログラムは3つの科目で構成されています。

1) 「社会とデータ科学の基礎」（スタートアップ科目）

データを構築したり、データの特性に応じた適切な分析を行ったりするために必要なデータサイエンスの考え方やスキルを学びます。

2) 「データ分析入門」（問題探究科目）

科学的方法の基本原則を講義形式で学んだ上で、授業の後半では演習形式で調査やデータ分析について経験的に学びます。

3) 「データサイエンス実践演習」（ワーキングスキル科目）

ビジネスの現場におけるデータサイエンス・AI の活用事例を学んだ後、プロジェクト型学習を通じてデータ分析を活用した政策提言を行います。

「社会とデータ科学の基礎」の単位を修得することで、プログラムの修了が認定されます。

さらに、人文社会学群（人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類）、理工学群（共生システム理工学類）、農学群（食農学類）は、「認定制度」（応用基礎レベル）に認定されており、「「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）」を開講しています。

本プログラムでは、数理・データサイエンス・AI を活用するために必要な数学・情報科学の基礎知識、将来、多様な課題解決に数理・データサイエンス・AI を活用する姿勢、それぞれの専門分野における数理・データサイエンス・AI の活用・実践を考えることのできる視野について学びます。人文社会学群、農学群では「データサイエンスの基礎」の単位を修得することで、理工学群では「数学Ⅰ（解析学）」、「プログラミング基礎」、「情報科学概論」を含めて合計10単位以上を修得することで、プログラムの修了が認定されます。

「「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラム」を学んで、あなた自身の未来を切り拓いていきましょう！

*なお、プログラムへの参加・修了認定に際し、申請等の手続きは不要です。単位修得をもって修了認定し、卒業時に認定証を発行します。

2 5 . 他学類の専門教育科目等の 履修について

他学類の専門教育科目等の履修について

(1) 自由選択の科目になるもの

専門教育科目の中には、他学類生の受講が認められている科目があります。

これらの科目は、自由選択の単位として計上することができ、最大で、他大学で修得した単位等とあわせて60単位まで修得することができます。(ちなみに自由選択の単位は、専門教育科目だけでなく、基盤教育科目を含む必修、選択必修を超えて修得した単位が自由選択の単位として計上されます。)

他学類の科目を履修できるのは、人間発達文化学類、共生システム理工学類、食農学類では1年次生以上、行政政策学類、経済経営学類では2年次生以上で、かつ当該科目の履修セメスター以上になっていることが必要です。ただし、受講者数等の事情により、他学類生について、優先的に受講制限を行う場合があります。

また、他学類の科目であることから、履修開始後に「思っていた内容と違った」「授業の内容が難しすぎた」ということが、しばしば見受けられます。履修登録をする前に、シラバスで前提として求められる基礎知識、講義の水準等をよく確認して選ぶことをお勧めします。対象となる科目については、巻末の「開放科目一覧」を確認してください。

(2) 専門教育科目になるもの

他学類の教員が担当する専門教育科目の中には、各学類において自学類の専門教育科目として履修基準に位置づけている科目があります。これらの科目は、自学類の科目と同様に履修することができます。ただし、教室収容人数等の事情により、受講者数に制限を設ける場合があります。

対象となる科目については、各学類の専門教育科目の一覧を確認してください。

(3) 夜間主開講科目について

本学には、行政政策学類の「夜間主」に所属している学生のために、夜間(6～7時限目)や土曜日に開講される科目があります。

これらの科目は、昼間の学生は受講できません。行政政策学類の学生に限り、夜間主開講の問題探究科目を受講できる場合があります。

(4) 掲示等の確認について

当該科目に係る休講や教室変更、担当教員からの連絡等については、LC 授業連絡のほか、当該科目の開講学類掲示版で確認してください。

《人間発達文化学類 開放科目一覧》

*備考欄について

・「行」、「理」と記載のある科目は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

科目名称	履修セメスター		単位	備 考
	H31年度以降 入学者	H26年度以降 入学者		
生活の中の数と図形	3or4～	3or4～	2	
子どもを取り巻く社会	4～	4～	2	
子どもの生活と遊び	6～	6～	2	
子どもの造形活動	2～	2～	2	
生活の科学	3～	3～	2	
知覚・認知心理学Ⅱ	3～	3～	2	
産業・組織心理学	4～	4～	2	理※3
認知臨床心理学	5～	5～	2	
健康・医療心理学	5～	5～	2	理※3
感情・人格心理学	3～	3～	2	理※3
家族支援論	6～	6～	2	
司法・犯罪心理学	5～	5～	2	理※3
学校と教育の歴史	4～		2	
外国の教育	3～	3～	2	
子ども社会と学校	3～	3～	2	
学校の運営	4～	4～	2	
子どもと学習活動		4～	2	
カリキュラム・教育方法論	4～		2	
社会・集団・家族心理学※1	3～	3～	2	行・理
授業分析法	4～	4～	2	
学校の制度		3～	2	
児童期の発達心理学	3～	3～	2	
知的障害者の心理・生理・病理	1～	1～	2	
児童福祉概論	2～	6～	2	行
特別支援教育概論	1～	1～	2	
知的障害者教育課程論	3～	3～	2	
病弱者の生理・病理・心理	3～	3～	2	
病弱児・健康障害児の教育	3～	3～	2	
肢体不自由者教育概論	4～	4～	2	
重複障害・軽度発達障害教育総論	4～	4～	2	
知的障害者教育指導法	5～	5～	2	
幼児発達心理学	1～	1～	2	
幼児理解・教育相談の理論と方法	5～	5～	2	
言葉の発達と保育		4～	2	
保育内容（言葉）	2～		2	
保育カリキュラム論	6～	6～	2	
日本語学概論	3～	3～	2	
日本語の構造	4～	4～	2	
日本語の変異	4～	4～	2	
日本語の歴史	3～	3～	2	
日本語教育学概論	3～	3～	2	
日本文学概論	1～	1～	2	
伝統言語文化論	3～	5～	2	
近代文学史	2～	2～	2	
古代・中世文学史	3～	3～	2	
中国古典学概論	1～	1～	2	
中国文化論	5～	5～	2	
アジア言語文化論Ⅰ	3～	3～	2	
アジア言語文化論Ⅱ	3～	3～	2	
異文化理解	3～	3～	2	
日本文学特講Ⅰ	3～	5～	2	
日本文学特講Ⅱ	3～	5～	2	
日本文学特講Ⅲ	3～	5～	2	
中国文化特講	4～	6～	2	
書道	6～	6～	2	
英語語彙論	4～	4～	2	
住環境学	5～	5～	2	

科目名称	履修セメスター		単位	備 考
	H31年度以降 入学者	H26年度以降 入学者		
英文法	1～	1～	2	
英語史		3～	2	
英語音声学	1～	1～	2	
英語学概論	3～	3～	2	
英詩の韻律	1～	1～	2	
英文学史	1～	1～	2	
米文学史	1～	1～	2	
初期近代英米文学	4～	4～	2	
ヨーロッパ言語文化論	2～	2～	2	
英語意味論	4～	4～	2	
英語構造論	4～	4～	2	
近代英米文学	2～	2～	2	
現代英米文学	2～	2～	2	
ドイツ語圏の言語と文化	3～	3～	2	
地域文化の総合研究	4～	4～	2	
産業社会文化論	3～	3～	2	行
日本古代中世社会史	3or4～	3or4～	2	
日本近世社会史	3or4～	3or4～	2	
日本近代社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋古代・中世社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋近世社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋近現代社会史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ古代・中世史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ近世・近代史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ近・現代史	3or4～	3or4～	2	
地理学概説	3～	3～	2	
産業と経済、地域振興の地理学	4～	4～	2	行
都市とまちづくりの地理学	3～	3～	2	行
自然災害と人間	3～	3～	2	
気候環境と人間	3～	3～	2	
現代アートマネジメント	1～	3～	2	
未来創造教育論	1～	1～	2	
政治学概説	3～	3～	2	
社会学概説	1～	1～	2	
現代日本の政治	3～	3～	2	行
現代社会と文化	1～	1～	2	
現代日本経済論Ⅰ	3～	3～	2	
現代日本経済論Ⅱ	3～	3～	2	
政治思想史	4～	4～	2	
経済学概説	2～	2～	2	
現代社会と地域計画	2～	2～	2	行
現代社会とコミュニティ	2～	2～	2	
現代の地域経済	1～	1～	2	
社会思想史	5～	5～	2	
自然と人間の哲学	3～	3～	2	
知識の哲学	3～	3～	2	
戦争と平和の倫理学	2～	2～	2	
科学技術と環境の倫理学	2～	2～	2	行
保育学	3～	3～	2	
住生活学	3～	3～	2	
生活経営学	4～	4～	2	
代数学統論Ⅱ（数学概論）	5～	1～	2	
基礎解析学Ⅰ（解析学Ⅰ）	1～	1～	2	理
基礎解析学Ⅱ（解析学Ⅱ）	2～	2～	2	理
基礎解析学Ⅲ（解析学Ⅲ）	3～	3～	2	
解析学統論（解析学Ⅳ）	3～	3～	2	
美術史Ⅰ	4～	4～	2	

《人間発達文化学類 開放科目一覧》

*備考欄について

・「行」、「理」と記載のある科目は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

科目名称	履修セメスター		単位	備 考
	H31年度以降 入学者	H26年度以降 入学者		
代数学Ⅱ	3～	3～	2	
代数学Ⅲ	4～	4～	2	
行列とベクトルⅠ（代数学Ⅰ）	1～	1～	2	
行列とベクトルⅡ	2～		2	
線形写像と幾何Ⅱ（幾何学Ⅱ）	4～	4～	2	
幾何学Ⅰ（幾何学Ⅲ）	4～	4～	2	
幾何学Ⅲ（曲線と曲面）	3～	3～	2	
幾何学Ⅱ（グラフ理論）	3～	3～	2	
代数学Ⅰ（整数論）	2～	4～	2	
微分方程式		5～	2	
確率論・統計学	4～	4～	2	
複素関数論		4～	2	
コンピュータ	3～	3～	2	
物理学Ⅰ	3～	3～	2	
物理学Ⅱ	3～	3～	2	
物質化学Ⅰ	4～	4～	2	
物質化学Ⅱ	4～	4～	2	
生命環境の科学Ⅰ	3～	3～	2	理
生命環境の科学Ⅱ	3～	3～	2	
地球惑星の科学Ⅰ	4～	4～	2	
地球惑星の科学Ⅱ	4～	4～	2	
幾何学統論Ⅱ（多様体の幾何学）	4～	4～	2	
幾何学統論Ⅰ（トポロジー）	4～	4～	2	
代数学統論Ⅰ（体とガロア理論）	5～	5～	2	
関数解析		6～	2	
合奏	4～	4～	1	
作曲基礎Ⅰ	1～	1～	1	
作曲基礎Ⅱ	2～	2～	1	
指揮法基礎	5～	5～	1	
指揮法研究	6～	6～	1	
形式学基礎	3～	3～	2	
音楽学概論	3～	3～	2	
音楽史Ⅰ	3～	3～	2	
音楽史Ⅱ	4～	4～	2	
対位法研究	3～	3～	2	
合唱Ⅰ	3～	3～	1	
合唱Ⅱ	4～	4～	1	
映像メディア論	3～	3～	2	
彫刻理論	3～	3～	2	
鑑賞教育	5～	5～	2	
美術教育特講	7～	7～	2	
造形表現基礎	2～		2	
美術解剖学	4～	4～	2	

科目名称	履修セメスター		単位	備 考
	H31年度以降 入学者	H26年度以降 入学者		
美術史Ⅱ	5～	5～	2	
芸術学Ⅰ	5～	5～	2	
芸術学Ⅱ	6～	6～	2	
現代の美術	6～	6～	2	
芸術と環境	5～	5～	2	
解剖学	1～	1～	2	
学校保健（健康論）	3～	3～	2	
衛生学及び公衆衛生学	3～	3～	2	
救急処置及び看護法	3～	3～	2	
スポーツ栄養学	5～	5～	2	
スポーツ医学	3～	3～	2	
運動の学習と発達	4～	4～	2	
スポーツと文化（体育原理）	3～	3～	2	
生涯スポーツ論	1～	1～	2	
スポーツ運動学（運動方法学を含む）	3～	3～	2	
スポーツ指導論	5～	5～	2	
スポーツ文化史	4～	4～	2	
スポーツ政策論	4～	6～	2	行
トレーニングマネジメント	4～	6～	2	
コーチング論	5～	5～	2	
運動処方	5～	5～	2	
運動学習の心理	6～	6～	2	
日本の地域文化	2～	2～	2	
地域理科実践演習Ⅰ※2	1～		2	
地域理科実践演習Ⅱ※2	1～		2	
地域理科基礎実習※2	3～		2	

※1の科目は、行政政策学類生および共生システム理工学類心理・生理コース生のみ

※2の科目は、「地域と学ぶ未来の理科先生」特修プログラム受講者のみ履修可

※3の科目は、共生システム理工学類心理・生理コース生のみ専門教育科目の単位として計上することができる。心理・生理コース以外の理工学類生が履修した場合は、自由選択科目の単位となる。

《行政政策学類 開放科目一覧》

※備考欄について

・「人」、「行」、「経」、「理」、「食」は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

※入学年度による違いについて

入学年度によって履修セメスターや科目名などが異なる場合があります。よく確認してください。

[15カリ]:平成27年度～平成30年度入学生対象 [19カリ]:平成31年度～入学生対象

科目名称	履修セメスター	単位	備 考
社会と文化の理論	1or2～	2	
法社会学Ⅰ	3or4～	2	
法社会学Ⅱ	3or4～	2	
労働法Ⅰ	5or6～	2	[19カリ]経
労働法Ⅱ	5or6～	2	[19カリ]経
社会保障法	5or6～	2	[19カリ]経
経済法	5or6～	2	経
商法Ⅰ	5or6～	2	経
商法Ⅱ	5or6～	2	経・理
民法(家族)	3or4～	2	
民法(相続)	3or4～	2	
憲法(人権)Ⅰ	3or4～	2	
憲法(人権)Ⅱ	3or4～	2	
憲法(統治)Ⅰ	3or4～	2	
憲法(統治)Ⅱ	3or4～	2	
行政法総論Ⅰ	3or4～	2	
行政法総論Ⅱ	5or6～	2	
行政救済法Ⅰ	5or6～	2	
行政救済法Ⅱ	5or6～	2	
刑法Ⅰ	3or4～	2	
刑法Ⅱ	[15カリ]5or6～	2	
	[19カリ]3or4～		
民事裁判法Ⅰ	5or6～	2	
民事裁判法Ⅱ	5or6～	2	
民法総則	1or2～	2	経
民法(不法行為)	[15カリ]1or2～	2	経
	[19カリ]3or4～		
民法(債権総論)	3or4～	2	経
民法(債権各論)	3or4～	2	経
民法(物権)	5or6～	2	
民法(担保物権)	5or6～	2	
国際法Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人・経
国際法Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人・経
刑事裁判法Ⅰ	5or6～	2	
刑事裁判法Ⅱ	5or6～	2	
地方自治法Ⅰ	5or6～	2	
地方自治法Ⅱ	5or6～	2	
地方行政論	3or4～	2	[15カリ]人
地方政治論Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人
地方政治論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人
情報社会論	5or6～	2	理
政治思想史Ⅰ	5or6～	2	
政治思想史Ⅱ	5or6～	2	
行政学Ⅰ	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
行政学Ⅱ	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
政治過程論Ⅰ	3or4～	2	
政治過程論Ⅱ	3or4～	2	
国際政治論Ⅰ	5or6～	2	
国際政治論Ⅱ	5or6～	2	
公共政策論Ⅰ	3or4～	2	経
公共政策論Ⅱ	3or4～	2	[15カリ]経
社会計画論	3or4～	2	食
地域環境論	3or4～	2	[19カリ]理
社会調査論	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
社会福祉論	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
地域福祉論	5or6～	2	[15カリ]人・理
生活構造論Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人
生活構造論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人

《行政政策学類 開放科目一覧》

※備考欄について

・「人」、「行」、「経」、「理」、「食」は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

※入学年度による違いについて

入学年度によって履修セメスターや科目名などが異なる場合があります。よく確認してください。

[15カリ]:平成27年度～平成30年度入学生対象 [19カリ]:平成31年度～入学生対象

科目名称	履修セメスター	単位	備 考
地域史Ⅰ	5or6～	2	
地域史Ⅱ	5or6～	2	
文化史	3or4～	2	
考古学Ⅰ	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
考古学Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
社会教育論(生涯学習論を含む)Ⅰ	3or4～	2	
社会教育論(生涯学習論を含む)Ⅱ	3or4～	2	
地域社会教育計画論	5or6～	2	R2年度以降入学者 は履修不可
スポーツ文化論Ⅰ	5or6～	2	
スポーツ文化論Ⅱ	5or6～	2	
ジェンダー論Ⅰ	3or4～	2	
ジェンダー論Ⅱ	5or6～	2	
博物館経営論	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
博物館資料論	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
博物館資料保存論	3or4～	2	[19カリ]理
博物館展示論	3or4～	2	[19カリ]理
博物館教育論	3or4～	2	[19カリ]理
博物館情報・メディア論	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
博物館学概論	3or4～	2	[15カリ]人・[19カリ]理
比較地域文化論Ⅰ[15カリ]	3or4～	2	
比較地域文化論Ⅱ[15カリ]	3or4～	2	
比較地域文化論[19カリ]	3or4～	2	
言語文化論Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人
言語文化論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人
国際文化交流論	5or6～	2	[15カリ]人
欧米文化論Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人
欧米文化論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人
欧米文化論Ⅲ[15カリ]	5or6～	2	人
英語コミュニケーションAⅠ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションAⅡ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションBⅠ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションBⅡ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションCⅠ	5or6～	2	定員5名
English PresentationsⅠ	5or6～	2	定員5名
English PresentationsⅡ	5or6～	2	定員5名
社会学原論Ⅰ	1or2～	2	
社会学原論Ⅱ	3or4～	2	
社会構造論Ⅰ	3or4～	2	[15カリ]人・経
社会構造論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人・[15カリ]経
メディア論	5or6～	2	
地域社会学	3or4～	2	[15カリ]人・経・[19カリ]理
コア・アクティブ科目*	(3or4～)or(5or6～)	2	
特殊講義	(3or4～)or(5or6～)	2or4	
*コア・アクティブ科目については、行政政策学類夜間主に所属する学生に対してのみ開放する。			

《経済経営学類 開放科目一覧》

※備考欄について

- ・「行」「理」「農」と記載されている科目は、当該学類において専門教育科目になることを示します。
- ・他学類生は、2年次生以上で、かつ、当該科目の履修セメスター以上の学生に限り履修することが出来ます。
- ・他学類生は、収容人数等の事情からやむを得ず履修制限の対象になることがあります。

科目名称	履修開始 セメスター	単位	備 考
基礎経営学Ⅰ	2～	2	理
歴史と経済	2～	2	
多文化理解	2～	2	
ミクロ経済学Ⅰ	3～	2	行
マクロ経済学Ⅰ	3～	2	行
入門統計学	3～	2	理
世界経済論Ⅰ	3～	2	
入門会計学	3～	2	理
基礎経営学Ⅱ	3～	2	理
地域と経済	3～	2	行・理
経済政策	3～	2	行
ミクロ経済学Ⅱ	4～	2	行
マクロ経済学Ⅱ	4～	2	行
統計学概論	4～	2	理
経済数学	4～	2	
入門金融論	4～	2	
経済学史	4～	2	
地域経済論	4～	2	行
社会開発論	4～	2	
国際関係論	4～	2	行
財務諸表論Ⅰ	4～	2	
原価計算Ⅰ	4～	2	理
経営戦略論	4～	2	理
組織行動論	4～	2	
経営組織論	4～	2	
マーケティング論	4～	2	
調査法Ⅰ（質問紙）	4～	2	
中級簿記	4～	2	
租税法概論(東北税理士会福島支部連携講義)	4～	2	
公共経済学	4～	2	
比較経済史	4～	2	
計量経済学	5～	2	理
地域企業経営論	5～	2	理
管理会計	5～	2	理
調査法Ⅱ（フィールド）	5～	2	
財務管理論	5～	2	
応用経済分析	5～	2	
産業組織と規制の経済学	5～	2	
国際金融論	5～	2	
国際経済学	5～	2	行
国際公共政策論	5～	2	行
環境経済学	5～	2	理・農
国際政治経済学(世界経済論Ⅱ)	5～	2	
日本経済論	5～	2	
日本経済史	5～	2	
労働経済	5～	2	
政治経済学	5～	2	
社会政策	5～	2	行・理
地域政策論	5～	2	行・理
社会思想史	5～	2	行

科目名称	履修開始セ メスター	単位	備 考
地方財政論	5～	2	行
財政学	5～	2	行
交通政策論	5～	2	
開発経済学	5～	2	
アメリカ経済論	5～	2	
アジア経済論	5～	2	
経営情報分析	5～	2	理
国際経営論	5～	2	理
ヨーロッパ文化スタディーズ	5～	2	
比較社会論	5～	2	
言語コミュニケーション論	5～	2	
アジア文化スタディーズ	5～	2	
欧州経済論	5～	2	
英語圏文化スタディーズ	5～	2	
人的資源管理論	5～	2	
現代ファイナンス論	5～	2	
消費者行動論	5～	2	
原価計算Ⅱ	5～	2	理
コスト・マネジメント	5～	2	理
租税法Ⅰ	5～	2	行
租税法Ⅱ	5～	2	行
財務諸表論Ⅱ	5～	2	
上級簿記	5～	2	
地域金融論(東邦銀行提供講義)	5～	2	
証券市場論(野村證券提供講義)	5～	2	
財務諸表監査(日本公認会計士協会東北会福島県会寄附講義)	5～	2	
国際情勢を知るための現代史	1～	2	
コーオプ演習：アクセンチュア	5～	2	
ドイツ語実践演習Ⅰ	3～	2	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ 2単位の修得が条件
ロシア語実践演習Ⅰ	4～	2	
ドイツ語実践演習Ⅱ	4～	2	当該外国語「実践演習Ⅰ」の修得が条件
ロシア語実践演習Ⅱ	5～	2	
Japan Study ProgramⅠ～Ⅲ	3～	2	
Work Experience AbroadⅠ・Ⅱ	2～	2	
英語アドバンスト演習Ⅺ	1～	1	
英語アドバンスト演習Ⅻ	2～	1	
Academic English LiteracyⅠ・Ⅱ	2～	2	
Basic Chinese CourseⅡ	2～	2	
Path to CEFR C1Ⅰ～Ⅵ	3～	2	
Fukushima's History and CultureⅠ・Ⅱ	3～	2	
国際協働プロジェクト学習Ⅰ・Ⅱ	2～	2	
Japan and Asia from Historical Perspective	3～	2	
Analyzing Japanese : From a Comparative Perspective	3～	2	

《共生システム理工学類 開放科目一覧》

※備考欄について

- ・「理科」「情報」は備考欄に記載の教科の教員免許取得希望者のみ履修可能。
- ・備考欄の「人」「行」「経」「農」の記載は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

科 目 名 称	履修 セメスター	単位	備考
環境放射能学概論	3～	2	
最適化と数理	6～	2	経
環境衛生科学	3～	2	
エコロジカル経済学	5～	2	行・経
基礎物性物理	3～	2	
化学工学	4～	2	
物理化学	3～	2	
化学Ⅰ	1～	2	人
化学Ⅱ	2～	2	人
数学Ⅲ（統計学）	2～	2	
環境計画論	3～	2	行
環境文化論	4～	2	
環境保全論	4～	2	
気象学	3～	2	人
機器分析	4～	2	
機構学	3～	2	
経営工学	3～	2	経
材料力学	3～	2	
材料工学	3～	2	
サウンドスケープ	5～	2	行
サプライチェーンマネジメント	4～	2	経
資源・エネルギー工学	4～	2	
分析化学	3～	2	人
水循環システム学	5～	2	
水循環システム学概論	3～	2	人
基礎無機化学	3～	2	人
基礎有機化学	3～	2	人
離散数学	3～	2	
流域水文学	4～	2	
流体力学	5～	2	人
量子力学	4～	2	人
森林生態学	5～	2	人・農
保全遺伝学	4～	2	
計画と数理	5～	2	経
生態学基礎	4～	2	人
生化学	4～	2	
生物学	1～	2	人
高分子化学	5～	2	
生物多様性概論	3～	2	人
都市計画概論	4～	2	行
都市計画論	5～	2	
地下水盆管理学	4～	2	
地球科学	2～	2	人
生産管理概論	3～	2	経：経済経営学類生のみ履修可
流通管理概論	3～	2	経：経済経営学類生のみ履修可
知的財産権論	7～	2	
デジタル信号処理	5～	2	

《共生システム理工学類 開放科目一覧》

※備考欄について

- ・「理科」「情報」は備考欄に記載の教科の教員免許取得希望者のみ履修可能。
- ・備考欄の「人」「行」「経」「農」の記載は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

科 目 名 称	履修 セメスター	単位	備考
電子回路	4～	2	
環境微生物学	4～	2	
統計力学	5～	2	人
人間工学	4～	2	
品質管理	4～	2	
無機化学	4～	2	
物理学Ⅰ（力学）	1～	2	人
物理学Ⅱ（電磁気学）	2～	2	人
熱力学	3～	2	人
地質学概論	3～	2	人・行
集合と位相Ⅰ	3～	2	人
集合と位相Ⅱ	4～	2	人
線形写像と幾何Ⅰ	3～	2	人
線形写像と幾何Ⅱ	4～	2	人
解析学Ⅰ	4～	2	人
解析学Ⅱ	5～	2	人
化学実験Ⅰ	3～	2	理科
自然環境調査法	3～	1	理科
森林調査法	3～	1	理科
物理学実験	3～	2	理科
理科教育法Ⅰ	4～	2	理科
理科教育法Ⅳ	4～	2	理科
地球環境科学実験	4～	2	理科
保全生物学実験	5～	2	理科
理科教育法Ⅱ	5～	2	理科
生物多様性保全実習	5～	1	理科
地球環境調査法	5～	1	理科
理科教育法Ⅲ	6～	2	理科
情報社会と情報倫理	3～	2	情報
プログラミングⅠ	3～	2	情報
プログラミングⅡ	4～	2	情報
形式言語とコンパイラ	5～	2	情報
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	4～	2	情報
情報科学概論	3～	2	情報
人工知能と知識処理	6～	2	情報
プログラミング基礎	2～	2	情報
プログラミング言語論	4～	2	情報
マルチメディアシステム論	5～	2	情報
ソフトウェア設計開発論	4～	2	情報
データベースシステム	4～	2	情報
ネットワークシステム	5～	2	情報
情報と職業	5～	2	情報
情報理論	6～	2	情報
情報科教育法Ⅰ	5～	2	情報
情報科教育法Ⅱ	5～	2	情報
行動神経科学	5	2	
神経・生理心理学	4	2	

《食農学類 開放科目一覧》

※備考欄について

・「人」、「行」、「経」、「理」は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

科目名称(新カリ)	科目名称(旧カリ)	履修セメスター	単位	備考
基礎数学	基礎数学	1～	2	受入定員若干名
化学	化学	1～	2	受入定員若干名
統計学	統計学	2～	2	受入しない
物理学	物理学	2～	2	受入しない
生物学	生物学	2～	2	受入定員若干名
食品科学概論	食品科学概論	1～	2	教室の受入最大数まで受入
農業生産学概論	農業生産学概論	1～	2	教室の受入最大数まで受入
生産環境学概論	生産環境科学概論	2～	2	受入定員若干名
農業経営概論	農業経営概論	2～	2	教室の受入最大数まで受入
基礎微生物学	基礎微生物学	2～	2	受入定員若干名
栽培学汎論	栽培学汎論	2～	2	受入定員若干名
世界の食料と農業	世界の食料と農業	3～	2	受入定員若干名
食品安全学	食品安全学	3～	2	受入定員若干名
森林科学	森林科学	3～	2	受入定員若干名
土壌科学	土壌科学	3～	2	受入定員若干名
農業工学	農業工学	3～	2	受入定員若干名
畜産学概論	畜産学概論	3～	2	教室の受入最大数まで受入
農業経営学	農業経営学	3～	2	受入定員若干名
食品機能学Ⅰ	食品機能学Ⅰ	4～	2	受入定員若干名
発酵・醸造学Ⅰ	発酵・醸造学Ⅰ	4～	2	受入定員若干名
食品素材科学	食品素材科学	4～	2	受入定員若干名
生物化学	生物化学	4～	2	受入定員若干名
有機化学概論	有機化学概論	4～	2	受入定員若干名（3名程度）
分析化学概論	分析化学概論	4～	2	教室の受入最大数まで受入
食品機能学Ⅱ	食品機能学Ⅱ	5～	2	受入定員若干名
食品加工学Ⅱ	食品加工学Ⅱ	5～	2	受入定員若干名
発酵・醸造学Ⅱ	発酵・醸造学Ⅱ	5～	2	受入定員若干名
食品衛生管理学	食品衛生管理学	5～	2	受入定員若干名
食品保蔵学	食品保蔵学	5～	2	受入定員若干名
食品分析学	食品分析学	5～	2	受入定員若干名
食品加工学Ⅰ	食品加工学Ⅰ	6～	2	受入定員若干名
作物育種学	作物育種学	4～	2	受入定員若干名
蔬菜・花き園芸学	蔬菜・花き園芸学	4～	2	受入定員若干名
果樹園芸学	果樹園芸学	4～	2	受入定員若干名
植物病理学	植物病理学	5～	2	受入定員若干名
飼料資源学	飼料資源学	5～	2	受入定員若干名
応用昆虫学	応用昆虫学	5～	2	受入定員若干名
植物栄養学	植物栄養学	5～	2	受入定員若干名
環境保全型農業論	環境保全型農業論	5～	2	受入定員若干名
作物学概論	稲作学	6～	2	受入定員若干名
農地再生論	農地再生論	6～	2	受入定員若干名
病害虫管理学	病害虫管理学	6～	2	受入定員若干名
里山管理論	里山管理論	4～	2	受入定員若干名 「行」
森林植物学	樹木学	4～	2	受入定員若干名
	農業情報論	4～	1	受入しない
	農業機械学（旧カリ用）	4～	1	受入しない
農業機械学（新カリ用）		4～	2	受入定員若干名（2023年度以降入学生対象）
力の科学		4～	2	受入定員若干名（2023年度以降入学生対象）
森林生物機能生態学		4～	2	受入定員若干名（2023年度以降入学生対象）
環境水利学	水資源利用学	5～	2	受入定員若干名
森林保全学	森林保護学	5～	2	受入定員若干名
農村計画学	農村計画学	5～	2	受入定員若干名 「行」

スマート農業論	スマート農業論	5～	2	受入定員若干名
森林生態系管理学	森林育成学	5～	2	受入定員若干名
森林利用学	森林利用学	5～	2	受入定員若干名
土壌物理学	土壌物理学	5～	2	受入定員若干名
農業リモートセンシング	農業リモートセンシング	5～	2	受入定員若干名
環境モデル学	土壌生態学	6～	2	受入定員若干名
	土質力学	6～	2	受入しない
	野生動物管理学（旧カリ用）	6～	1	受入しない
野生動物管理学（新カリ用）		6～	2	受入定員若干名（2023年度以降入学生対象）
農業経済学	農業経済学	4～	2	受入定員若干名
フードシステム論	フードシステム論	4～※	2	受入定員若干名 「経」「行」 ※人間発達文化学類と共生システム理工学類所属 の学生は6セメスターから履修可能
農産物流通論	農産物流通論	4～	2	受入定員若干名
食料・農業政策学	農業政策学	4～	2	受入定員若干名 「行」
協同組合学	協同組合学	4～	2	受入定員若干名 「経」「行」
農林資源経済論	農林資源経済論	4～※	2	受入定員若干名 「経」「行」 ※人間発達文化学類と共生システム理工学類所属 の学生は6セメスターから履修可能
農業簿記論	農業簿記論	5～	2	受入定員若干名
アグリビジネス論	アグリビジネス論	6～	2	受入定員若干名
食品マーケティング論	食品マーケティング論	7～	2	受入定員若干名

2 6 . 転学類について

転学類について

入学後に学習を進めるなかで、興味や関心が変わることも十分に考えられます。そのような場合のために、転学類制度があります。ただし自分の選んだ進路を大きく変更することになりますので、新たに授業科目を取り直すことも必要になり「4年間で卒業できない」、「教員免許など希望していた資格が取得できない」といった事態が生じる可能性がありますので、安易な気持ちでこの制度を利用することのないように留意してください。

【参考】福島大学学則より

(転学類)

第24条 本学の学生で、他の学類に転学類を希望する者に対しては、当該他学類で選考の上、転学類を許可することがある。

なお、本制度は受け入れる学類において選考時期や要件などが異なりますので、詳細は掲示板等でご案内します。(3セメスター時)

27. 他大学等及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について

他大学等及び大学以外の教育施設における学修の単位認定について

本学で修得した授業科目の外に、他の大学（短大含む）等で修得した単位や検定試験等学外における学修の成果を、本学類で修得の求められている授業科目の単位とみなし、一定の範囲で卒業要件単位や本学独自に定めている各種特修プログラムや履修コースの単位として認定する場合があります。これらの単位は合わせて 60 単位を上限としています。

1. 他大学等との単位互換科目の認定

本学では、以下の大学等との間で大学間単位互換協定を締結しています。

茨城大学、宇都宮大学、会津大学、医療創生大学、郡山女子大学、日本大学工学部、東日本国際大学、福島学院大学、福島県立医科大学、放送大学、会津大学短期大学部、いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部、桜の聖母短期大学、福島学院大学短期大学部、福島工業高等専門学校

これは、本学に在学したまま他大学の特別聴講学生（協定により相手大学が受入れる学生）としての受入れ申請を行い、認められた場合、当該大学において開講される授業科目を履修できるものです。この場合、修得した授業科目の単位を本学で修得したものとみなします。

なお、詳細については毎年 3 月中旬にライブキャンパス及び掲示等でお知らせしますので、履修希望者は留意してください。

2. 能力検定試験等の学修成果の認定

英語や英語以外の外国語に関して、能力判定のための各種検定試験や語学研修の結果等をもって、本学で修得した単位として認める場合があります。詳細は「グローバル特修プログラム」の説明や関係規程等を参照してください。

3. 入学前在籍大学等での既修得単位

本学に入学する前に在籍していた大学や短期大学等で修得した単位は、本学で修得すべき授業科目の単位に充当できる場合があります。入学手続きの案内に記載のあるように、該当者は定められた期日までに申し出てください。なお、当該授業科目の単位・成績証明書や授業内容のわかるシラバス等の提出が必要となります。

28. 大学間交流協定に基づく派遣 交換留学について

大学間交流協定に基づく派遣交換留学について

本学では大学間交流協定に基づき、海外の大学と学術交流協定及び学生交流協定を締結しており、交換留学をはじめとした様々な交流を行っています。学生交流協定を締結している大学へ交換留学する場合には、留学先大学への入学料、検定料、授業料は免除されます。ただし、留学期間中、福島大学に授業料を納入する必要があります。また、その他の渡航費や生活費など、留学に関わる費用は自己負担となります。交換留学を希望する学生は、国際交流センターへお問い合わせください。

1. 協定締結校

国際交流センターのHPをご覧ください。

<https://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp/statistics/agreement.html>

2. 応募資格等

- (1) 派遣留学応募時および留学終了時に、本学に正規生として在籍する者。
- (2) 派遣先大学での単位取得または専門の研究をする目的が明確である者。
- (3) 語学条件が設定されている協定校については、国際交流センターが定める語学要件を満たしている者。
- (4) 留学期間終了後に各種語学検定試験を受けることが可能な者。
- (5) 留学期間終了後、本学を卒業・修了できる者。

※成績不良により最低修業年限を経過している者は対象外です。

※応募資格等については、変更になる場合もありますので、必ず募集要項を確認してください。

3. 留学期間

留学期間は1年間または半年間です。渡航開始月は協定校により異なりますが、8～10月頃です。

4. 派遣までの日程

募集は、国際交流センターの掲示板やホームページにて周知します。

1 1月～1月末	募集
2月上旬～中旬	面接選考
2月下旬～3月中旬	派遣内定
4月～8月頃	交換留学に向けての準備期間 (ビザの取得、航空券の手配等)
6月下旬	派遣者説明会の開催
8月～10月頃	派遣先大学へ出発

※正式な派遣決定は、派遣先大学からの受入許可があつてからとなります。学内選考により派遣内定を得た場合であっても、派遣先大学の受入許可がない場合は派遣できません。

※日程については、変更になる場合もありますので、必ず募集要項を確認してください。

5. 問合せ先

国際交流センター

S棟 1階 (平日：9：00-12：30 / 13：30-17：00)

TEL：024-503-3066

H P：https://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp/center.html

E-mail：ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

2 9 . 履修上の諸手続きについて

履修上の諸手続きについて

1. 学生への連絡方法等

学生に対する全ての諸連絡は、「LC」連絡もしくは共通講義棟（S 棟）2 階（基盤教育、人間発達文化学類、行政政策学類(夜間主含む)、経済経営学類、共生システム理工学類、食農学類、掲示板に掲示します。休講や授業に関する連絡事項など教務上の全ての諸案内は、「学修案内」に記載する他、掲示により周知することになるので、毎日掲示板を見る習慣を身に付け、見落としによる過誤が生じないようにしてください。

なお、休講・補講等の情報は「LC」により閲覧できます。

また、基盤教育科目及び他学類の授業科目に関しての連絡等は、当該学類等の掲示板に掲示されますので見落とさないよう留意してください。

掲示物には履修や成績に関わる重要な内容が記載されていますので、絶対にはがしたり、汚損したりしないようにしてください。

2. 証明書の発行手続き

(1) 証明書自動発行機で発行するもの

在学証明書、成績証明書、卒業見込み証明書、JR の学割証及び通学定期券購入証明書は、共通講義棟（S 棟）2 階（教務課前）に設置の自動発行機により、交付を受けることができます。利用できる時間は 8：30～20：30 ですが、土日・祝日、夏期・年末年始の休業日及び入試など大学行事により講義棟への出入りの出来ない日は利用できないので、必要日から余裕を持って手続きをしてください。

請求には情報基盤センターから発行される、ID とパスワードが必要です。発行機にトラブルが生じた時は、至急対応しますので教務課職員にお知らせください。

卒業後の証明書申請手続きは、本学のHPに掲載されています。発行まで時間のかかる場合もありますので、余裕を持って申請してください。

なお、成績証明書等の厳封を必要とする場合は、証明書自動発行機で交付された証明書を窓口を持参のうえ申し込んでください。

自動発行機で取得できる証明書

学割証	最大、1 日 3 枚まで発行できます。
在学証明書	－
J R 通学定期券 購入証明書	「LC」に学籍情報を登録していて、定期券が必要な地域に在住の学生のみ発行できます。福島交通バスなど JR 以外は学生支援課で申し込みします。
成績証明書	－
卒業見込証明書・ 修了見込証明書	「LC」の就職システムに志望調査登録をした最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
教育職員免許状 取得見込証明書	教員免許の資格希望を出している最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
健康診断証明書	保健管理センターで定期検診を受けた学類生、大学院生のみ。 また、異常が認められた学生には発行されません。

(2) 窓口で発行するもの

上記(1)以外の証明書については、教務課各学類係で交付しますので、教務課各学類係にご相談ください。なお、申し込みの翌日以降の発行となりますので、余裕をもって申し込んでください。

3. 休退学の願出

休学、退学を希望する事態が生じた場合は所定の手続きが必要となるので、速やかに教務課各学類係に相談してください。休学や退学の異動の場合は授業料の納入期と関わりが生じ、手続きの遅れが多大な経済的負担を生じる場合がありますので、次のことに留意ください。

(1) 授業料は年間2回に分け(前期・後期)その納入期限を前期は4月に、後期は10月に納入することになっています。納入方法は入学時に届け出た銀行等の口座より引き落としとなるので期日までに所定額を入金しておいてください。

(2) 休学や退学の事由が生じた場合、在籍している学期分の授業料は納入しなければならなくなるので留意してください。このため、9月及び3月時の学期末に生じた異動は速やかに教務課各学類係まで申し出る必要があります。

4. 改姓・改名の届出

改姓・改名をした場合は、教務課各学類係に申し出てください。

5. 窓口受付時間

窓口受付時間は、原則として下記の曜日・時間です。

曜日	月～金
受付時間	9:00～12:30
	13:30～17:00
	17:00～19:40 (夜間主生のみ対応)

【注意事項等】

特別の場合を除き、窓口時間外の受け付けは一切行いません。また、土曜・日曜・祝日・休日、入学試験当日及びその準備期間など、別途指定した期間においても窓口業務を行いません。

電話による質問や問合せは誤解や間違いを生じる可能性があるため原則対応しません。受付時間内に直接窓口で確認してください。また、外部からの学生呼び出し等連絡を依頼されても、応じられません。

掲示等について不明な点がある場合は、教務課窓口で確認してください。

3 0 . 關係規程等

関係規程等

○福島大学学則

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学学則」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○福島大学食農学類規程

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学食農学類規程」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○福島大学単位認定規程

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学単位認定規程」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○授業欠席に関する取り扱い

1. 次の各号の理由により授業を欠席する場合は、一定の様式に基づく届けを提出することにより福島大学単位認定規程第 3 条第 3 項に規定する欠席時数として算入しないこととする（但し、集中講義を除く）。
 - (1) 教育職員免許法上の必修科目である「教育実習」、「介護等体験」、児童福祉法上の必修科目である「保育実習」及び公認心理師法上の必修科目である「心理実習」、博物館法上の必修科目である「博物館実習」及び社会教育法上の必修科目である「社会教育実習」に参加する場合
 - (2) 学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合
 - (3) 裁判員制度による裁判員及び裁判員候補者に選任された場合
 - (4) 親族が死亡した場合で、葬儀その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のために通学ができないとき（※）
2. 上記の他に欠席時数として算入しない取り扱いとする場合は、全学教務協議会でこれを認定する。
3. 上記の理由により欠席した学生については、当該科目担当教員は単位の認定上不利益とならないよう代替措置を講じるものとする。
4. この取り扱いは平成 31 年度から適用する。
5. この取り扱いの制定に伴い、「『公欠』についての申し合わせ」は廃止する。
 - (※) 1. (4) の親族の範囲は、①配偶者、②一親等（父母、子）、③二親等（祖父母、兄弟姉妹、孫）とし、その期間は、親族の範囲が①、②の場合、連続 7 日間（休日を含む）の範囲内の期間、③の場合、連続 3 日間（休日を含む）の範囲内の期間とする。

○他大学等との単位互換実施基準

福島大学規則集のページに遷移後、「他大学等との単位互換実施基準」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○大学間相互単位互換に関する取扱規則

福島大学規則集のページに遷移後、「大学間相互単位互換に関する取扱規則」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項

(趣旨)

第1条 この要項は、英語の語学研修に係る学修の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(単位を認定する語学研修)

第2条 本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する語学研修は、次のとおりとする。

- 一 本学が実施する短期語学研修
- 二 その他前号に準ずる短期語学研修

(単位を認定する授業科目及び単位数等)

第3条 当該研修を修了した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。

2 前項により与えることのできる単位のうち自由選択領域科目または自由選択2単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。

3 単位は、福島大学単位認定規程（平成17年2月17日制定）に基づき、「N」で評価する。

(単位認定の申請期間)

第4条 単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に講座実施機関発行の修了書またはそれに代わるものを添えて次の期日までに提出しなければならない。

- 一 申請時期が前期 8月1日より1週間（1日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
- 二 申請時期が後期 1月10日より1週間（10日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

(単位の認定方法)

第5条 本学の教務委員は、次に掲げる条件を満たす場合において、単位を認定する。

- 一 事前・事後指導が行われていること
- 二 出発以前に所定の計画書を教務委員に提出し、承認を得ること

(単位の通知)

第6条 単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

○2019 年度入学生からの英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要
項

(趣旨)

第1条 この要項は、英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(単位を認定する外国語の語学研修)

第2条 本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する研修は、本学の各外国語責任教員が認めた当該言語圏の信頼すべき機関が開設するものとし、次のとおりとする。

- 一 授業時数20時間以上の外国語講座
- 二 授業時数20時間以上の文化講座

(単位を認定する授業科目及び単位数等)

第3条 当該研修を修了した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。

2 前項により与えることのできる単位のうち「基礎Ⅱ」「基礎(特設)Ⅱ」又は「応用ⅠⅡ」4単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。

3 単位は、福島大学単位認定規程(平成17年2月17日制定)に基づき、「N」で評価する。

(単位認定の申請期間)

第4条 単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に講座実施機関発行の修了書またはそれに代わるものを添えて次の期日までに提出しなければならない。ただし、卒業時期により、認定できない場合がある。

- 一 申請時期が前期(前期の単位として認定)
9月20日より1週間(20日が土・日・祝日の場合はその翌日とする)
- 二 申請時期が後期(後期の単位として認定)
3月20日より1週間(20日が土・日・祝日の場合はその翌日とする)

(単位の認定方法)

第5条 本学の各外国語責任教員は、次に掲げる条件を満たす場合において、単位を認定する。

- 一 事前指導を受けていること
- 二 当該外国語基礎Ⅰの単位を修得後に行った研修であること、又は当該外国語基礎Ⅰを履修中、正規試験期間終了後に行った研修であること。ただし、後者の場合、当該学期に当該外国語基礎Ⅰの単位を修得しなければならない。
- 三 出発以前に所定の計画書を責任教員に提出し、承認を得ていること
- 四 研修終了後、レポートを提出し、当該言語の責任教員の指導を受けていること

(単位の通知)

第6条 単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

○福島大学試験規則

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学試験規則」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○学生受験心得

(入室時間)

1. 毎試験開始 5 分前までに試験室に入ること。

(遅刻)

2. 30 分以上遅刻した者は、原則として入室を認めない。

(試験室)

3. 指定された試験室で受験しなければならない。

(学生証の携帯)

4. 必ず学生証を携帯して入室し、机上の見やすいところに置くこと。学生証を携帯しない者は、受験することができない。なお、身分証明書をもって学生証に代えることはできない。

(不用品の携帯禁止)

5. 別段の指示のない限り、受験に不用品を携帯してはならない。なお、携帯電話等は電源を切って指定の場所に置くこと。

(受験者の外出)

6. 受験中は監督者の許可がなければ試験室外に出てはならない。

(退室時間)

7. 試験開始後 30 分以上経過しなければ退室してはならない。

(試験時間終了前の答案提出)

8. 試験時間終了前に、答案を作成し終わったときは、答案を所定の場所に提出して退室すること。

(試験時間終了時の答案提出)

9. 試験時間が終了した時は、ただちに答案作成の作業をやめて答案を所定の場所に提出すること。受験者はいかなる場合も答案を試験室外に持ち出してはならない。

(不正行為)

10. 試験室内で不正と思われる行為があったと認められたときは、監督者の指示に従うこと。

(その他)

11. その他一切の疑問に関しては監督者の指示に従うこと。

12. 試験の妨げになるので、退室後の私語は慎むこと。

○不正行為に該当する行為について

次の行為は不正行為となります。留意してください。

1. カンニング（カンニングペーパーや参考書、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること等）をすること。
2. 持込みが許可されていない教科書、参考書、ノート、プリント、辞書、その他の資料等をポケット等に所持すること、又は机の中に入れておくこと。
3. 他人の代わりに受験すること、又は他人に自分の身代りとして受験させること。
4. 使用が許可された参考書等を試験中に貸借する行為。
5. 机や壁、身体等に不正な書き込みをすること。
6. 試験時間中に答えを教えるなどの他の受験者を利するような行為をすること。
7. 他人の答案用紙と交換すること。
8. 私語や動作等によって不正な連絡をすること。
9. 携帯電話、パソコン、電子辞書、その他情報通信機器を使用すること。
10. 試験室において、試験監督者等の指示に従わず他の受験者の迷惑となる行為をすること。
11. その他、試験の公平性を損なう行為。

不正行為と認定された場合は、不正行為のあった日から1か月以内の停学処分となり、そのセメスターにおける総ての履修登録科目が取り消されます。

○福島大学試験規則に基づき「病気その他やむを得ない事情」として認めることがある場合の運用について

1. 福島大学試験規則第7条第1項にいう「病気その他やむを得ない事情」として審査を行う場合は、この運用により行うものとする。
2. 「病気その他やむを得ない事情」とは、次の事項をいう。追試験受験を希望する者は、所定の追試験受験願に欠席の理由を証明できる証明書等を添えて学類が指定する期間に提出しなければならない。なお、追試験の受験を願い出てきた者の審査は、副学長が行う。
 - 一 本人の病気や怪我（世帯主もしくは配偶者のある者にあつては、一親等内の病気や怪我を含む。）
 - 二 配偶者又は三親等内の親族の病気又は怪我で、看護を要するとき。
 - 三 配偶者又は三親等内の親族の死亡による忌引き
 - 四 天災その他の非常災害
 - 五 交通機関の突発事故
（電車、バス等の公的機関に限る。）（ただし証明書を取得することが困難な事情にあった者で、審査者が面談等により当該交通機関を利用していたものと認めた者を含む。）

- 六 会社説明会及び就職試験出席（試験地への移動日を含む。）
- 七 社会人については、やむを得ない残業又は出張
- 八 妊娠・出産
- 九 大学が単位認定を行う学外の研修に参加する場合
- 十 公的機関が行う海外派遣事業に、部局長の承認を得て参加した場合
- 十一 日本学生陸上競技対校選手権大会等、国民体育大会以上の大会に出場した場合
- 十二 裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
- 十三 その他適当と認められる特別の理由

○福島大学食農学類卒業論文取扱要綱

制定 令和 3 年 7 月 1 4 日 教員会議

改正 令和 3 年 9 月 8 日 教員会議

第 1 条（趣旨）

1. この要綱は、福島大学食農学類規程第 2 4 条に基づき、福島大学食農学類の授業科目である「卒業論文」に関する必要な事項を定める。
2. 本要綱における「卒業論文」は授業科目を指し、卒業論文は学生が執筆する文書を指す。

第 2 条（卒業論文の提出資格）

1. 卒業論文を提出することのできる者は、卒業研究科目のうち、「卒業研究基礎演習」および「卒業研究演習Ⅰ」を履修し、「卒業研究演習Ⅱ」を履修または履修登録するとともに「卒業論文」を履修登録した者とする。

第 3 条（卒業論文の提出期日）

1. 卒業論文の提出期日は「卒業論文提出期日告示様式」により告示する。
2. 前条に掲げる者が卒業論文を提出するときは、第 1 項により告示された期日までに担当窓口に出しつけなければならない。
3. 提出された卒業論文に対し、提出後に指導教員から修正を求める場合がある。
4. 前項により修正された卒業論文の提出期日は第 3 条の 1 の「卒業論文提出期日告示様式」により告示する。

第 4 条（提出様式）

1. 卒業論文は単独執筆とする。
2. 卒業論文の提出様式は、各コースの卒業論文に関する申し合わせ「以下「卒業論文に関する申し合わせ」という。」で定める。

第 5 条（発表会）

1. 卒業論文を提出した者は卒業論文発表会においてその内容を発表し、審査を受ける。
2. 卒業論文発表会は「卒業論文発表会実施要領」に基づいて実施する。

第 6 条（卒業論文の評価）

1. 「卒業論文」の成績の評価は、学則第 15 条の 2 に基づくものとする。
2. 「卒業論文」の成績は、第 3 条の 2 により提出された卒業論文または第 3 条の 3 により修正された卒業論文、および卒業論文発表会の内容を評価対象とする。
3. 評価方法は、「卒業論文に関する申し合わせ」で定める。

第 7 条（卒業論文の取り扱い）

1. 提出された卒業論文の取り扱いは、「卒業論文に関する申し合わせ」で定める。
2. 卒業論文に秘密情報が含まれる場合は「福島大学の研究活動における秘密情報の管理に関する規程」に従う。

附 則

この要綱は令和 3 年 10 月 1 日から施行する

3 1 . 各種問い合わせ窓口 ・ 福島

大学案内図

各種問い合わせ窓口について（学生関係窓口を中心に）

問い合わせ内容		担当窓口
身上 関係	学生証の紛失・破損による再発行	<教務課> 人間発達文化学類係： TEL 024-548-8106 mail: k-ningen@adb.fukushima-u.ac.jp
	休学、退学、改姓・改名、転学類の手続き	
教務 関係	履修基準や専門領域科目の履修についての相談	共生システム理工学類係： TEL 024-548-8357 mail: k-rikou@adb.fukushima-u.ac.jp
	試験について	行政政策学類係： TEL 024-548-8255 mail: kyoumu2@adb.fukushima-u.ac.jp
	教員免許、公認心理師ほか資格関係	経済経営学類係： TEL 024-548-8356 mail: k-keizai@adb.fukushima-u.ac.jp
	教育職員免許状取得見込証明書・英文の証明書等	食農学類係： TEL 024-549-0061 mail: k-syokunou@adb.fukushima-u.ac.jp
	「地域×データ」実践教育プログラムなど 特修プログラムの履修について	<教務課> 教務情報係： TEL 024-548-4070 mail: kyomujoho@adb.fukushima-u.ac.jp
	ライブキャンパス（LC） （住所・電話番号の変更など学籍情報の登録や、履修登録の方法等）、学修ポートフォリオ、証明書自動発行機	<教務課> 基盤教育係： TEL 024-548-8057 mail: kyotu@adb.fukushima-u.ac.jp
	S棟・M棟・L棟の教室を借りたい場合	<教務課> 教務企画係： TEL 024-548-8053 mail: k-kikaku@adb.fukushima-u.ac.jp
	接続領域科目や教養領域科目、問題探究領域科目について	
	科目等履修生、研究生等について	<学生支援課> TEL 024-548-8054 mail: gakusei-kagai@adb.fukushima-u.ac.jp
	単位互換について	
福利 厚生 ・ 学生 生活 ・ その他	就職・進路（企業求人、公務員・教員採用試験等）についての相談	<キャリアセンター> TEL 024-548-8108 mail: shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp
	アルバイトに関すること	
	学生が自主的に参加する就業体験やインターンシップ等について	
	学内での忘れ物・落とし物	<学生支援課> TEL 024-548-8054 mail: gakusei-kagai@adb.fukushima-u.ac.jp
	サークル活動で施設を借りたい場合	

福利 厚生 ・ 学生 生活 ・ その他	奨学生及び奨学金についての相談	<学生支援課> TEL 024-548-8060 mail: gakusei-s@adb.fukushima-u.ac.jp
	入学料・授業料の免除・徴収猶予について	
	授業料の納入について	<会計課> TEL 024-548-8015
	救急措置、健康についての診断・相談	<保健管理センター> TEL 024-548-8068 mail: hcc-admin@adb.fukushima-u.ac.jp
	学生生活上の様々な悩み事などの相談	<学生総合相談室> TEL 024-548-5156 mail: g-soudan@ipc.fukushima-u.ac.jp
	障がいのある学生の支援について	<アクセシビリティ支援室> TEL 024-503-3258 mail: a-shien@ipc.fukushima-u.ac.jp
	教育研究災害傷害保険等について	<福大生協> TEL 024-548-5141
	BYOD について	mail: byod@adb.fukushima-u.ac.jp
	センターアカウント、センターウェブメール、学内ネットワークについて	<情報基盤センター> TEL 024-548-8018 mail: ipc-office@adb.fukushima-u.ac.jp
留学・ 国際交流	留学や国際交流活動についての相談 外国人留学生の生活全般や在留資格等に関する相談	<国際交流センター> TEL 024-503-3066 024-503-3067 mail: ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

【場所】

教務課は S 棟 2 F、学生支援課、国際交流センターは S 棟 1 F、キャリアセンターは S 棟 3 F、会計課は事務局棟 2 F、保健管理センターは事務局棟裏、フクニチャージ図書館（附属図書館）、情報基盤センターは S 棟 M 棟の北側、学生総合相談室・アクセシビリティ支援室は大学会館 2 F、福大生協は大学会館 1 F にあります。

（各建物の配置はキャンパスマップを参照してください。）

【教務 Q&A】

授業やカリキュラム、資格や卒業などの質問&回答、用語や制度の説明は以下のサイトに Q&A 形式で掲載されています。必ず一度は目を通しておいください。

詳細は教務課 H P 内↓で確認できます。

（ https://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/g_qa.html ）

（注意）メールでの問い合わせの際は、必ず「用件（簡潔に）」「所属学類・研究科」「学籍番号」「氏名」を明記の上、お問い合わせください。要件を満たさないものは「迷惑メール」扱いで返信等はいりません。

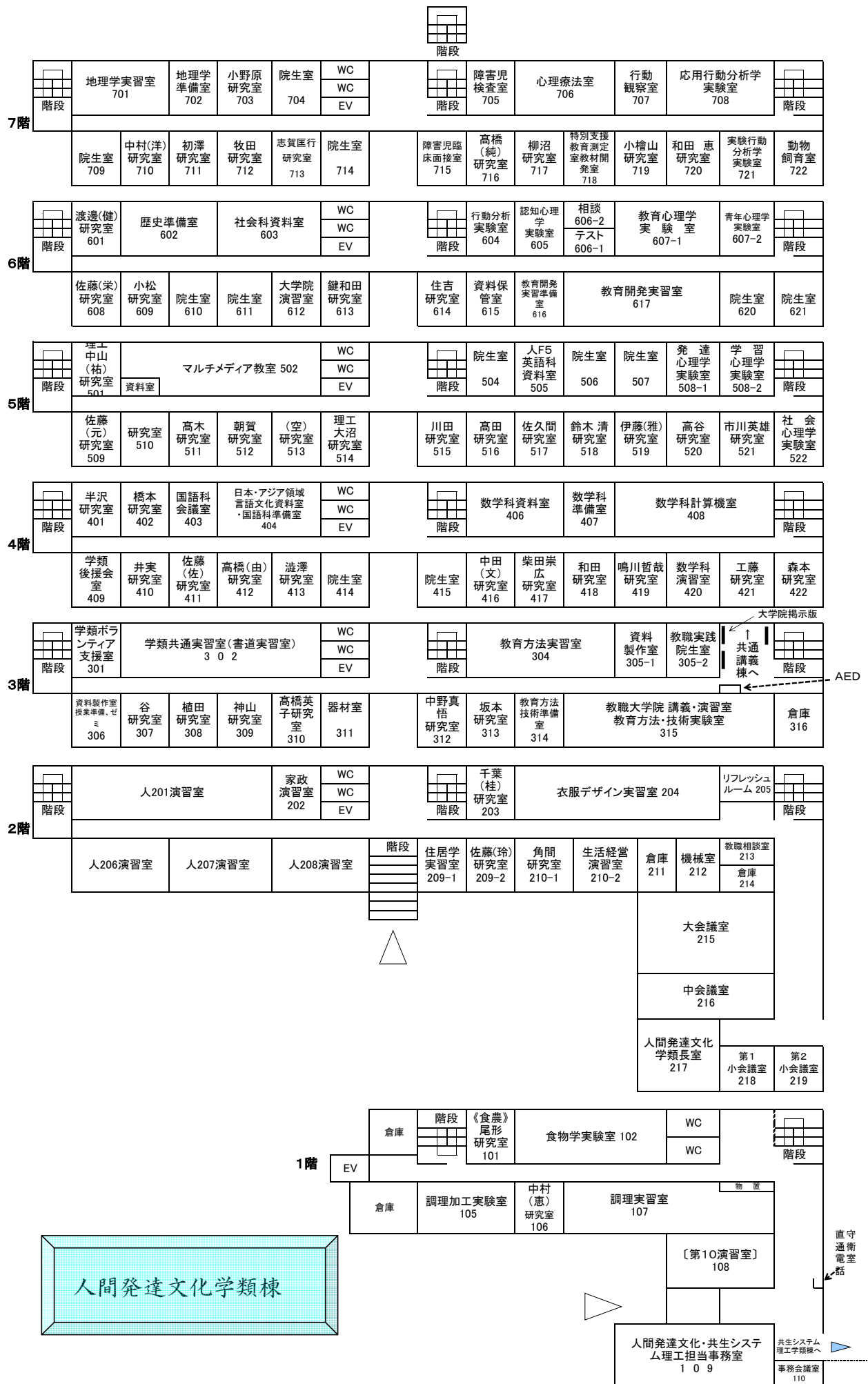
キャンパスマップ

自然に囲まれたキャンパス 自然とともに学ぶ

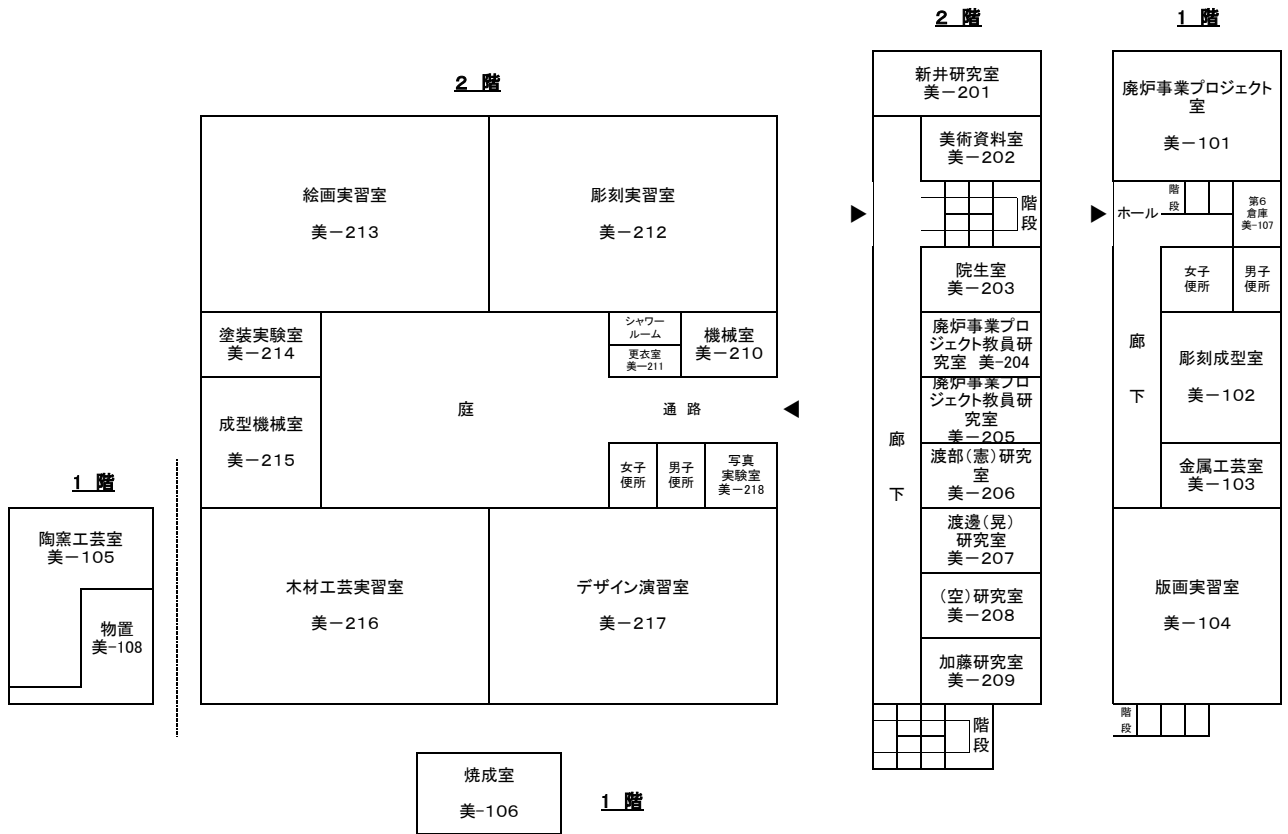
5学類・4研究科が1つのキャンパスで学んでいます。



★福島大学は、福島日産自動車株式会社とネーミングライツ・パートナー契約を締結し、附属図書館の愛称を「フクニチャージ図書館」としています。



美術棟

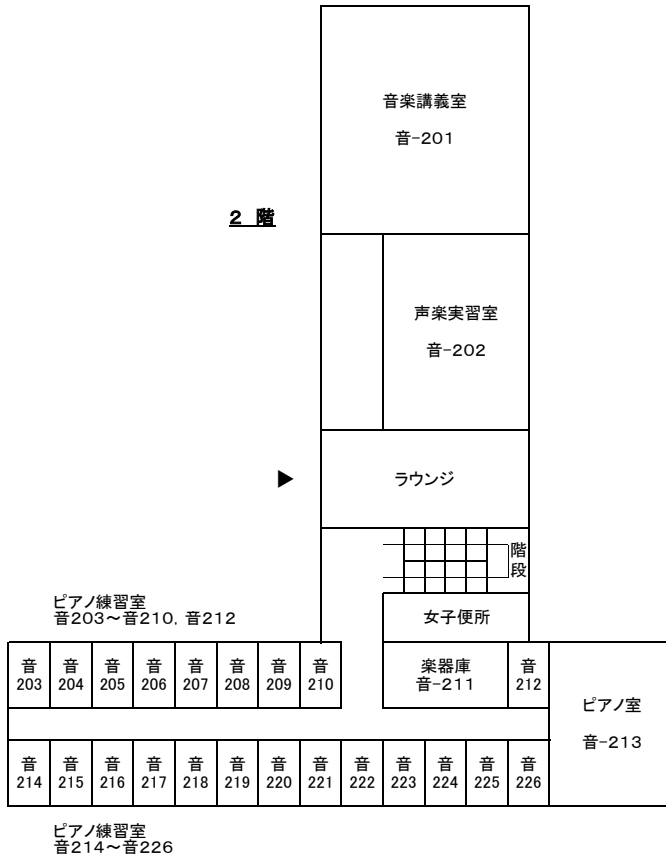


保健体育棟

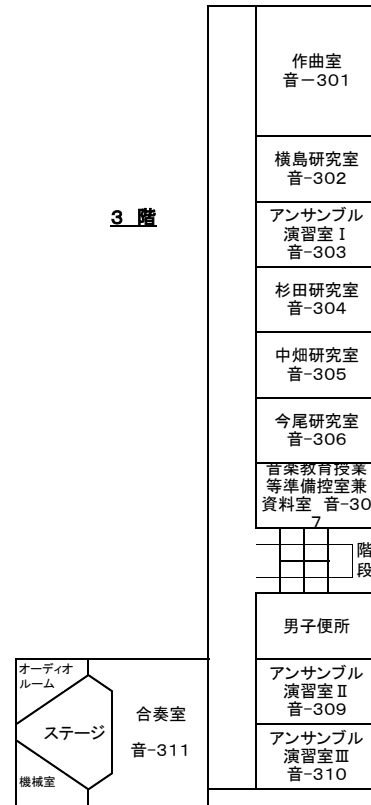


音楽棟

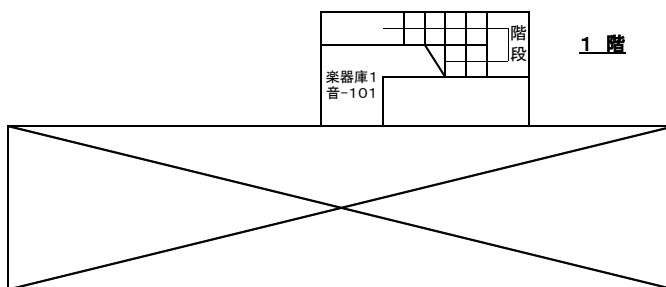
2 階



3 階



1 階



行政政策学類棟

8階

浦谷 研究室 801	金井 研究室 802	(食農)福島(慶) 研究室 803	山崎 研究室 804	研究室 805	福島(雄) 研究室 806	法令 資料室 807	ホール	WC (女/男) エレベーター	(食農)石井 研究室 808	高橋(有) 研究室 809	小規模 自治体 研究所 810
非常階段	垣見 研究室 811	研究室 812	(食農)研究室 813	阪本 研究室 814	鈴木(め) 研究室 815	中里 研究室 816	合同研究室 817	階段	研究室 818	研究室 819	研究室 820

7階

西田 研究室 701	尹 研究室 702	岸見 研究室 703	岩崎 研究室 704	大黒 研究室 705	廣本 研究室 706	村上 研究室 707	ホール	WC (男) エレベーター	黒崎 研究室 708	比較文化 情報 資料室 709	研究室 710
非常階段	佐々木 研究室 711	被災文化財等 保全プロジェクト	行政情報 資料室 713	荒木田 研究室 714	田村 研究室 715	湯川村城 学連携 プロジェクト 716	合同研究室 717	階段	久我 研究室 718	F-RE!まちづく り研究室	照沼 研究室 720

6階

院生研究室 601	院生研究室 602	603	院生印刷室 615	ホール	WC (女) エレベーター	金敬雄 研究室 604	真歩仁 研究室 605	鈴木(典) 研究室 606
非常階段	(食農)望月 研究室 607	小田 研究室 608	今西 研究室 609	蓬萊団地の まちづくり 活動 610	社会福祉・社会調査 実習室 611	612	合同研究室 613	(食農)大瀬 研究室 614

5階

	高橋(準) 研究室 501	研究室 502	石川 研究室 503	阿部 研究室 504	歴史 資料室 505	行政社会 学会室	倉庫1	ホール	WC (男) エレベーター	考古学 実習室 509	菊地 研究室 510
非常階段	浅野 研究室 511	徳竹 研究室 512	(食農)窪田 研究室 513	古文書学・博物館 実習準備室 514	古文書学・博物館 実習室 515	社会教育地域社会 実習室 516			(食農)神宮宇 研究室 517	行518 演習室	

4階

	行401 演習室	行402 演習室	行403 演習室	行404 演習室	ホール	WC (女)	行405 演習室	
						エレベーター		
非常階段	行406 演習室	行407 演習室	行408 演習室	行409 演習室		階段	行410 演習室	行411 演習室

3階

	行301 演習室		行302 演習室		行303 演習室		WC (女)	ホール	WC (男)	中会議室
									エレベーター	
非常階段	貴重資料 保管室 308	行309 演習室	行310 演習室		視聴覚室				階段	312
					行314 演習室		行315 社会情報室	演習室(旧:復興知事務室) 316	行317 演習室	

2階

学類長室		非常勤 講師控室 (資料室)	応接室	玄関	WC (女) (男)		教員 印刷室	教員控室	経済学類棟 へ	
				エレベーター						
非常階段	学生談話室			ポレ ツ ク ス ト	階段		機械室	学生印刷室		
								会議準備室		
								大会議室		
行211演習室										

1階

電気設備室		倉庫4	WC (男)		WC (障害者用)	小会議室	職員休憩室	
考古学資料 撮影分析室			エレベーター					
機械設備室		倉庫2	階段					
					倉庫3	文書庫		
		行112演習室		特別研究教育室(法廷教室)				
		行113演習室						

経済学類棟へ

経済学類棟へ

経済学類棟へ

令和8年4月1日

※耐震改修工事(平成26年度完了)により空調はGHP(ガスヒートポンプ)、820、821、822、116、210はEHP(電気モーターヒートポンプ)

8階

7階

6階

5階

4階 ◀

行政政策学類棟へ

3階 ◀

行政政策学類棟へ

2階

行政政策学類棟へ

▼ [共通講義棟へ](#)

1 階

共生システム理工学類棟

9階

天文台
理 901

8階

気象観測室 801
EV機械室 802

階段

階段	学類共通実験室 701	唐島田龍之介 研究室 702	学類 実験室(1) 703	学類 実験室(2) 704	鈴木昭夫 研究室 705	W C W C エレベーター	階段	プロジェクト 室 706	プロジェクト 室 707	都市計画 演習室 708	川崎興太 研究室 709	杉森大助 研究室 710	寛 宗徳 研究室 711	生産・サービ スシステム 演習室1 712	階段
7階	713	714	理科教育学 実験室 715	理科教育学 演習室 716	平中宏典 研究室 717	プロジェクト室 718	生産・サービ スシステム 研究室2 719	植物生態学 演習室 720	水澤玲子 研究室 721	植物生態学 実験室 722	都市計画研究室 723	724	生物工学研究室 725		

6階

	心理学第2 実験室	実験心理学 研究室	地質学 第1研究室	生物圏 環境解析 第1研究室	堀 忠顕 研究室	生物圏 環境解析 第3研究室	W C W C エレベーター		兼子伸吾 研究室	環境経済シ ステム研究 室2	内海哲史 研究室	高原 円 研究室	西嶋大輔 研究室	環境経済シ ステム研究 室1	精神生理学 実験室	
階段	601	602	603	604	605	606		階段	607	608	609	610	611	612	613	階段

筒井雄二研究室	長橋良隆研究室	電子顕微鏡 ・蛍光X線 分析室	地質学 第2研究室	透過型電 子 顕微鏡室	生物圏 環境解析 第2研究室	保全生態学実験室	ネットワーク工学 実験室	精神生理学 研究室	理622演習室
614	615	616	617	618-3・618-4	618-1・618-2	619	620	621	622

階段	数理学第2研究室 501	中川和重 研究室 502	藤本勝成 研究室 503	笠井博則 研究室 504	505	W C W C エレベーター	階段	石川友保 研究室 506	物流システ ム 研究室 507	508	三浦一之 研究室 509	大沼亮 研究室 510	中山祐貴 研究室 511	中村勝一 研究室 512	階段
5階	数理学研究室 513					アルゴリズム研 究室 知識情報システ ム研究者 514	アルゴリズム研究室 知識情報システム研究室 515	データ工学研究室 インタラクション工学研究室 516	データ工学研究 室 インタラクション 工学 517						

階段	生田博将研究室 401	理402 演習室 402	理403演習室 403	サリム ザ ビル研究室 404	W C W C エレベーター	階段	ユビキタスインテリジェ ンス 研究室 405	技術経営戦略演習室 406	システムシミュ レーション 研究室1 407	システムシミュ レーション 研究室2 408	システムシミュ レーション 研究室3 409	階段
4階	生田博将実験室 410	山口克彦 研究室 411	物性物理学研究室 412	物質科学研究室 413	長谷川真吾 研究室 414	情報セキュリティ研究室 415	石岡 賢 研究室 416	技術経営戦略 研究室 417	樋口良之研究室 417			

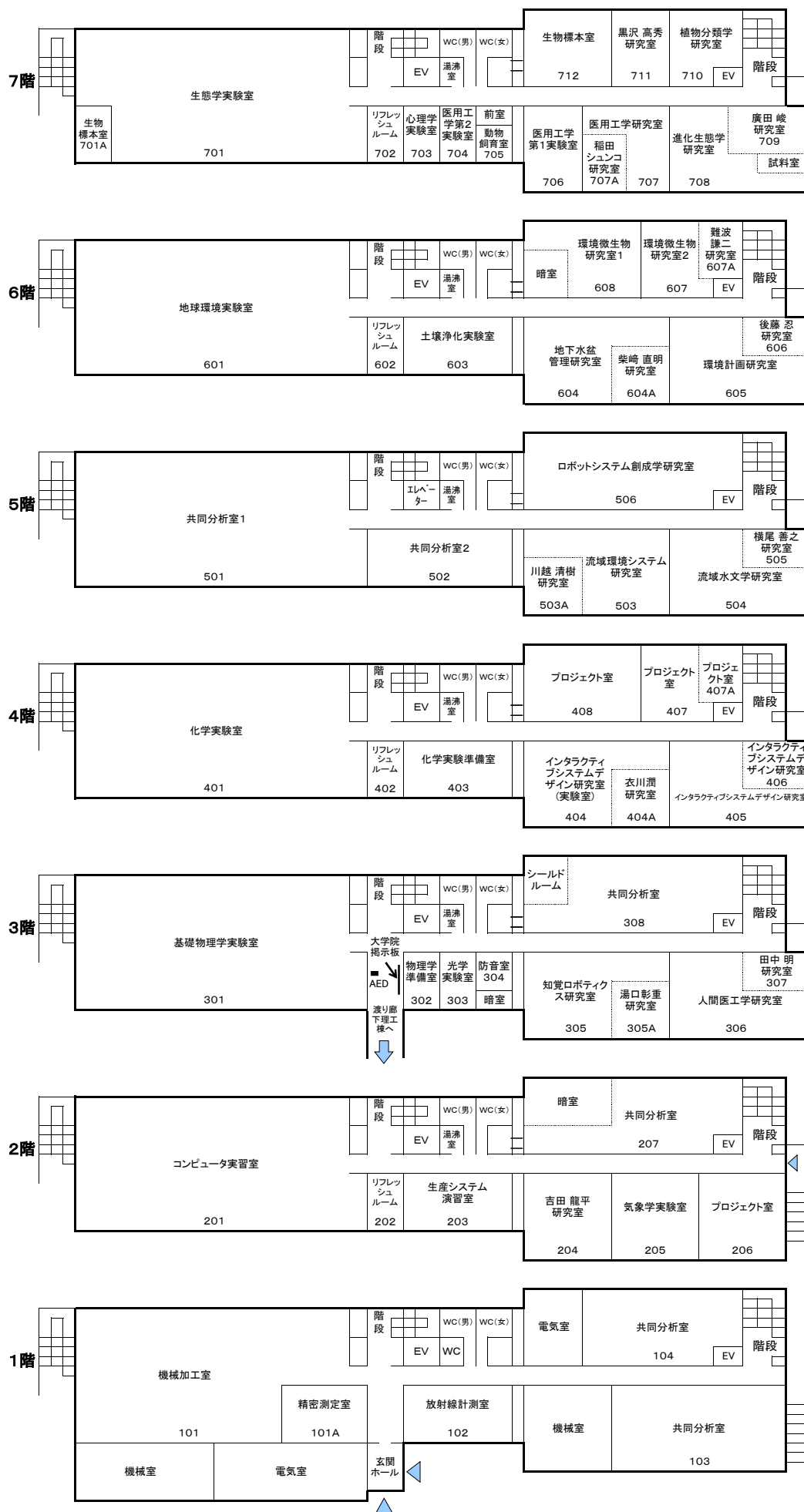
3階

階段	化学系学生 居室 301	高見慶隆 研究室 302-1	薬品 保管庫 303	先進材料工学・ 表面反応化学 第1実験室 304	大橋弘範 研究室 305	W C W C エレベーター	階段	先進材料工学研究室／表 面反応科学研究室 306	中村和正 研究室 307	先進材料工学・表面反応化学第2実験室 308	階段
理工後援会・ きびたき会 309	大山 大 研究室 310	分析化学 研究室 311	物質創成・分析化学実験室 312		物質創成 研究室 313	測定室 314	リフレッシュ ルーム 315	無機化学研究室 316	猪俣慎二 研究室 317	高安 徹 研究室 318-1・2	有機化学研究室 319

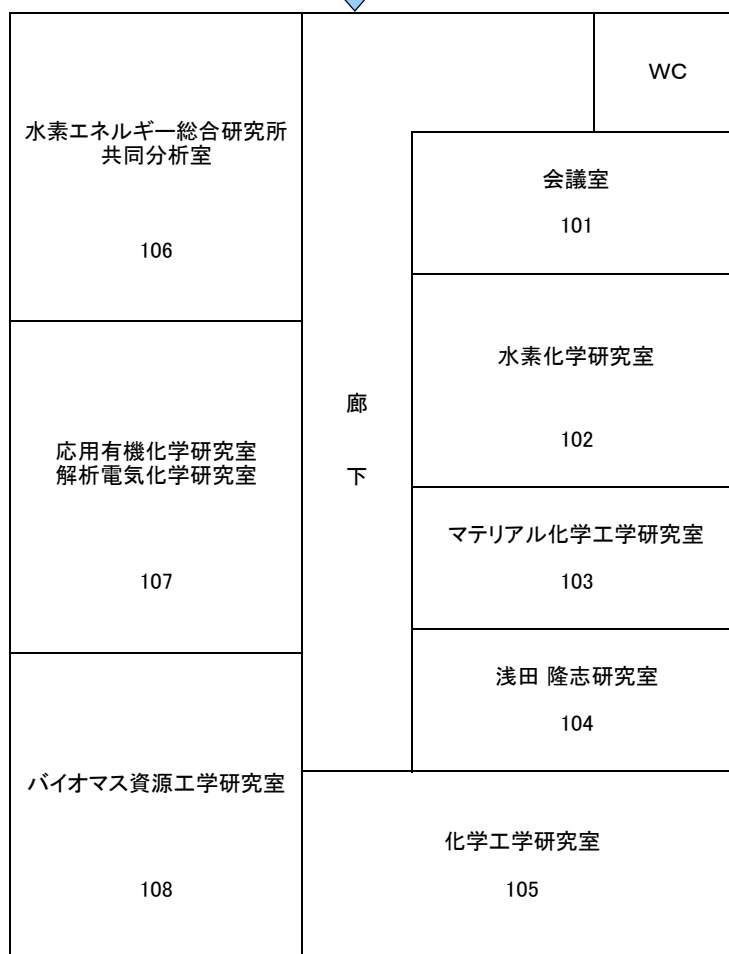
階段	共生システム理工学類 学類長室 201	島田邦雄 研究室 202	流体システム 工学研究室1 203	流体システム工学研究室2 204	W C W C エレベーター	階段	流体システム 工学研究室3 205	馬場一晴 研究室 206	理工 小会議室 207	インキュー ベーション ルーム 208	インキュー ベーション ルーム 209	プロジェク ト 室 210	プロジェク ト 室 211	階段
2階	理工大会議室 212				董 彦文 研究室 213	管理情報システム工学 研究室 214	宇宙論研究室 215	情野環 研究室 216	メカトロニクス研究室 217-1	高橋隆行研究室 217-2				

階段	理101演習室 101	理102演習室 102	理103演習室 103	WC WC エレベーター	階段		
1階	人文棟へ						
教員控室 104	印刷室 105	岩村振一郎 研究室 106	大樂武範 研究室 107	諸岡哲朗 研究室 108	倉庫 111 女子職員休憩室 109	サハール室 112 男子職員休憩室 110	リフレッシュ ルーム 113

共生システム理工学類 研究実験棟

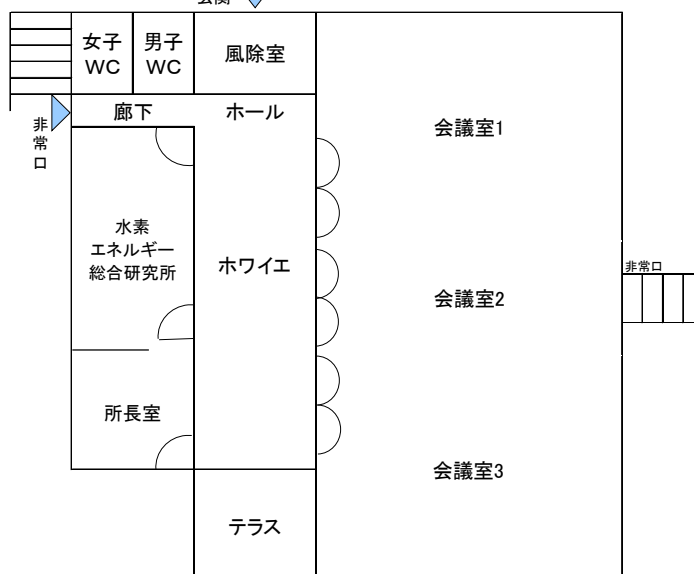


理工共通棟

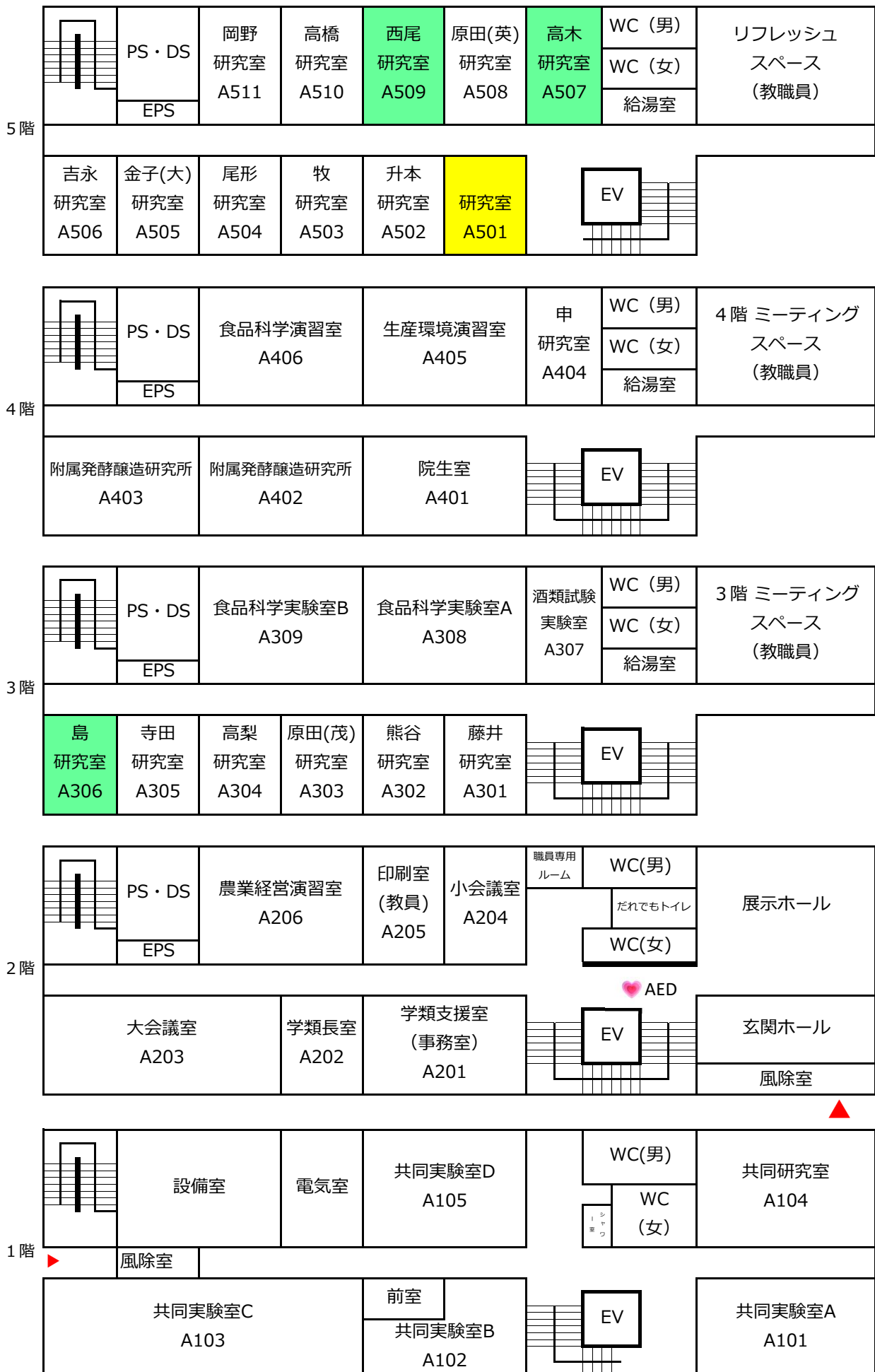


募金記念棟

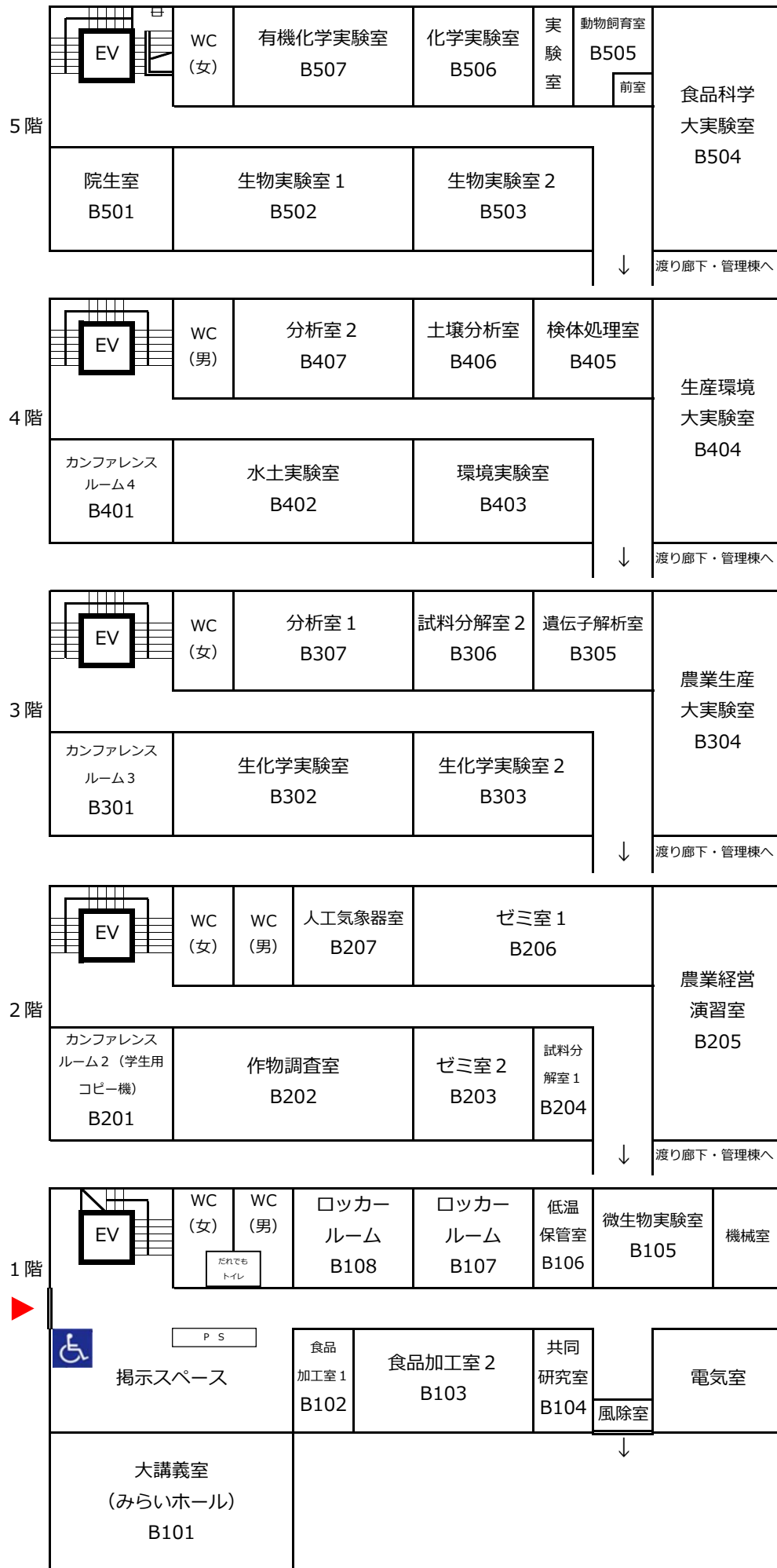
玄関



食農学類管理棟 (A部屋番号)

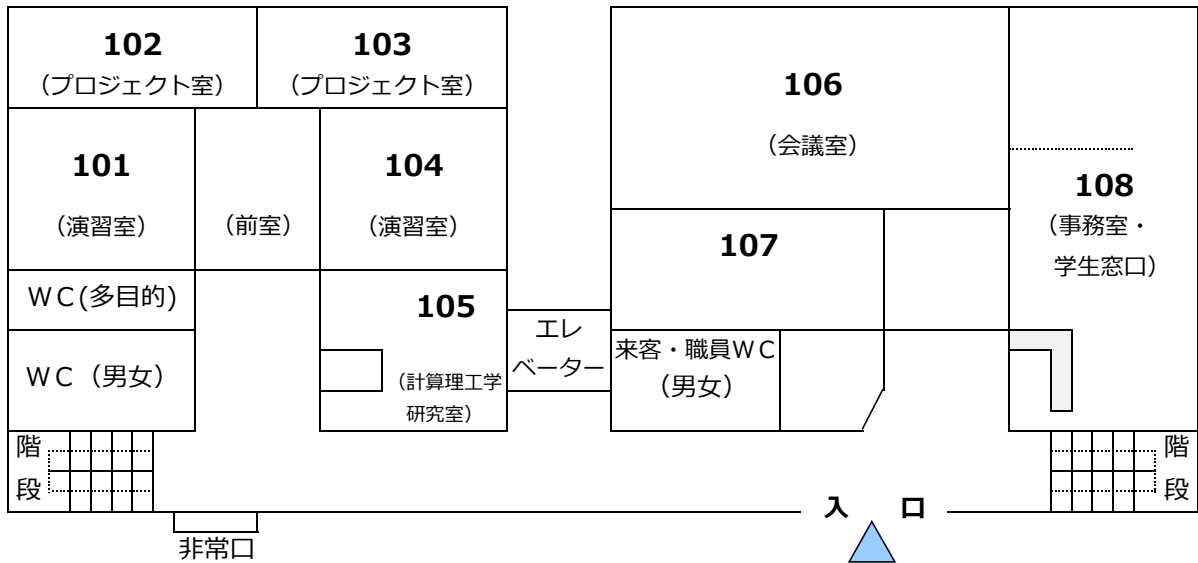


食農学類研究棟 (B 部屋番号)

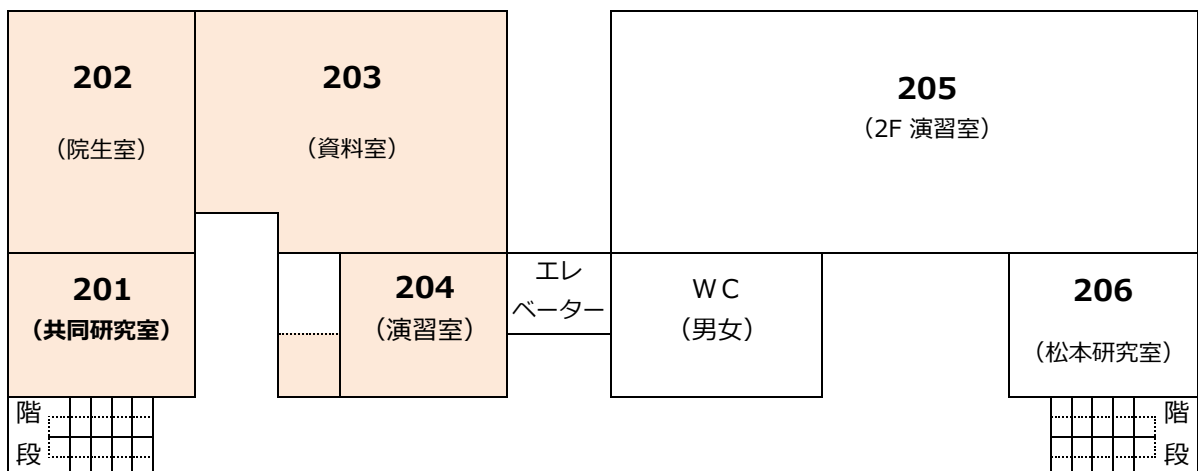


情報基盤センター配置図

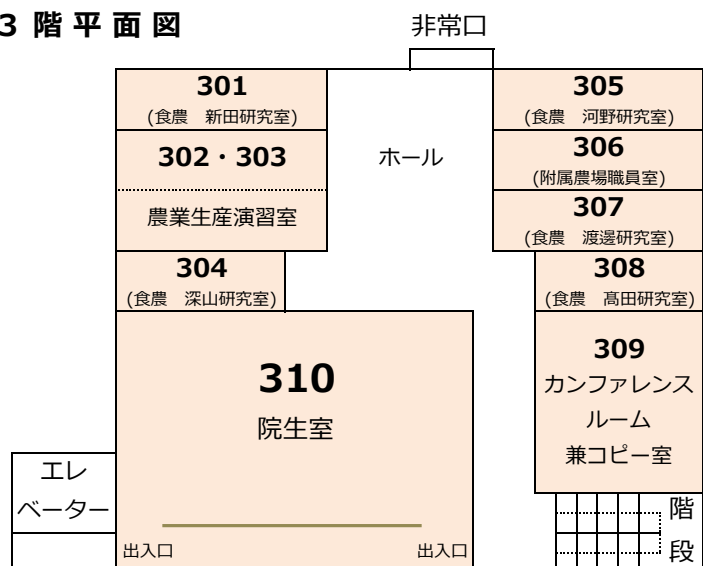
1 階平面図



2 階平面図

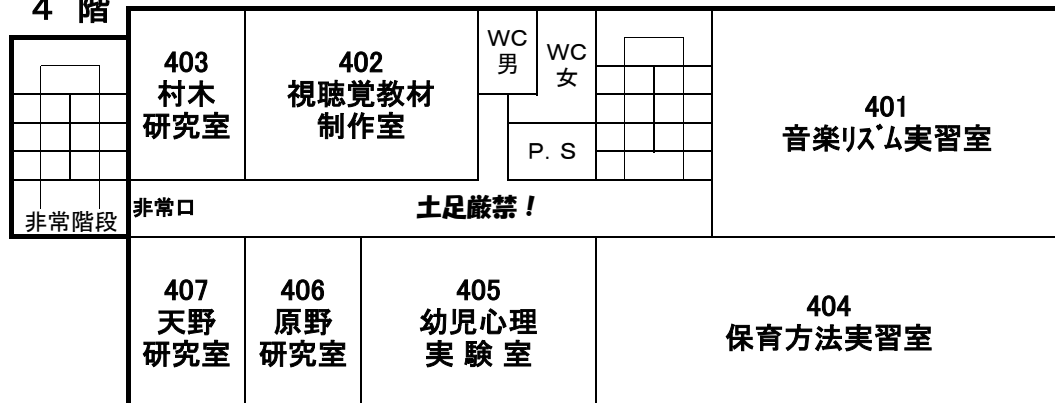


3 階平面図

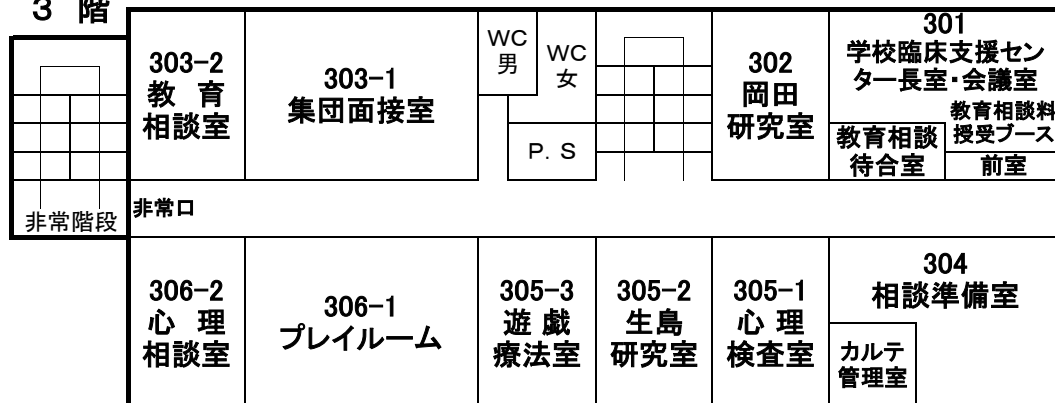


学校臨床支援センター棟 / 地域未来デザインセンター棟配置図

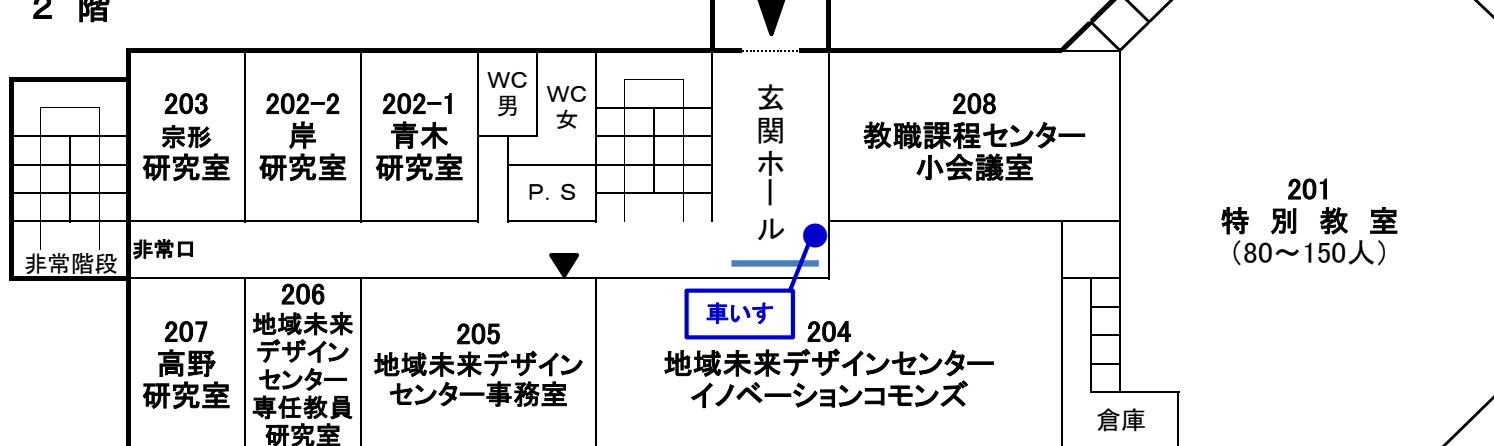
4 階



3 階



2 階



1 階

